

三者連携推進のための研修会・訓練 実施報告

(1) 目的

行政と NPO・ボランティア等の三者連携を推進するためには、行政、社会福祉協議会、NPO 向けの研修が効果的と考えられる。このため、平成 29 年度に制作した「防災における行政の NPO・ボランティア等との連携・協働ガイドブック～三者連携を目指して～」を使用し、行政と NPO・ボランティア等との連携・協働の在り方等についての研修会を実施するものとする。

(2) 実施地域・時期

実施地域	開催時期
奈良県	令和元年 8 月 26 日 (月) 奈良県産業会館 大会議室 (奈良県大和高田市幸町 2-33)
愛媛県	令和元年 9 月 28 日 (土) 松山市保健所・消防合同庁舎 6 階防災大会議室 (松山市萱町 6-30-5)
滋賀県	令和元年 11 月 21 日 (木) 滋賀県危機管理センター 災害対策室 5-9
神奈川県	令和元年 12 月 3 日 (火) かながわ県民サポートセンター (横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2)
佐賀県	令和 2 年 2 月 7 日 (金) ホテル ブライダルスクエア ザ・ゼニス (佐賀県佐賀市本庄町大字袋 384-1)
岩手県	令和 2 年 2 月 13 日 (木) マリオス盛岡地域交流センター (岩手県盛岡市盛岡駅西通 1 丁目 7-1)
※徳島県	令和 2 年 3 月 4 日 (木)― 徳島県教育会館 5 階小ホール (徳島市北田宮 1 丁目 8 番 6-8 号)―

※徳島県は、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため延期。

(3) 参加者数

	行政	社協	NPO 等	関係者	合計
奈良県	37	30	58	29	154
愛媛県	43	3	35	22	103
滋賀県	21	11	14	23	69
神奈川県	37	28	80	20	165
佐賀県	32	22	30	19	103
岩手県	22	13	16	14	65
徳島県	-	-	-	-	-

(4) 取り組み状況・実施のねらい

	取り組み状況・実施のねらい
奈良県	市町村での災害 VC マニュアル作成を三者連携で進めていくこと
愛媛県	松山市で三者連携を進めていくこと
滋賀県	市町村での三者連携を進めていくこと
神奈川県	様々な NPO や防災の担い手のネットワークづくりを進めていくこと
佐賀県	昨年豪雨対応を踏まえて、市町村での三者連携を進めていくこと
岩手県	昨年豪雨対応、他地域の対応を踏まえて、市町村での三者連携を進めていくこと
徳島県	市町村での三者連携を進めていくこと

2. ワークショップの内容

	内容
奈良県	①被災者の困りごと整理 ②対応検討 ③調整が必要な事項に対する検討 ④平時の取組検討
愛媛県	①被災者の困りごと整理 ②対応検討 ③単一団体で対応が難しい困りごと整理 ④平時の取組検討
滋賀県	①被災者の困りごと整理 ②対応検討 ③平時の取組検討
神奈川県	①応急期の被災者の困りごと整理 ②対応検討 ③復旧・復興期の困りごと整理 ④対応検討 ⑤平時の取組検討
佐賀県	①被災者の困りごと整理 ②対応検討 ③望ましい対応検討 ④平時の取組検討
岩手県	①被災者の困りごと整理 ②自団体の動き(発災～1週間) ③各団体の動き確認 ④望ましい支援のあり方検討
徳島県	

3. 研修の考察

	考察
奈良県	<ul style="list-style-type: none"> ・「③調整が必要な事項に対する検討」はグループによって積極的な意見交換ができないところもあった。 ・研修の成果を踏まえて、関係者で協議し、令和2年3月に「奈良防災プラットフォーム連絡会災害時対応マニュアル」を整備する。
愛媛県	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年7月豪雨の対応を振り返る機会になった。 ・円滑にワークを進めることができた。高校生の参加によりグループの意見交換が盛り上がった。 ・研修を実施するにあたり、松山市の行政・社協・NPO等の関係者で顔合わせをする機会を設けることができた。 ・研修実施が具体的な災害時の三者連携の検討のきっかけとなった。
滋賀県	<ul style="list-style-type: none"> ・他の地域に比べて参加者が少なかった（継続的な研修やワーク開催が期待される）。 ・ワークでは具体的な検討を行うことで、三者連携の必要性を理解する機会となった。
神奈川県	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なNPOや市民活動団体が参加する機会となり、今後のネットワーク拡充のきっかけになった。 ・円滑にワークを進めることができ、参加者同士が相互に情報交換する機会となった。 ・NPO主催で、研修の資料を活用した勉強会が開催された。 ・令和2年4月には、NPO主催で災害時の対応を検討する訓練を実施することになった。
佐賀県	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀豪雨の対応を振り返る機会となった。 ・九州各県のNPO支援センターが中心となり、九州での災害対応のネットワークづくりの必要性を確認する機会となった（令和2年4月には、熊本県内で九州のネットワークづくりをテーマにしたシンポジウムも予定）。 ・災害がなかった市町に対して、三者連携の検討のきっかけとなった。
岩手県	<ul style="list-style-type: none"> ・研修前日にNPO主催の研修会があったことで、2日間連続の参加が少なかった。 ・円滑にワークを進めることができ、行政・社協・NPO等の相互理解が深まった。 ・研修で実施したワークショップを令和2年度も岩手県が主催する研修等で実施する予定。
徳島県	

2. 各県実施概要

2-1. 奈良県

(1) プログラム概要

開会 (10:00~10:10)

石垣 和子氏 (内閣府政策統括官 (防災担当) 付企画官 (普及啓発・連携担当))
梶田 斉志氏 (奈良県 暮らし創造部長)

講演「全国における三者連携の現状」 (10:10~10:25)

石垣 和子氏 (内閣府 政策統括官 (防災担当) 付企画官 (普及啓発・連携担当))

基調講演「三者連携の必要性」 (10:25~10:55)

栗田 暢之氏 (全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) 代表理事)

パネルディスカッション「災害時の事例からみた三者連携」 (10:55~11:40)

パネリスト

大橋 俊文氏 (倉敷市役所 企画財政局 企画財政部 企画経営室 主幹)

安原 恭子氏 (倉敷市社会福祉協議会 常務理事)

詩叶 純子氏 (岡山 NPO センター/災害支援ネットワークおかやま事務局)

コーディネーター

明城 徹也氏 (全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) 事務局長)

奈良県報告 (12:40~13:00)

(1) 奈良県の防災の取組み

中西 秀人氏 (総務部知事公室次長 (防災統括室長事務取扱))

(2) 災害ボランティア受援体制整備事業

鈴木 ふみ恵氏 (暮らし創造部青少年・社会活動推進課協働推進係長)

ワークショップ (13:00~15:50)

杉村 郁雄氏 (日本ファシリテーション協会 災害復興支援室)

閉会 (15:50~16:00)

石垣 和子氏 (内閣府政策統括官 (防災担当) 付企画官 (普及啓発・連携担当))

中 幸司氏 (奈良県社会福祉協議会 常務理事)

(2) 講評 (抜粋)

【1. JVOAD 代表理事 栗田氏】

- ・ さまざまな連携に向けた取組が進められている。やはり連携という言葉が常に出てきたが、連携という言葉ほど曖昧な言葉はない。具体的にどうするかということをしっかり詰めておかないと、連携という意味合いが非常に薄くなってしまう。
- ・ 相手のことをよく知る。得手不得手を知ることが平常時にできる最大の連携だと思う。そのためにはこういう研修会などを通じて顔の見える関係を築いていく。顔の見える関係にとどまらず、心が通じ合う関係になると良い。

【2. 内閣府 向井所氏】

- ・ 顔の見える関係とあったが、マニュアルでもっと具体的な部分まで落とし込んでいただきたい。何部の何課が担当するのか、といったところまで。NPO にお願ひするにしても、それはどこですかという点が問題になる。
- ・ 受援体制の構築が話題になっていたが、外部の NPO がどれだけくるか。来てもらった場合に、受け入れ側として何ができるかを考えていただきたい。活用していただけるように、内閣府では NPO プロファイルを作成中。

【3. 倉敷市役所 大橋氏】

- ・ 平時でも災害時でも行政は叩かれやすいが、行政職員は褒められると伸びるのでそういう気持ちで接して欲しい。
- ・ 災害時は全国の自治体が応援に駆けつける、安心してほしい。

【4. 倉敷市社会福祉協議会 安原氏】

- ・ 私どもは準備ができないまま VC を立ち上げた、災害が起きるという認識が薄かった。
- ・ ご自分の住まわれているところやその周囲の情報をきっちり入手することが重要。どのようなきもヒト・モノ・カネということが言われるが、ヒトのつながりがすべて。繋がりがないと情報も支援も得られない。

【5. 岡山 NPO センター／災害支援ネットワークおかやま 詩叶氏】

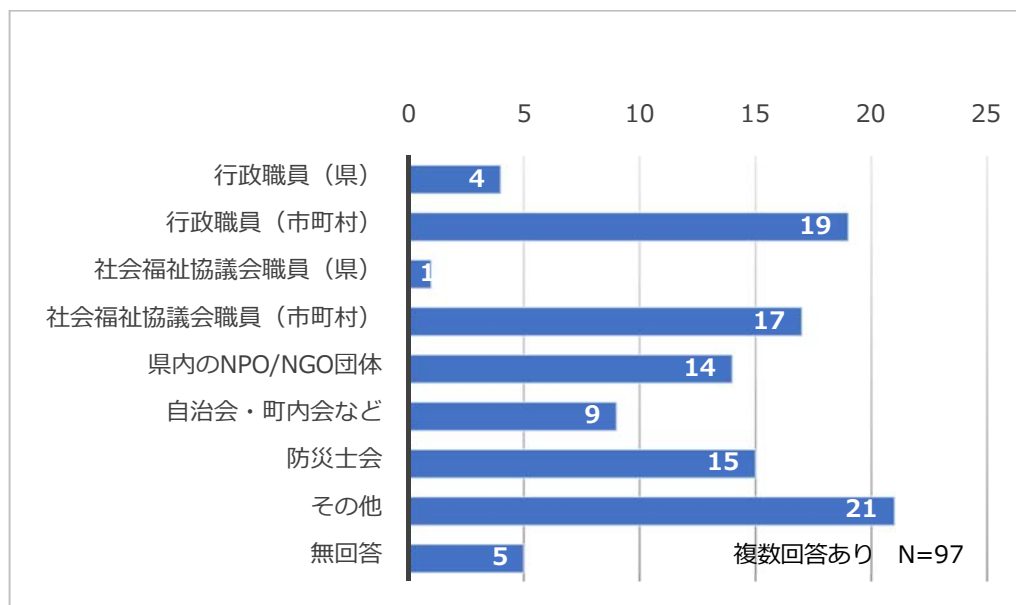
- ・ 生活再建のチームは平時の福祉事業と接続している。移動支援、生活再建への順序などは社協の平時業務と接続している。地域のケアマネさんなどと解決していくことを平時業務にも入れ込んでいく。
- ・ 平時業務が防災につながるように設計してあるのが重要。災害と区切らずに、何個かの部署が集まって WG を作る形にすれば、縦割りで右往左往する必要がなくなる。

(3) アンケート結果

■実施日時：令和元年 8月 26日 (月)

■アンケート回収数 (N) = 97

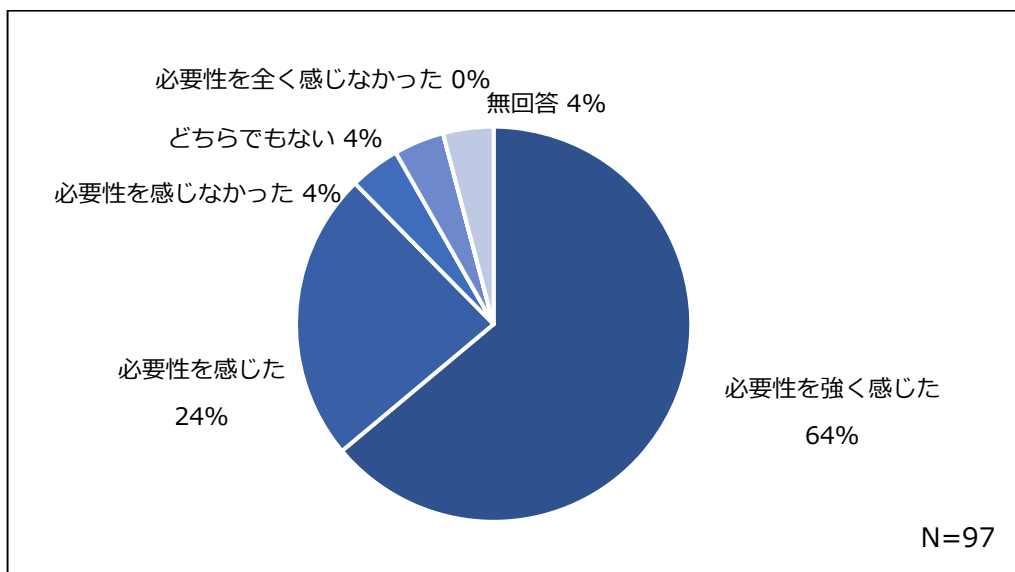
問1 ご自身のご所属についてお聞かせください。(複数回答可)



問1 ご自身のご所属についてお聞かせください。	件数	%
行政職員 (県)	4	4%
行政職員 (市町村)	19	18%
社会福祉協議会職員 (県)	1	1%
社会福祉協議会職員 (市町村)	17	16%
県内の NPO/NGO 団体	14	13%
自治会・町内会など	9	9%
防災士会	15	14%
その他	21	20%
無回答	5	5%

「その他/21件」の回答では、「企業」、「奈良セントラルライオンズクラブ」、「青年会議所」、「民生児童委員」、「災害ボランティア」、「地域防災支援担当者」、「自主防災会参与」、「大阪府職員」等があった。

問2 本日の研修はいかがでしたか。行政・ボランティア・NPO等からなる連携体を貴市町村に構築または強化する必要があると感じましたか。



問2 構築または強化する必要があると感じましたか。	件数	%
必要性を強く感じた	62	64%
必要性を感じた	23	24%
どちらでもない	4	4%
必要性を感じなかった	4	4%
必要性を全く感じなかった	0	0%
無回答	4	4%

問3 研修内容を踏まえ、今後取り組むべきと考える事項をご記入ください。(自由回答)

【三者連携】

- ・ まずは社協との協定を結ぶこと。
- ・ 災害時における行政との協定の締結。
- ・ 三者連携体の設立。
- ・ 小地域ネットワーク的なプラットフォームを作っていく。
- ・ 村内でボランティア,NPO 等がないため、JOARD などとの連携を考えていきたい。

【訓練/研修】

- ・ 研修の内容を持ち帰り、奈良県として毎年このような研修会を広く呼び掛け参加してもらおう。
- ・ 災害V C立ち上げ訓練の必要性を感じた。
- ・ 年2回、定期的な研修(担当者)(責任者クラス)を実施されたい。ぜひ、自衛隊、消防機関、警察関係者のご報告をくみいれてほしい。これから日常的に災害がどこかで発生する為、講義を探ってほしい。
- ・ 被害想定をしたうえで県一斉に防災訓練の実施。

【関係づくり】

- ・ 行政やNPO のできる事、どんな団体があるのかを知る、関係性を作るための場の必要性を感じた。
- ・ 諸課題に取り組む、NPO 等の活動を知ること、及び交流。
- ・ 地域との顔の見える大切さ(行政・NPO・社協)

【人材育成】

- ・ 過去の成功事例、失敗事例をもっと勉強し、三者連携も含めた事前防災の大切さを知ることが、すなわち学校教育の中に学年に応じた防災教育をすることが大切だと思った。
- ・ 全体をコーディネートできる人材を育成しながら、対話の機会などを合理的に積み重ねられる仕組みづくりを。
- ・ 防災に取り組む人材を育てる。

【情報共有】

- ・ プラットホーム各団体の普段の活動を知りあう。
- ・ 災害時、自分たちに何ができるのか、スタッフの役割分担について平時から考えておく。
- ・ 社協の体制を充実する必要性をさらに感じる事ができたので、まず地域(自治体)との情報共有できる場を作っていきたいと思う。

【周知/啓蒙活動】

- ・ ライオンズメンバーに今回のことを伝えて、委員全員が共通認識を持ってもらう説明をして、ライオンズとして地域に対し、「いざ」というときに活動できるよう、日々研鑽していきたい。
- ・ 行政、社協による事前周知・対策。
- ・ 自組織力における意識の高揚、組織内連携、訓練、ガバナンスの確認、行政との対話。

【マニュアル作成】

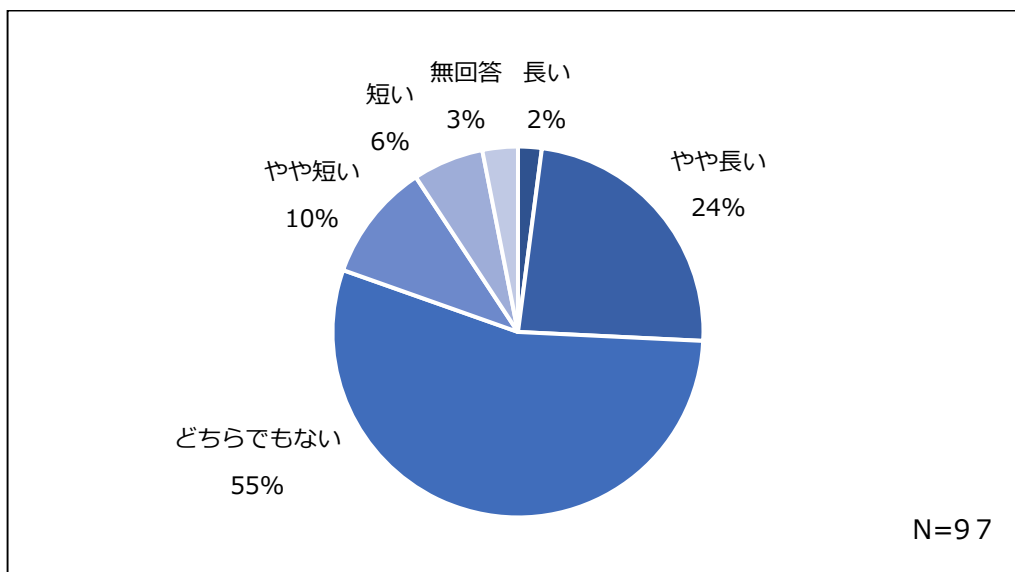
- ・ 行政、(市、国) が中心になってレイアウト作成し、地元、現地が実行すること。
- ・ 受援する立場として地区防災対策本部の運営マニュアルをつくる。

【その他】

- ・ 私は企業からの参加だったが、少ないことが驚きだった。より、誰がどういう役割をされていて、何が今の課題なのかの情報がまとまっていると今後の実施すべきことが明確になると思った。今後は関係者をつなぐ役割を持たせるシステムを作制したいと思った。
- ・ 奈良は災害が少ないというイメージが強く青年会議所会員の中でもそこまで想定していないのが現状。本年災害ネットワーク強化推進事業を開催しており、青年会議所としてできる事、企業の集団だからこそ行える支援について考えたいと思った。
- ・ 防災を他テーマと掛け合わせる事、ex.防災×健康。日常のなかで、いかに非日常に備えるか、考える必要があること改めて感じた。

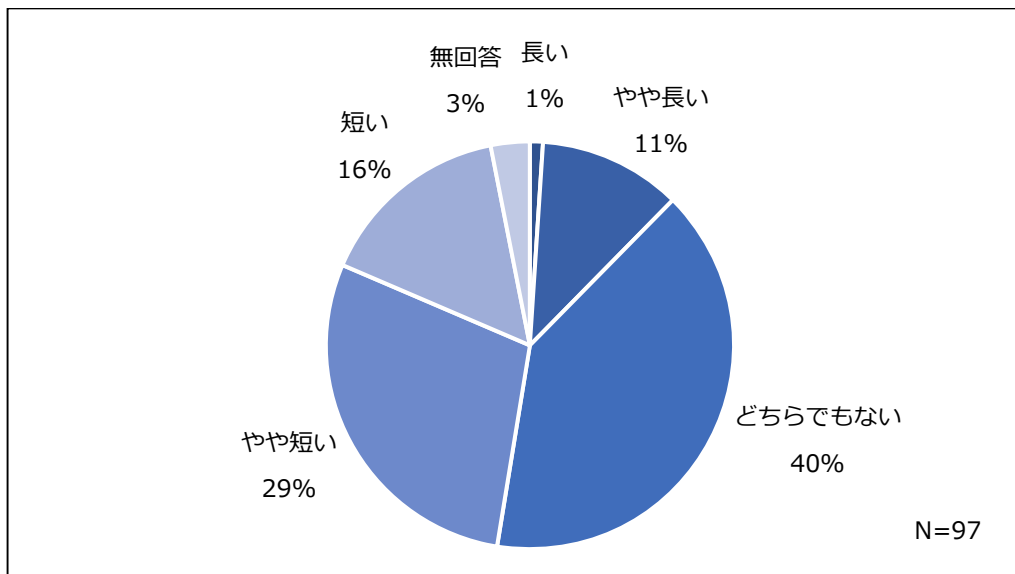
問4 研修会の運営についてお聞かせください。

①研修全体の時間は適切でしたか。



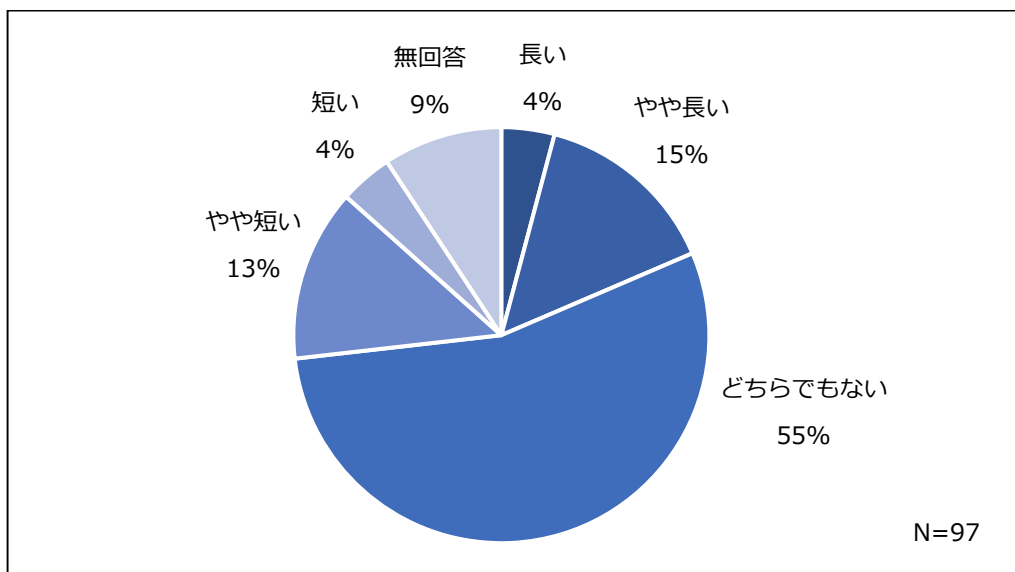
①研修全体の時間	件数	%
長い	2	2%
やや長い	23	24%
どちらでもない	53	55%
やや短い	10	10%
短い	6	6%
無回答	3	3%

②各講義全体の時間は適切でしたか。



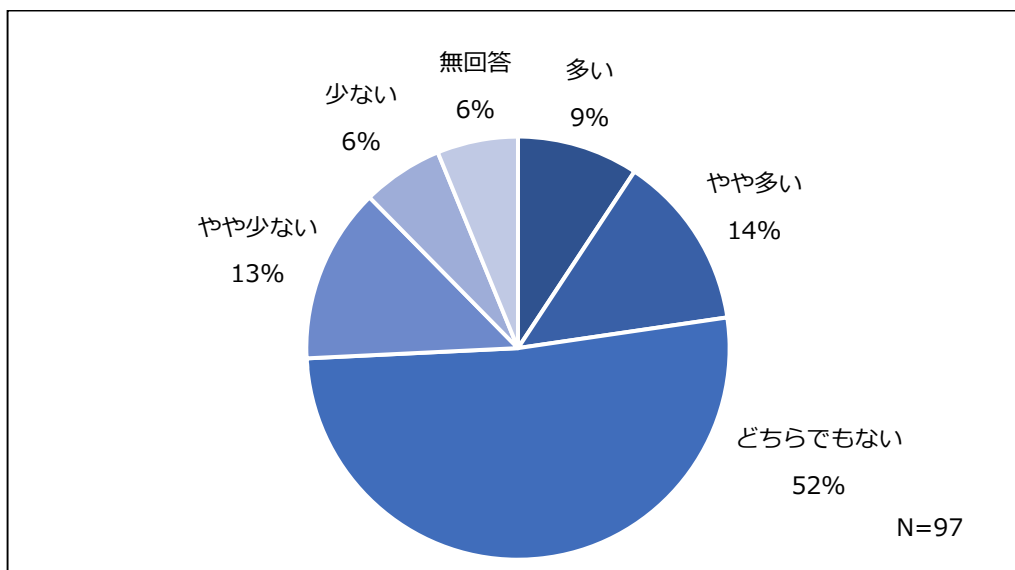
②各講義の時間	件数	%
長い	1	1%
やや長い	11	11%
どちらでもない	39	40%
やや短い	28	29%
短い	15	15%
無回答	3	3%

③ワークショップの時間は適切でしたか。



③ワークショップの時間	件数	%
長い	4	4%
やや長い	14	14%
どちらでもない	53	55%
やや短い	13	13%
短い	4	4%
無回答	9	9%

④全体の情報量は適切でしたか。



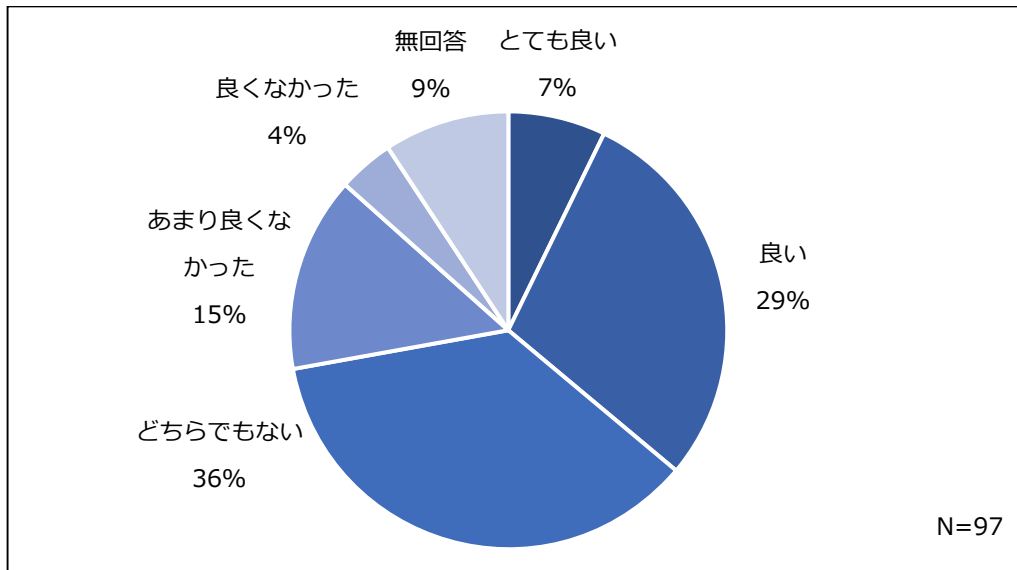
④全体の情報量	件数	%
多い	9	9%
やや多い	13	13%
どちらでもない	50	52%
やや少ない	13	13%
少ない	6	6%
無回答	6	6%

問5 研修内容、それぞれの項目について5段階（5が最高評価）で評価し、その理由についてもお聞かせください。

① 全体

	とても良い	良い	どちらでもない	あまり良く なかった	良くな かった	無回答	合計
内閣府報 告	7 (7%)	28 (29%)	35 (36%)	14 (14%)	4 (4%)	9 (9%)	97 (100%)
基調講演	13 (13%)	29 (30%)	22 (23%)	8 (8%)	3 (3%)	22 (23%)	97 (100%)
パネルデ ィスカッ ション	16 (16%)	23 (24%)	23 (24%)	18 (19%)	7 (7%)	10 (10%)	97 (100%)
奈良県報 告	3 (3%)	15 (15%)	34 (35%)	21 (22%)	9 (9%)	15 (15%)	97 (100%)
ワーク ショップ	20 (21%)	29 (30%)	15 (15%)	9 (9%)	5 (5%)	19 (20%)	97 (100%)

①内閣府報告



①内閣府報告	件数	%
とても良い	7	7%
良い	28	29%
普通	35	36%
あまり良くなかった	14	14%
良くなかった	4	4%
無回答	9	9%

◆主な理由

【とても良い】

- ・国が目指している方向を知りたいと思っていたので納得した。

【良い】

- ・政府としての役割がよくわかり、今後目指していく三者連携における課題認識を聞くことができたため。
- ・災害とそれぞれの支援、取り組み、施策などの変遷が分かりやすかった。
- ・課題が重複することが多かったのではと思った。

【どちらでもない】

- ・東京や大阪で連携体がないのに驚いた。

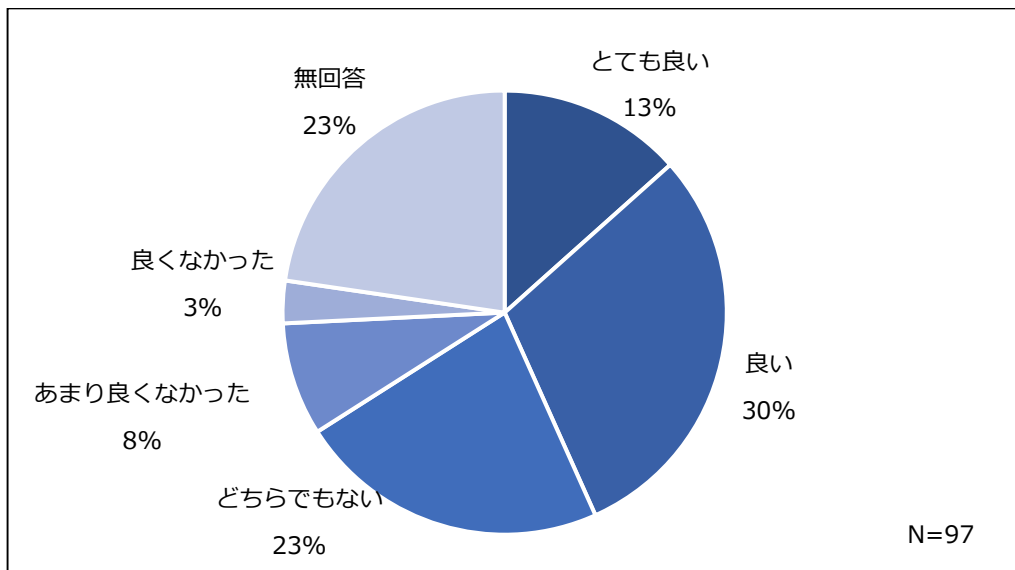
【あまり良くなかった】

- ・行政として、特に国(内閣府)の職員が被災地に派遣されての役割がわかりづらかった。

【良くなかった】

- ・時間が短く十分に伝わらなかった。

②基調講演（JVOARD 栗田氏）



②基調講演（JVOARD 栗田氏）	件数	%
とても良い	13	13%
良い	29	30%
普通	22	23%
あまり良くなかった	8	8%
良くなかった	3	3%
無回答	22	23%

◆主な理由

【とても良い】

- ・経験談をおききしたのでイメージしやすく頭に入ってきた。時間が短く少し残念。
- ・熱い話がきけて良かったと思います。JVOARD の活動がわかった。
- ・JVOAD の機能について理解できた。

【良い】

- ・初めて知りました。素晴らしい活動をされていることを知ることができてよかった。
- ・実際の支援活動を踏まえた説明で分かりやすかった。

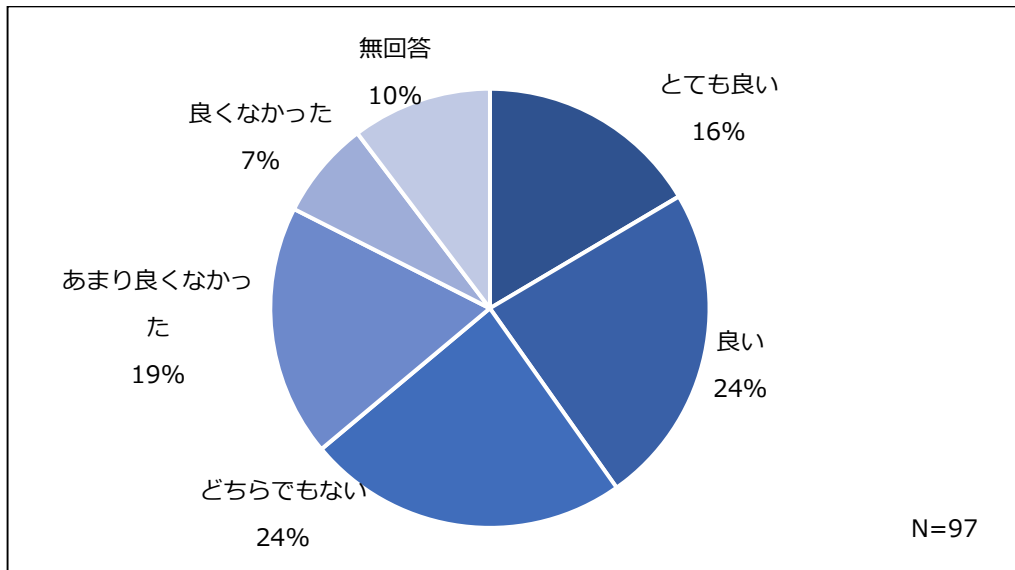
【どちらでもない】

- ・それぞれの方のお話は勉強になりましたが、時間が足りず、パネルディスカッションにはならなかった。

【あまり良くなかった】

- ・時間が少ない。もうすこし整理してほしい。

③パネルディスカッション



③パネルディスカッション	件数	%
とても良い	16	16%
良い	23	24%
普通	23	24%
あまり良くなかった	18	19%
良くなかった	7	7%
無回答	10	10%

◆主な理由

【とても良い】

- ・現場を知っている方の講義だったので、非常に良く分かりやすかった。
- ・行政職員、社協職員などいろんな立場・視点の経験談を聞くことができてよかった。

【良い】

- ・倉敷市の体制がよくわかりました。ありがとうございました。参考になりました。
- ・質問時間などもう少し時間に余裕があればよかった。

【どちらでもない】

- ・もう少し登壇者同士の意見交換があればよかった。

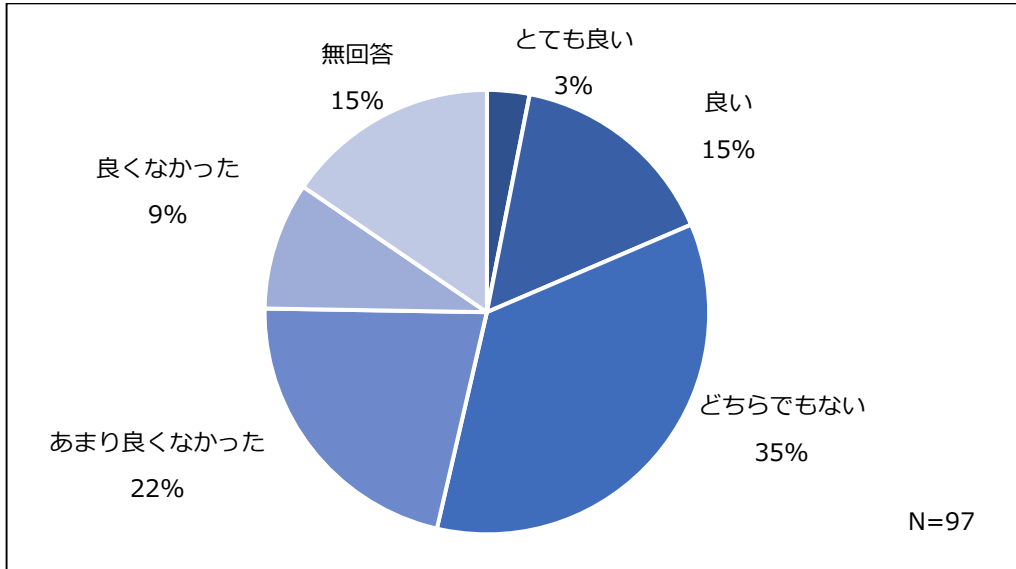
【あまり良くなかった】

- ・パネルディスカッションとしては時間が短い。倉敷から来ていただいたものの、実際報告としてはものたらない。災害時にどのような課題があり、どのようにプラットフォームが機能したのかももう少し報告を受けたかった。

【良くなかった】

- ・時間が短い。

④奈良県報告



④奈良県報告	件数	%
とても良い	3	3%
良い	15	15%
普通	34	35%
あまり良くなかった	21	22%
良くなかった	9	9%
無回答	15	15%

◆主な理由

【とても良い】

- ・これから奈良県が作るマニュアルなどが現実的に使えるものであればと思った。

【良い】

- ・受援体制整備事業について詳しく知りたいと思った。

【どちらでもない】

- ・午前中の倉敷の報告が長引いたため縮小されたのが残念だった。奈良県で開催されているのにもっと奈良県の考え方、取り組みを聞きたかった。

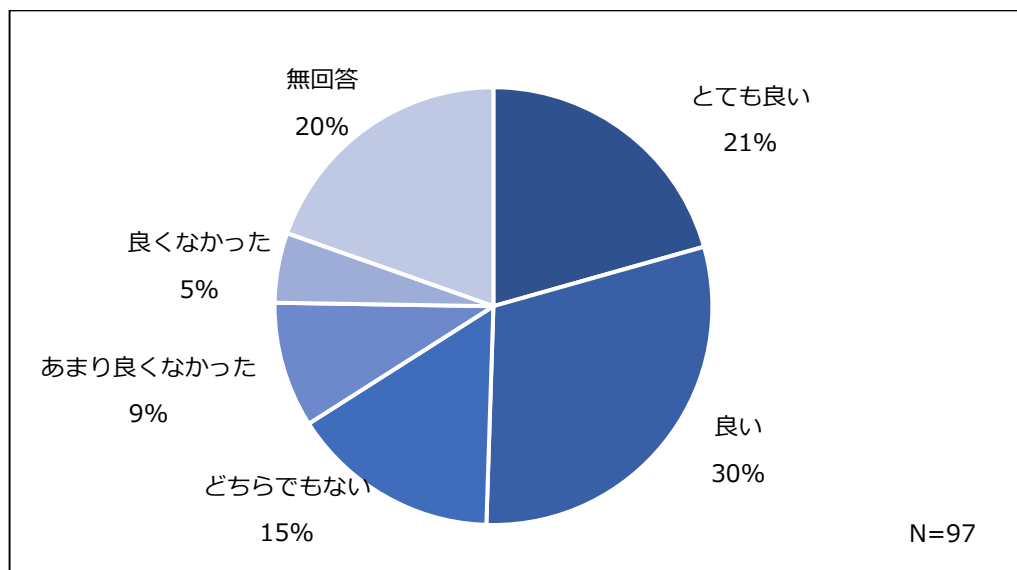
【あまり良くなかった】

- ・奈良県の実態をもう少し詳しく説明してほしいかった。
- ・報告だけで実現してもらえないとは思ってない。今迄の災害に対しての取組が全国でもレベルが低い。

【良くなかった】

- ・午前の話と重なって無駄であった。
- ・意味があったのか、県職員が倉敷の報告をする意味が分からない。打合せをしたのか？
- ・受援について説明するなら、添付資料でいい。講義に入れ込む意味なし。

⑤ワークショップ



⑤ワークショップ	件数	%
とても良い	20	21%
良い	29	30%
普通	15	15%
あまり良くなかった	9	9%
良くなかった	5	5%
無回答	19	20%

◆主な理由

【とても良い】

- ・色んな立場の方からの意見が聞け、またしなければならぬ事の再認識ができた。

【良い】

- ・非常に有意義ではありましたが、メンバーにNPO法人の方がいなかったため、関係づくりが少し出なかった。
- ・次は逆に同じ職種の方のみで災害について意見交換会をしたい。

【どちらでもない】

- ・誰もが正解の見えない中で話し合っているのでも、最後の講義の時間をもっと長くにとって、一つの正解を示したほうがよいのではと思ったため。
- ・時間が短い（1つ1つのテーマ、議論することできず）。もう少し具体的な話し合いがあればよかった。（する内容が多い）

【あまり良くなかった】

- ・進行やり方が最悪。何を研修で学ばばいいか全くわからない。参加したのに残念。

【良くなかった】

- ・時間が短い。

問6 全体のプログラムを通じ、ご意見・ご感想等お聞かせください。

【スケジュール】

- ・前半の情報を整理する時間が欲しかった。2日間の開催にさせていただけるとありがたい。
- ・全体に盛りだくさんで、研修が多く発表者も十分に伝えられなかったと思う。(講演者)
- ・時間が全体的に短かったので、時間配分をうまくしていただけたらいいと思う。

【研修内容】

- ・全体のボリュームを抑え、一つ一つの内容を詳しくして欲しい。
- ・具体的な行政とNPO・社協の役割分担を作成するにあたり、それぞれの組織がどういったものがあるのか、知っておかなければいけないと思った。特に倉敷市職員さんの生の声を聴けて良かった。ありがとうございました。
- ・もう少し突っ込んだことをお話しただけたらと思った。特に奈良県はこれから立ち向かわなくてはならない県のため、今何をしなければいけないのか、想定外は何があったのか聞き学び、対策に役立てていかななくてはならないと感じた。

【会場】

- ・内容も時間も非常に良かったが、席を詰めすぎているのが惜しかったなと思った。
- ・前半が座学なら通常の席並びにしてほしかったし、後半のワークショップを配慮するなら最初からグループ別に座らせてほしかった。

【要望/指摘】

- ・これは継続的に定期的に行ってほしい気持ちはある。災害は常に考えないといけないこと。単発で今だけでは終わってほしくない。
- ・奈良県下の自治体の参加が一部であり、全自治体(400)の参加をぜひ働きかけを望む。
- ・質疑応答の場が欲しかった。わからないことが多いので。
- ・プログラム全体が多く、内容が薄く感じた。プログラム再考が必要でないか。三者連携とはいえ、関係者が多すぎる(内閣府、NPO、ファシリテーション、社協、県、受託先…)それだけの委託料(お金)が発生している。もう少し関係者の数を減らすべき。

【その他】

- ・講座の中で、全国の自治体の仲間が助けに来てくれるという言葉が行政の立場として心に響いた。逆に助けることも安心と感じた。
- ・行政と社協の連携、特に人事交流が大切と感じた。
- ・自身の団体が果たす役割(強み、弱みも含め)を認識していきたい。事前の各関係団体との顔の見える関係づくり、話し合い(人とお付き合い)の重要性を感じた。

以上

2-2. 愛媛県

(1) プログラム概要

開会 (10:00~10:10)

石垣 和子氏 (内閣府政策統括官 (防災担当) 付企画官 (普及啓発・連携担当))

山口 真司氏 (愛媛県 保健福祉部長)

黒川 泰雅氏 (松山市 危機管理・水資源担当部長)

基調報告「全国における行政・社協 (ボランティア)・NPO 等の三者連携の現状」

(10:10~10:25)

石垣 和子氏 (内閣府 政策統括官 (防災担当) 付企画官 (普及啓発・連携担当))

パネルディスカッション1「被災者の多様なニーズに対応するための連携・協働」

～平成 29 年九州北部豪雨をふりかえって～ (10:25~11:10)

明城 徹也氏 (全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) 事務局長)

森田 和枝氏 (福岡県朝倉市ふるさと課長)

小川 耕平氏

(全国社会福祉協議会 地域福祉部全国ボランティア・市民活動振興センター副部長)

菊竹 浩訓氏 (エフコープ生活協同組合 組織管掌 補佐)

パネルディスカッション2「平成 30 年西日本豪雨における愛媛県内の取組み」

～ 当時、今、これから ～ (11:10~12:00)

木村 謙児氏 (えひめリソースセンター 代表理事/八幡浜みなと みなと交流館長)

高瀬 浩二氏 (愛媛県 保健福祉部 社会福祉医療局 保健福祉課 主幹)

宮崎 慎也氏 (愛媛県社会福祉協議会 地域福祉部 地域福祉課 主査)

岩村 正裕氏 (宇和島市地域包括支援センター 所長補佐)

ワークショップ (13:00~15:50)

杉村 郁雄氏 (日本ファシリテーション協会 災害復興委員会)

閉会 (15:50~16:00)

石垣 和子氏 (内閣府 政策統括官 (防災担当) 付企画官 (普及啓発・連携担当))

(2) 講評 (抜粋)

【1. 朝倉市 森田氏】

- ・ 被災当時、災害対応マニュアルを作っていたが全く役に立たなかった。今は書き換えて、対応の担当などを置いた。
- ・ 高校生の参加はすばらしいこと。地域力が高い。
- ・

【2. エフコープ生活協同組合 菊竹氏】

- ・ 被災地の事例として、最初は、食事を避難所の高齢の女性たちが作ってあげていた。職員さんの食事の準備をしていたが、数週間経つと女性陣も疲れてしまい、コープからフリーズドライの味噌汁を提供したりした。
- ・ 今回は、ある場面を想定してのWSだったが、その状況も変化していくことに注意したい。

【3. 全国社会福祉協議会 小川氏】

- ・ 被災経験のない人は捉え方が難しいかもしれないが、認識を足並み揃えて、同じような想像力を持って準備できるかが重要になる。
- ・ 災害は時間軸によって変化していく。ワークで整理することは良い研修になる。
- ・ 「受援」という言葉があるが、外部から支援をどれだけ受けることができるかが大切。
- ・ 自分が主体となって当事者となることが大事。

【4. えひめリソースセンター 木村氏】

- ・ 多様な方が集まって、地域にこうした活動をしている人がいるという気づき。各立場の話はなかなか聞けない。
- ・ ワークを通じて、皆さんが人の話をよく聞いている。傾聴。言葉で相手の立場を知ることは大事。経験として、お年寄りの言葉の中に組み込まれている思いを拾うことが大事。

【5. JVOAD 明城氏】

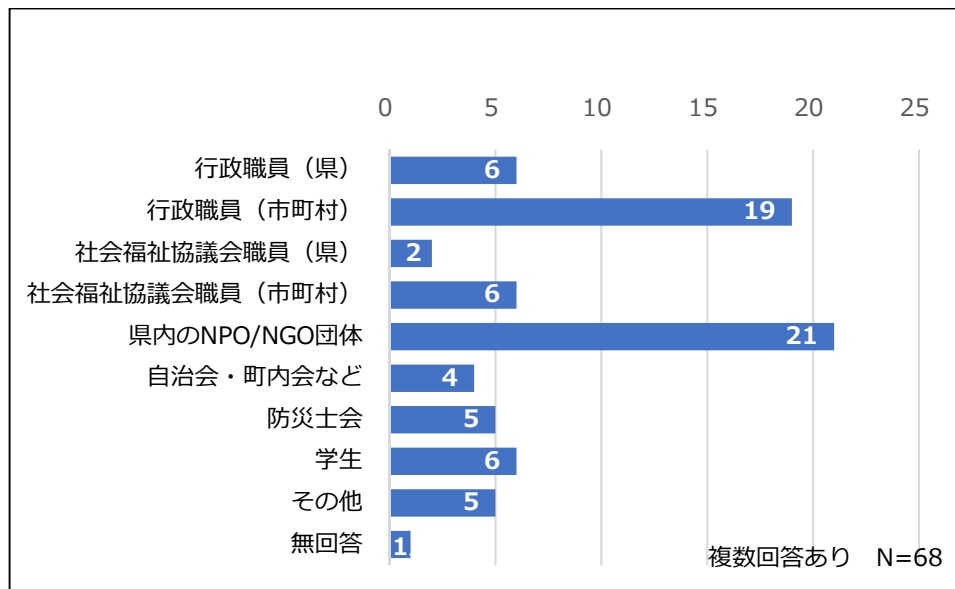
- ・ 「顔の見える関係を作ること」が大事。顔の見える関係ができて、困りごとを話す関係になることで自分たちの地域で災害対応力がつけられていく。
- ・ 地域で困りごとに対応してきた人が、次の災害でその専門性を活かしてノウハウを伝えるということが起きている。
- ・ 昨年度の災害では、瓦がだいぶ飛んだ。各地域でブルーシート貼りのニーズに対して、準備ができていなかったなど反省がある。

(3) アンケート結果

■実施日時：令和元年 9月 28日 (土)

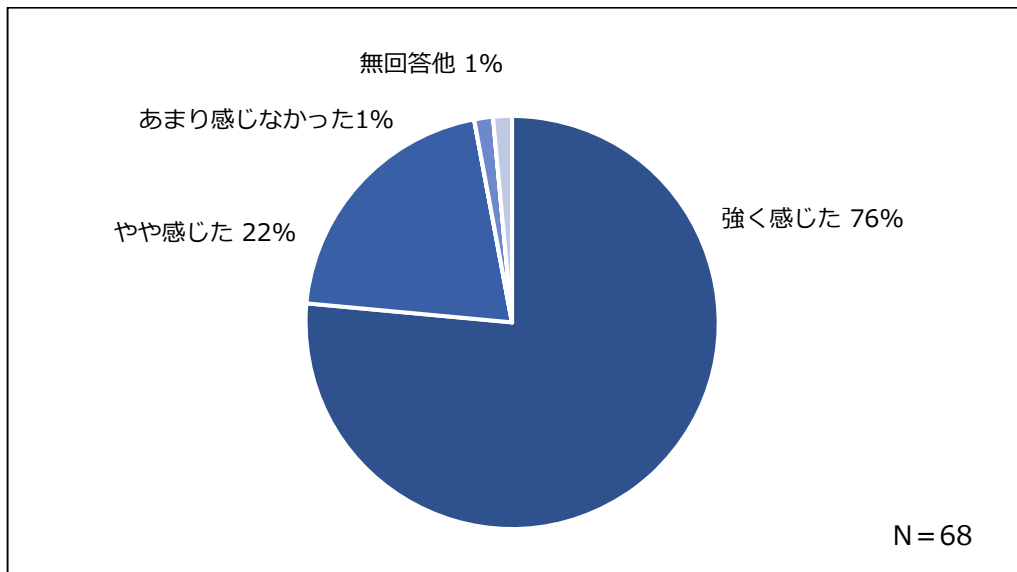
■アンケート回収数 (N) = 68

問1 ご自身のご所属についてお聞かせください。(複数回答可)



問1 所属について	件数	割合
行政職員 (県)	6	8%
行政職員 (市町村)	19	25%
社会福祉協議会職員 (県)	2	3%
社会福祉協議会職員 (市町村)	6	8%
県内の NPO/NGO 団体	21	28%
自治会・町内会など	4	5%
防災士会	5	7%
学生	6	8%
その他	5	7%
無回答	1	1%

問2 本日の研修はいかがでしたか。行政・ボランティア・NPO等からなる連携体を貴市町村に構築または強化する必要があると感じましたか。



問2 構築または強化する必要性	件数	割合
必要性を強く感じた	52	76%
必要性を感じた	14	22%
どちらでもない	0	0%
必要性を感じなかった	1	1%
必要性を全く感じなかった	0	0%
無回答	1	1%

問3 研修内容を踏まえ、今後取り組むべきと考える事項をご記入ください。(自由回答)

【三者連携】

- ・ 三者連携の構築、中間支援組織の確立。
- ・ 事前に三者連絡体制を整える必要性を強く思った。
- ・ 三者連携会議の拡大・NPO、NGO 団体のかかわりを持つ・地域住民との連携・私たちのレベルアップ。
- ・ NPO の活動情報収集・分析→連携推進（行政・社協・NPO）。
- ・ 平時の連携が大事。日々の役割を考えていくことで意識向上させることとなり、有事の際の対応が変わる。

【ネットワーク・関係づくり】

- ・ NPO 団体の方々の中にも顔の見える関係づくりを望んでいただく声があり、これから取り組む事業（地域協働ネットワークの構築支援）にぜひいかしていきたいと思っている。
- ・ 天候の変化が世界的に大きくなってきている今、日常生活の中での人と人のつながりが非常に大切になってきている。個人情報問題が大きな壁を作っていることをもっと考えていくべきでは。
- ・ 当市において、大規模な災害が来ていない今だからこそ、ネットワークの強化や役割分担についての話し合いが重要だと感じた。
- ・ ゆるい顔の見える関係づくりの場を作っていく必要があると感じた。
- ・ このような研修会を通して、団体、行政などの顔を合わせたかかわり。
- ・ 住民一人一人への意識づけが重要であるとともに、住民同士の横のつながり、行政と住民の距離を縮めることが重要だと感じた。今回の研修会を機に、今回の出席者は必ず呼ぶ声掛けが重要。今回限りではなく、今後もバックアップしてください。
- ・ 平時のネットワークづくり→機能する各ネットワークの議論も（役割の共有）。
- ・ 平時から定期的に集まり、顔の見えるかが重要だと感じた。
- ・ 自治体がすべての住民のニーズに対応することは不可能であり、そこを自治体と住民が理解したうえで、社協やNPO、さらに住民ひとりひとりが連携、協力して、災害対応に当たることが必要だと改めて感じた。また、日ごろから、近隣とコミュニケーションをとり、どこにどんな人が住んでいるのか把握しておくことが大切であると思った。
- ・ 地域での顔の見える防災システムを考えていきたい。
- ・ 防災関係者間の連絡と協働策。
- ・ 育成と情報共有の大切さを学べた。

【人材育成】

- ・ 三者連携の重要性を初めて知りました。現在、教育現場に携わっていますが、子どもたちへも防災に対する教育を継続していきたいと思う。

【訓練/研修】

- ・ 他団体との研修会を行う。
- ・ 防災士も勉強などあれば。

【制度・体制】

- ・ 市内の体制づくりがまだできていないと感じる。今後、社協と連携しより良い体制づくりに努めたい。
- ・ 市域の連携会議をやっていくべきと思う。
- ・ 地域での役割を割り振らないといけない。
- ・ 行政の受援体制の準備。関係者のリストアップと協働事業の実施。

【備え一般】

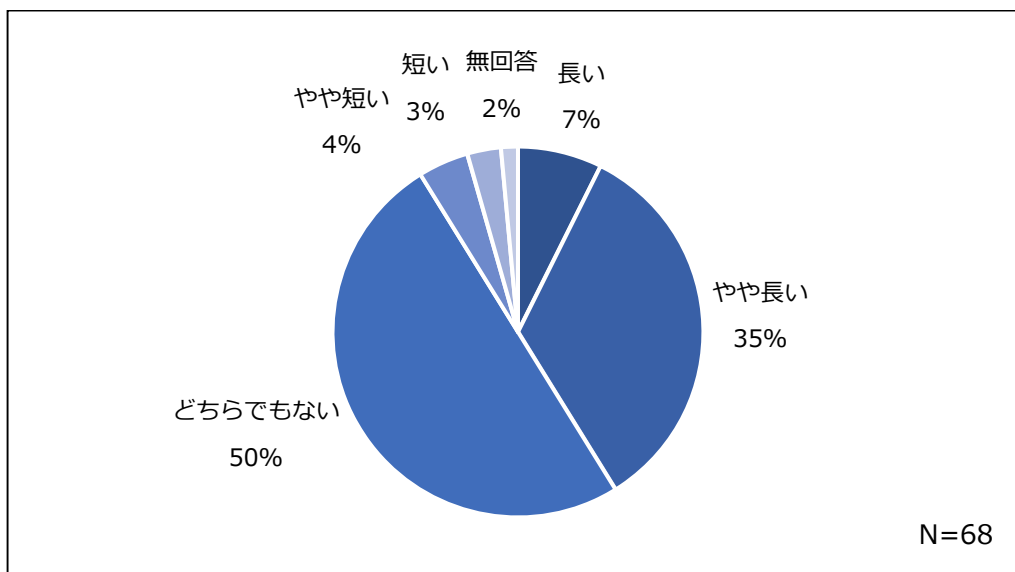
- ・ 備えることの大切さを一人でも多くの人に伝えていく。行政に頼れない場合に地域としてどう動いていくか。
- ・ 平時の備えを考えること。何も無い時に何を準備するのかということをお願いしたい。

【その他】

- ・ 南海トラフ地震を想定した場合、被災者は住民だけでなく行政職員も被災者となるため、地域防災計画に基づく活動ができなくなる。したがって住民向けのボランティアだけでなく、行政向けのボランティア（物資搬送整理・避難所運営、災害ごみの搬送など）も必要である。社協の活動と市町村の活動と区別するのではなく、協働することも考えておく必要がある。
- ・ 県外就職をする私は地元の防災について調べる必要があると感じました。
- ・ 自分でできる事、それを少しずつしていきたい。
- ・ 実際の被災地で何が行われ、何が求められるのか、関係者がしっかりと認識し、その上で必要な対策を講じること。
- ・ 要介護者対応について。

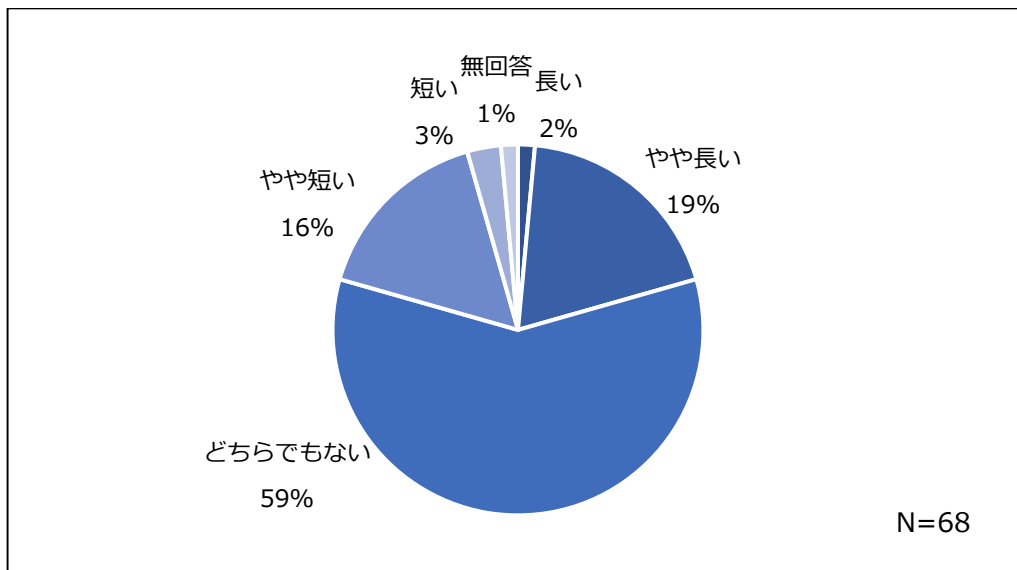
問4 研修会の運営についてお聞かせください。

① 研修全体の時間は適切でしたか。



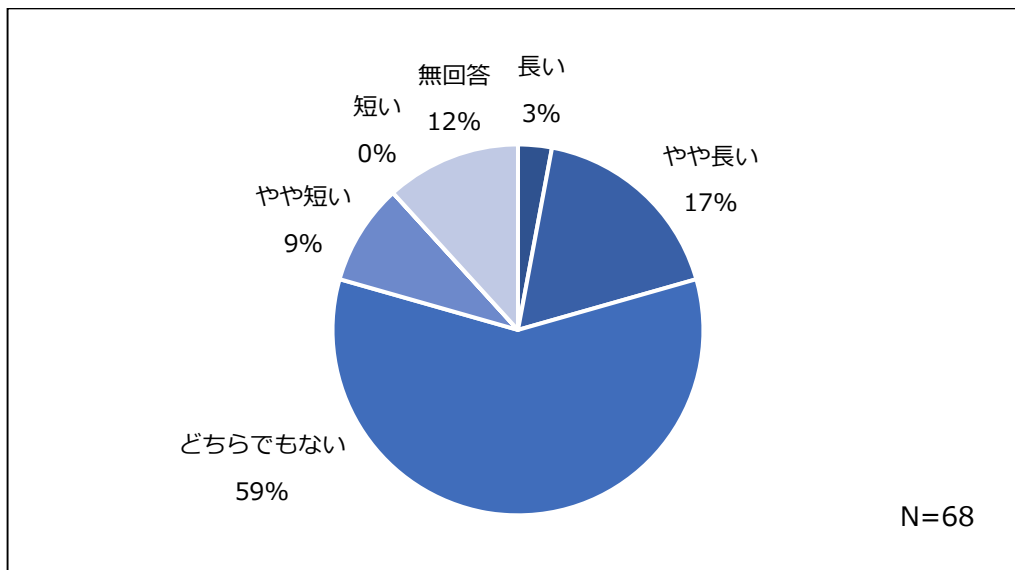
①研修全体の時間	件数	割合
長い	5	7%
やや長い	23	35%
どちらでもない	34	50%
やや短い	3	4%
短い	2	3%
無回答	1	1%

② 各講義の時間は適切でしたか。



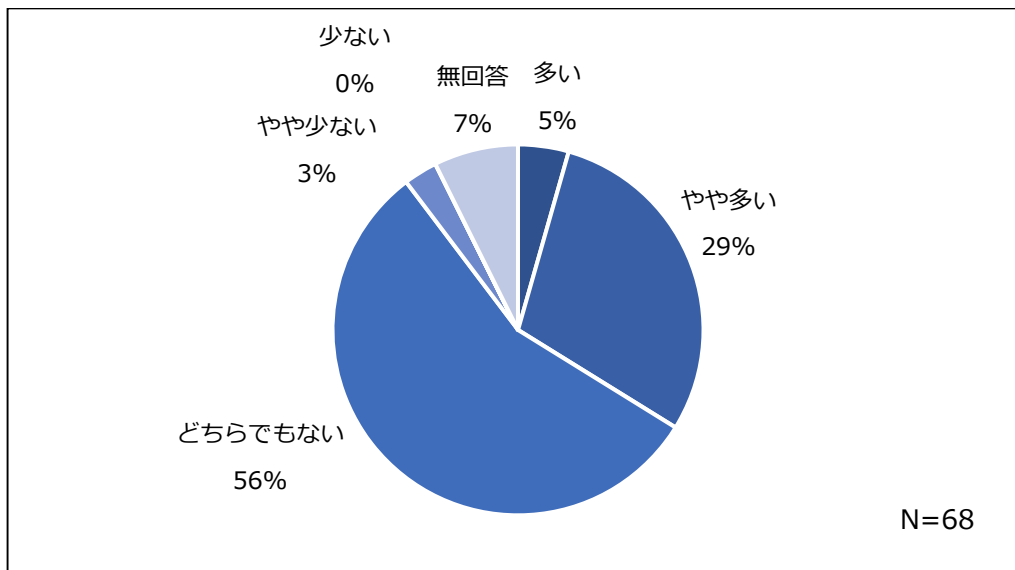
②各講義の時間	件数	割合
長い	1	2%
やや長い	13	19%
どちらでもない	40	59%
やや短い	11	16%
短い	2	3%
無回答	1	1%

③ ワークショップの時間は適切でしたか。



③ワークショップの時間	件数	割合
長い	2	3%
やや長い	12	17%
どちらでもない	40	59%
やや短い	6	9%
短い	0	0%
無回答	8	12%

④ 全体の情報量は適切でしたか。



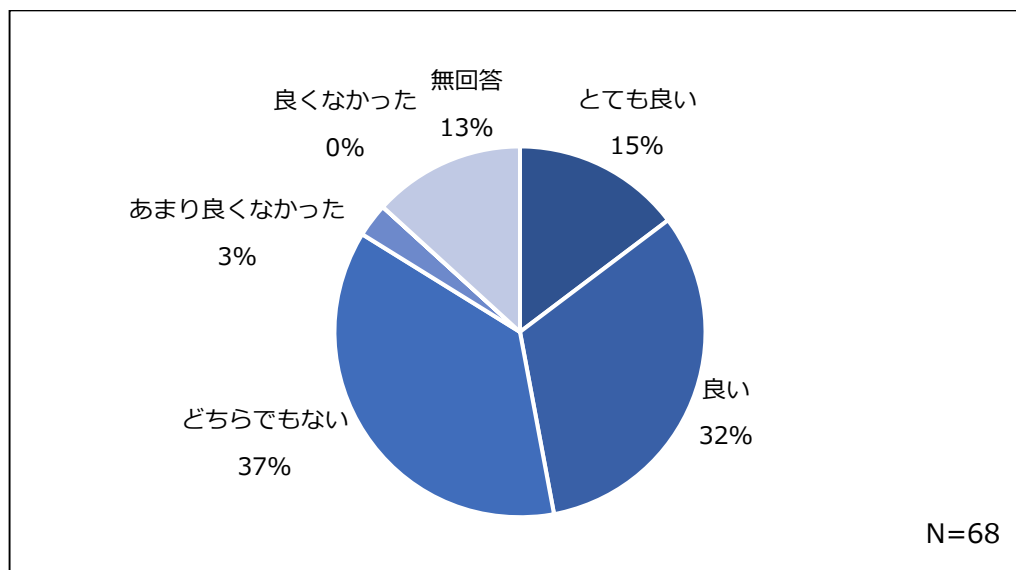
④全体の情報量	件数	割合
多い	3	4%
やや多い	20	29%
どちらでもない	38	56%
やや少ない	2	3%
少ない	0	0%
無回答	5	7%

問5 研修内容、それぞれの項目について5段階（5が最高評価）で評価し、その理由についてもお聞かせください。

① 全体

	とても良い	良い	どちらでもない	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	合計
内閣府報告	10 (15%)	22 (32%)	25 (37%)	2 (3%)	0 (0%)	9 (13%)	68 (100%)
パネルディスカッション1	13 (19%)	26 (38%)	20 (30%)	0 (0%)	0 (0%)	9 (13%)	68 (100%)
パネルディスカッション2	14 (21%)	26 (38%)	15 (22%)	4 (6%)	0 (0%)	9 (13%)	68 (100%)
ワークショップ	31 (46%)	17 (25%)	3 (4%)	3 (4%)	0 (0%)	14 (21%)	68 (100%)

① 内閣府基調報告



①内閣府基調報告	件数	割合
とても良い	10	15%
良い	22	32%
どちらでもない	25	37%
あまり良くなかった	2	3%
良くなかった	0	0%
無回答	9	13%

◆主な理由

【とても良い】

- ・ 内閣府の話は聞く機会が少なく、具体性に富み面白かった。大臣が何をしている人なのかの話が面白かった。

【良い】

- ・ これまでの災害へのボランティア活動で多くの人に参加していることはとても良いことだと思いましたが、何もわからない人が急に行っても作業が進まないという状況が起きてしまうという事に驚くと同時に、私たちがボランティアをする上で何をすべきか勉強をしようと思った。
- ・ 目につかない内閣府の活動についての説明がわかりやすかった。バラバラに各機関、団体が動くと思われや無駄・無理が生じると思うので、それを取りまとめる機関が必要になってくると思った。
- ・ 短い時間の中で、ムダなく、理解しやすい内容だった。

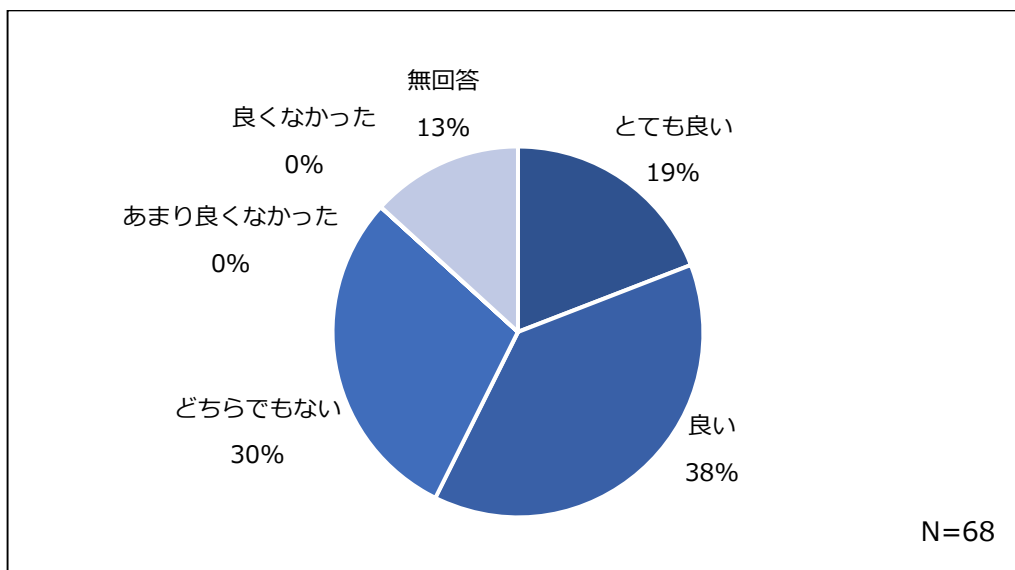
【どちらでもない】

- ・ フロアーとの意見交換の時間がないのは残念。
- ・ ワークショップに時間を回す。

【あまり良くなかった】

- ・ 内閣府の情報がどこまで本当なのか？というところが分かりにくかった。

② パネルディスカッション 1 「被災者の多様なニーズに対応するための連携・協働」



②パネルディスカッション 1	件数	割合
とても良い	13	19%
良い	26	38%
どちらでもない	20	30%
あまり良くなかった	0	0%
良くなかった	0	0%
無回答	9	13%

◆主な理由

【とても良い】

- ・ 他県の事例から学ぶことが多く、日本全体での情報交換の場の必要性を感じた。
- ・ 実際に初動から復旧まで経験をされている朝倉市のお話をお伺いできて大変参考になった。経験のない松山市でも参考になる話だと思った。
- ・ 発災時に外部からの支援を無駄なくスムーズに受けれるよう、平時から多方面都の横のつながりがいかに大切か再確認できた。

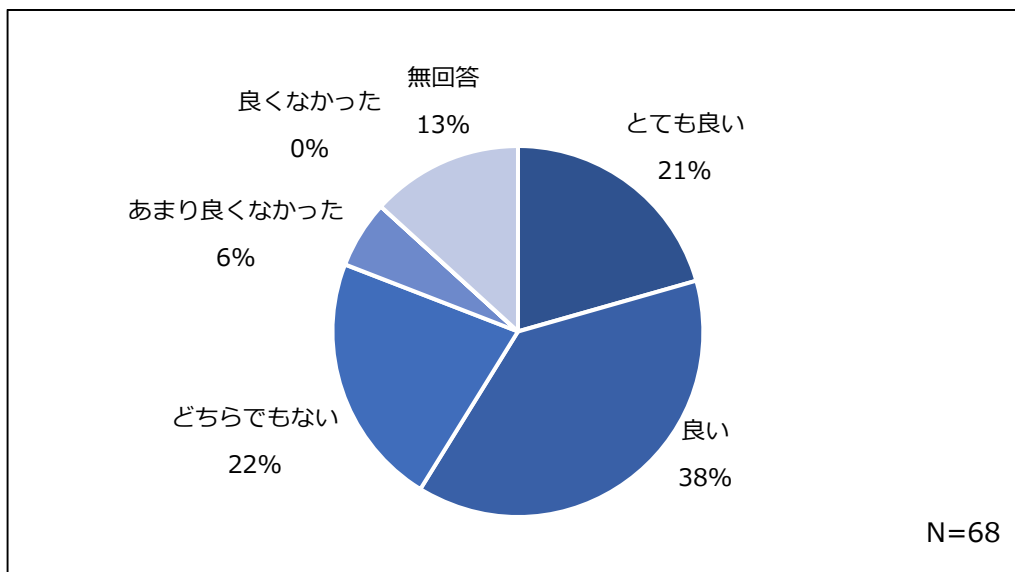
【良い】

- ・ 情報共有会議を立ち上げたことは大きな成果。
- ・ 行政や住民が見知らぬボランティア・NPO 法人を不安に思うことは当たり前だと思うし、そのうえで朝倉市ふるさと課の方の対応には驚かされた。平時からの顔を合わせたかかわりや信頼関係の構築が三者連携に向けた取組に必要となってくると思った。

【どちらでもない】

- ・ 事例を聞けるいい機会であったが、時間の制約があり、もったいないとないと感じた。時間設定の考慮必要。
- ・ ・最近の九州豪雨についての話はよかった。ただ、あまり実感がわかなかった。愛媛とのかかわりについて話してほしかった。
- ・ 各 NPO の信頼性をどうやって確認したのか、結局わからなかった。

パネルディスカッション2 「平成30年西日本豪雨における愛媛県の取組」



③パネルディスカッション2	件数	割合
とても良い	14	21%
良い	26	38%
どちらでもない	15	22%
あまり良くなかった	4	6%
良くなかった	0	0%
無回答	9	13%

◆主な理由

【とても良い】

- ・ 県内の各支援団体の実態が良く分かった。
- ・ 組織ごとの取組が整理されていた。時間はもう少しあればよかった。

【良い】

- ・ 両方（パネルディスカッション①②）についてももう少し今後の課題の掘り下げが聞きたかった。
- ・ いざ災害が発生した時に動ける団体がどこかわからないということは大きな問題だなと考えました。私たちのようなボランティアの人間が入りやすい環境をもっと広げてほしいと思った。
- ・ 県、社協、市の関りは面白かった。NPO 団体についても話が聞きたかった。南海トラフへの対応策についても述べてほしかった。

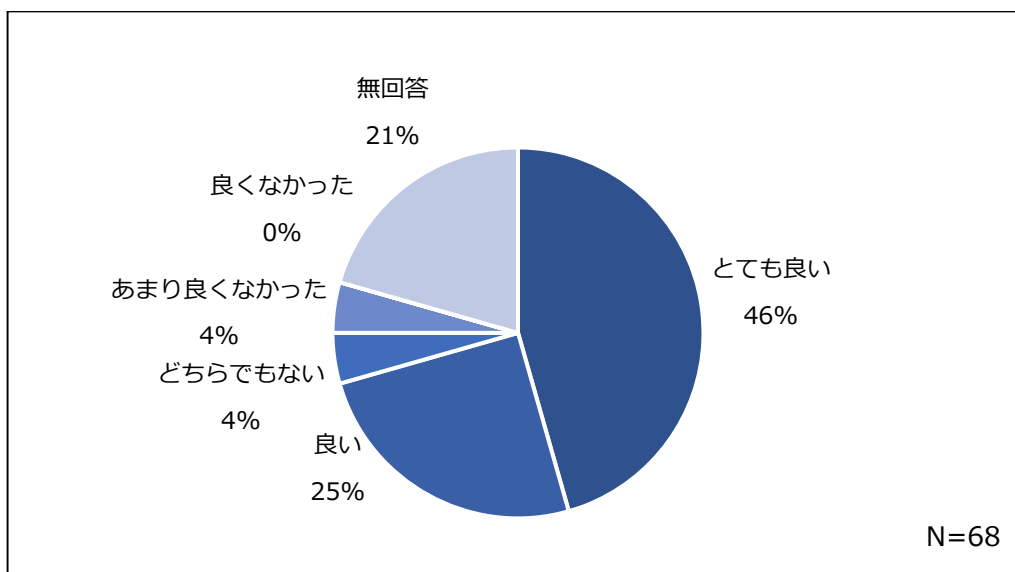
【どちらでもない】

- ・ ボランティアを受け入れる行政側の体制づくりが必要。災害に応じた体制作りが必要。地区団体に加入していなかったりしても、受け入れられるように創意工夫が必要。
- ・ 休みがなく聞く時間が多くなり、話が入ってこない時間帯だった。詰め込みすぎているように感じる。
- ・ 現状報告、取組はよく理解できたが、もう少し今後の取組について紹介してもらえるとよかった。

【あまり良くなかった】

- ・ 時間が短かすぎるように思った。

③ ワークショップ



④ワークショップ	件数	割合
とても良い	31	46%
良い	17	25%
普通	3	4%
あまり良くなかった	3	4%
良くなかった	0	0%
無回答	14	21%

◆主な理由

【とても良い】

- ・ 各市の社協さんの現場の声をきく貴重な機会となった。
- ・ 自分の知らないことが多くいろいろな立場の方と交流できて、また参加したい。
- ・ 皆で考えるといろいろな視点が見えてくるので大いに参考になった。
- ・ 様々な年代、職種の方の意見を聞くことができ大変良かった。

【良い】

- ・ 全グループの発表がなかったのが残念。
- ・ 様々な視点で協議することができ、大変貴重な時間となった。
- ・ 体験者の方の話を聞くことができ非常に良かった。地域に持ち帰って防災計画を見直したい。

【どちらでもない】

- ・ 勉強になった。

【あまり良くなかった】

- ・ もう少し意見交換が多くできればよかったと思う。特に今後の取組についての話ができればよかった。
- ・ 一つ一つの意見、他の機関の方の意見は大変ためになったが、答えありきのワークショップだった。必要性は強く感じた。

問6 全体のプログラムを通じ、ご意見・ご感想等お聞かせください。

【スケジュール】

- ・ もう少し深く話をききたかった。午前中は「パネルディスカッション1」、または「パネルディスカッション2」だけにさせていただけると充実していたと思う。
- ・ 午前中の部があわただしく感じた。パネルディスカッションを一つにしてじっくり行った方がよいと思った。
- ・ 午前中にパネルディスカッション2つは詰め込みすぎだと思った。どちらも中途半端に感じた。

【研修内容】

- ・ 災害支援に対する内容についてももう少し現場での取組や事例を知りたかった。具体的にあった課題について意見交換してみたかった。

【要望/指摘】

- ・ 若い人が参加できる場をぜひ作っていただきたい。
- ・ こういった内容の会は継続してほしい。
- ・ 今回集まったメンバーの出会いを今後も生かせるよう同じメンバーでまた研修ができればと思う。(今回の研修を受けて、地域で実際にどう生かしたか) その後を話し合えればよいと思う。
- ・ このような研修会は引き続き行っていくべきだと思う。

【その他】

- ・ いろいろな世代、分野の人と意見交換ができ、大変有意義な研修会だった。
- ・ 今回いろいろな方が集まりワークショップをすることはとても刺激になり良かった。今後、行政側として改めて支援の強化に取り組むべきと思った。
- ・ 災害にあった地域は防災に関心を持つようになるけれど、災害に合わない地域では関心が薄い。
- ・ 午前中のみ参加だった。ワークショップまでいられたら良かったが、またこのような機会があれば参加したい。
- ・ 日常生活の中で危機感を強くしていく。
- ・ この研修会を今後に活かしたい。
- ・ 密度の高い研修だった。参加させていただいてありがとうございました。
- ・ ワークショップでいろいろな方々と意見交換出来てよかった。
- ・ 非常に有意義な研修だった。ありがとうございました。
- ・ 沢山学べた。ありがとうございました。

2-3. 滋賀県

(1) プログラム概要

開会 (10:00~10:10)

諸留 逸氏 (内閣府政策統括官 (防災担当) 付参事官 (普及啓発・連携担当) 付参事官補佐)
市川 忠稔氏 (滋賀県健康医療福祉部次長)

基調報告「全国における行政・社協 (ボランティア)・NPO 等の三者連携の現状」

(10:10~10:25)

諸留 逸氏 (内閣府政策統括官 (防災担当) 付参事官 (普及啓発・連携担当) 付参事官補佐)

基調対談「被災者の多様なニーズに対応するための連携」 (10:40~11:10)

栗原 英文氏 (福祉防災サポートオフィス未来 代表
滋賀県災害ボランティアセンター運営協議会アドバイザー)
明城 徹也氏 (全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) 事務局長)

パネルディスカッション「災害時の行政・災害VC・ボランティア等の連携

～大阪北部地震の対応をふりかえって～」 (11:10~12:00)

阿部 圭宏氏
(しがNPOセンター代表理事、滋賀県災害ボランティアセンター運営協議会会長)
梅田 純平氏 (大阪ボランティア協会・おおさか災害支援ネットワーク)
佐村河内 力氏 (茨木市社会福祉協議会ボランティアセンター)
菅野 拓 氏 (京都経済短期大学 講師・一般社団法人パーソナルサポートセンター理事)

滋賀県報告「滋賀県の防災・危機管理対策」 (13:00~13:15)

梅村 淳氏 (滋賀県知事公室 防災危機管理局 地震・危機管理室 地震・防災係)

ワークショップ (13:15~15:50)

津賀 高幸氏 (ダイナックス都市環境研究所 主席研究員)

閉会 (15:50~16:00)

諸留 逸氏 (内閣府 政策統括官 (防災担当) 付参事官 (普及啓発・連携担当) 付参事官補佐)
嶋寺 源一氏 (滋賀県 知事公室 防災危機管理監)

(2) 講評 (抜粋)

【1. JVOAD 明城氏】

- ・ 困りごとの対応策の順番を考えたことが大事。
- ・ 自分たちがやれることだけを共有するのではなく、隙間になっていることを共有することが大事。
- ・ 地域特性、社会情勢が違うので同じ災害はないが、同じような困りごとは起きている。平時から我々も一緒に考える場を作っていきたい。

【2. 茨木市社会福祉協議会ボランティアセンター 佐村河内氏】

- ・ 伝達、顔見しり、平時からという言葉があった。
- ・ 平時からのつながり、ノウハウが必要。最終的には住民につながることが大事。

【3. 関西大学 菅氏】

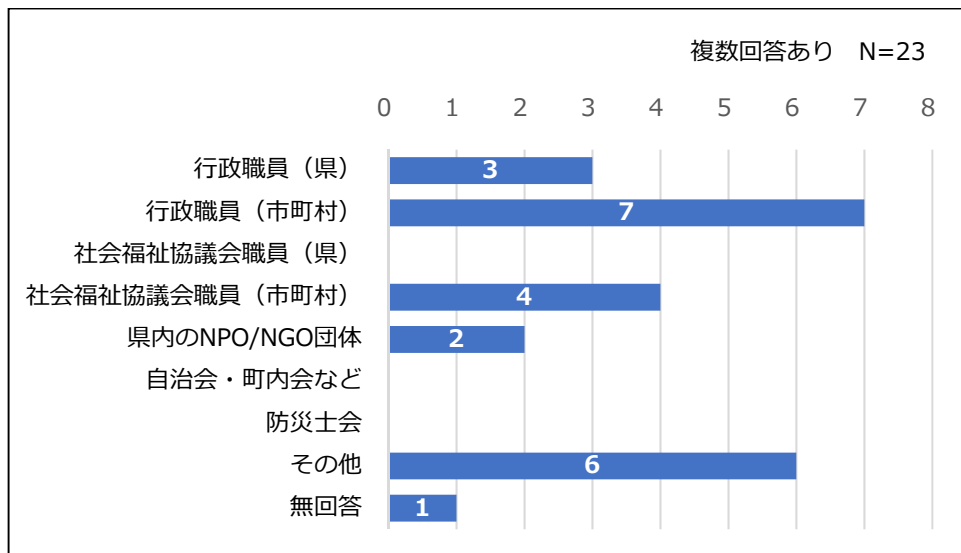
- ・ NPO の市民活動の行動原理の特徴は繋がりながら行動していくこと。NPO はつながりでノウハウを蓄積していき、繋がっている先にノウハウなどの資源がある。繋がった先の相手が何をできるかわかっていて、知っているから資源が活きる。
- ・ ネットワークは、出来上がった完成形が大事なのではなくプロセス作りが大事。
- ・ 一人一人の生活の立て直しを考えることが大事。生活をどう支援していくのか。社協の役割、行政の制度、国の支援がある。
- ・ 連携のイメージが違っても、違うことが分かったことで次に繋がる。今日は協働のプロセスをいろんな形でみれた。この場が次に繋がると感じた。

(3) アンケート結果

■実施日時：令和元年 9月 28日 (土)

■アンケート回収数 (N) = 23

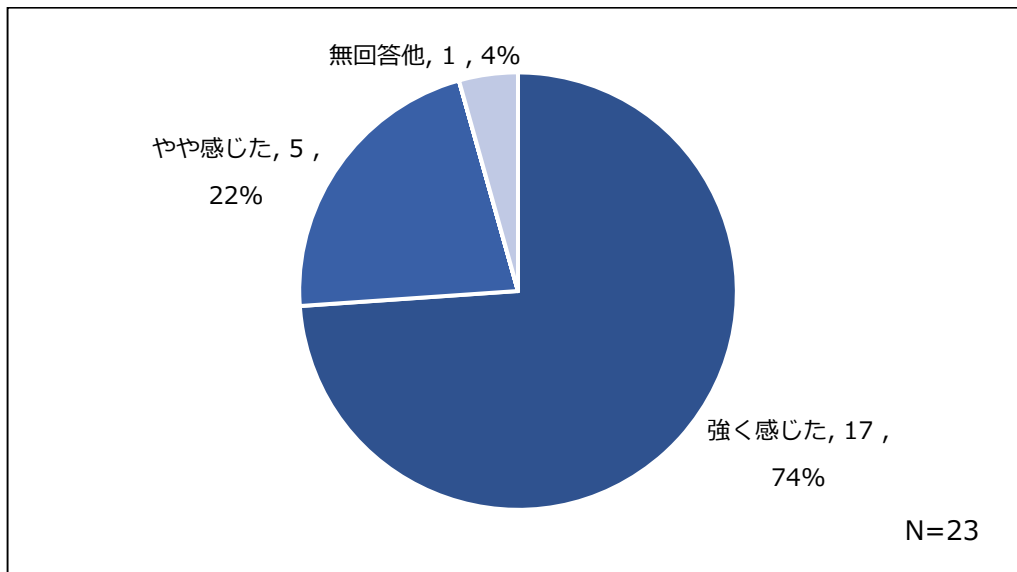
問1 ご自身のご所属についてお聞かせください。(複数回答可)



問1 所属について	件数	割合
行政職員 (県)	3	13%
行政職員 (市町村)	7	30%
社会福祉協議会職員 (県)	0	0%
社会福祉協議会職員 (市町村)	4	17%
県内の NPO/NGO 団体	2	9%
自治会・町内会など	0	0%
防災士会	0	0%
その他	6	26%
無回答	1	4%

「その他/6件」の回答では、「赤十字ボランティア」、「生活協同組合の連合会」、「社会福祉法人」があった。

問2 本日の研修はいかがでしたか。行政・ボランティア・NPO等からなる連携体を貴市町村に構築または強化する必要があると感じましたか。



問2 構築または強化する必要性	件数	割合
必要性を強く感じた	17	74%
必要性を感じた	5	22%
どちらでもない	0	0%
必要性を感じなかった	0	0%
必要性を全く感じなかった	0	0%
無回答	1	4%

問3 研修内容を踏まえ、今後取り組むべきと考える事項をご記入ください。(自由回答)

【三者の連携】

- ・ 三者連携の連携体は設置しているか、数年前から動いていないので、まずは会議を開くべきだと考えている。
- ・ 三者連携を市内で取組みたいと思ったが、誰とどう連携するのか、音頭はだれがとるのか。
- ・ 行政・社協・ボランティアなどの関係機関相互の顔の見える関係作りをしていきたい。
- ・ 行政・ボランティア・NPO 等の連携について意見交換できる場で積極的に意見交換ができればと思った。
- ・ 行政、ボランティア、NPO がお互いに何ができて、何ができないのかを把握し、有事の際には長所を生かして少しでも早く被災者が普段の生活を取り戻せるようにしたい。
- ・ 奈良県は山々に囲まれて、天災や地震等々が少ないので、一般市民の方の防災に関する知識が薄い様を感じる。今後、取り組むべき対策は、防災マップの作製や食料品の備蓄を充実させて、いざという時困らず慌てないようにすることが、大変重要なことだと思う。そして、何よりも行政と NPO、ボランティアの方との三者連携がとても大切でそれぞれの役割をスムーズに対応しながらやっていくことが肝要であると考えている。
- ・ 行政・社協・ボランティアなどの関係機関相互の顔の見える関係作りをしていきたい。

【訓練/研修】

- ・ 三者連携を想定した訓練。
- ・ 想像力だけでは限界があるので、実際に行った人から話を聞くことや実際に行くことが大事だと思う。
- ・ 平時からの交流や勉強が重要だと思う。

【ネットワーク・関係づくり】

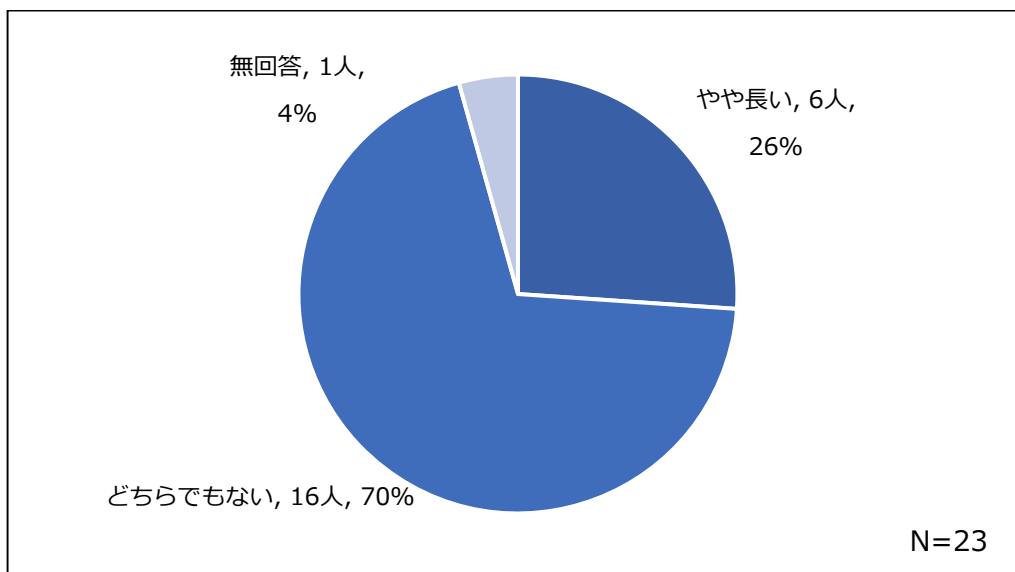
- ・ 社協と話し合いを深める。

【その他】

- ・ 今日の内容について、取組が発展すればいいと思う。
- ・ 社協が地域に一番近いところに入るべき。それはその通りだと思うが、その通りにできる社協はあるのか。結局、外部 NPO が一番地域住民の困りごとを把握している。自分の地域が被災しても、多分同じようにオペレーションだけでも精一杯。それすらも回っていけない状況と思う。どうしたらよいか悩む。

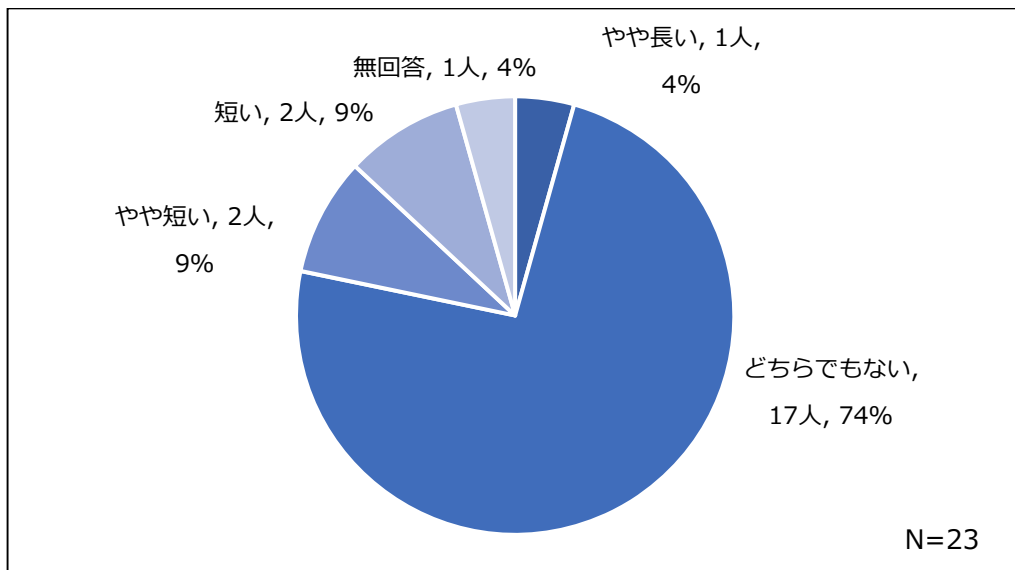
問4 研修会の運営についてお聞かせください。

⑤ 研修全体の時間は適切でしたか。



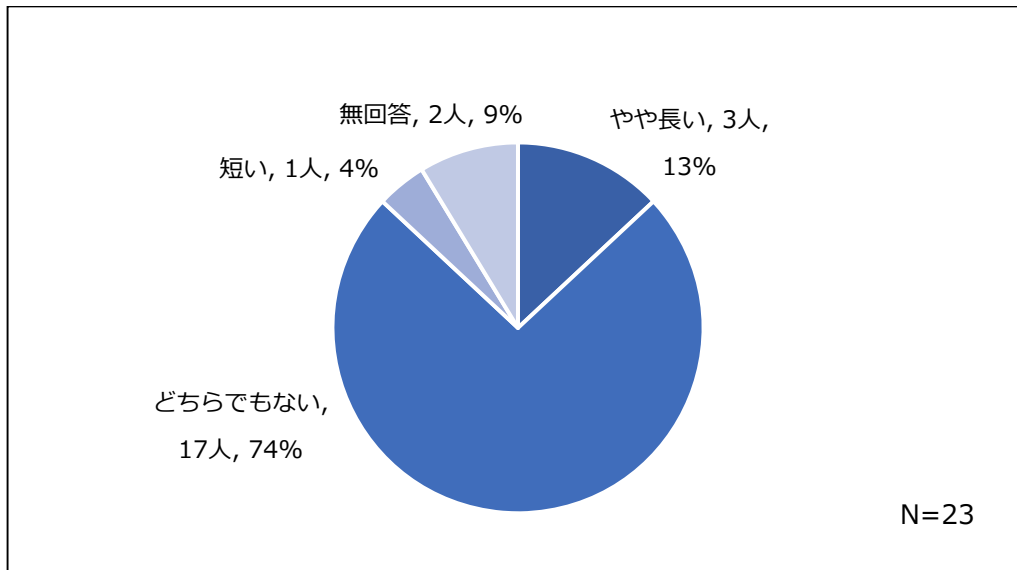
①研修全体の時間	件数	割合
長い	0	0%
やや長い	6	26%
どちらでもない	16	70%
やや短い	0	0%
短い	0	0%
無回答	1	4%

⑥ 各講義の時間は適切でしたか。



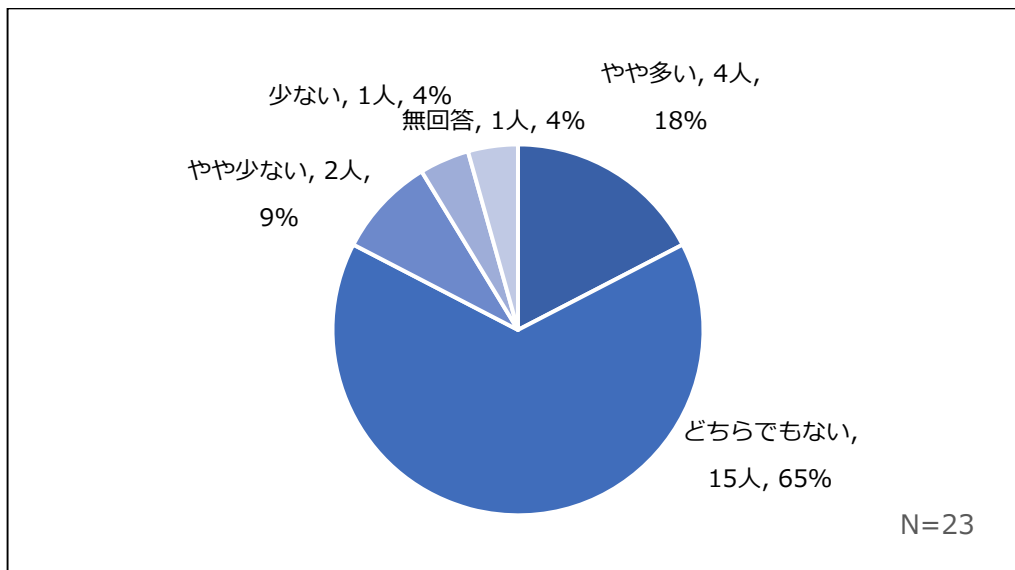
②各講義の時間	件数	割合
長い	0	0%
やや長い	1	4%
どちらでもない	17	74%
やや短い	2	9%
短い	2	9%
無回答	1	4%

③ワークショップの時間は適切でしたか。



③ワークショップの時間	件数	割合
長い	0	0%
やや長い	3	13%
どちらでもない	17	74%
やや短い	0	0%
短い	1	4%
無回答	2	9%

④全体の情報量は適切でしたか。



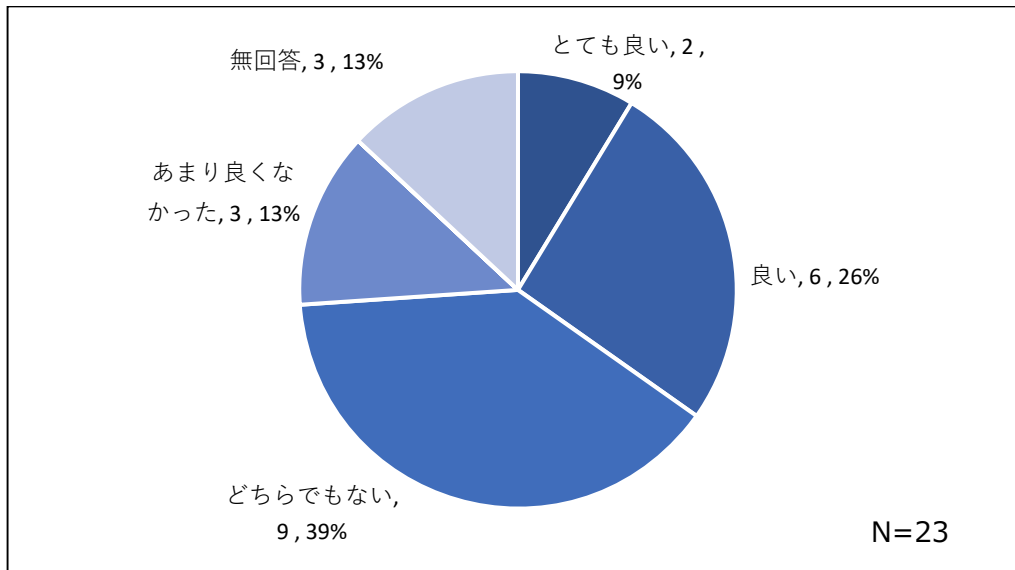
④全体の情報量	件数	割合
多い	0	0%
やや多い	4	17%
どちらでもない	15	65%
やや少ない	2	9%
少ない	1	4%
無回答	1	4%

問 5 研修内容、それぞれの項目について5段階（5が最高評価）で評価し、その理由についてもお聞かせください。

① 全体

	とてもよい	よい	どちらでもない	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	合計
内閣府基調報告	2 (9%)	6 (26%)	9 (39%)	3 (13%)	0 (0%)	3 (13%)	23 (100%)
基調対談	9 (39%)	7 (30%)	3 (13%)	1 (4%)	1 (4%)	2 (9%)	23 (100%)
パネルディスカッション	7 (30%)	8 (35%)	2 (9%)	4 (17%)	0 (0%)	2 (9%)	23 (100%)
滋賀県報告	4 (17%)	4 (17%)	10 (43%)	2 (9%)	0 (0%)	3 (13%)	23 (100%)
ワークショップ	6 (22%)	7 (30%)	3 (13%)	2 (9%)	0 (0%)	5 (22%)	23 (100%)

① 内閣府基調報告



①内閣府基調報告	件数	割合
とてもよい	2	9%
よい	6	26%
どちらでもない	9	39%
あまり良くなかった	3	13%
良くなかった	0	0%
無回答	3	13%

◆主な理由

【とてもよい】

- ・ 近年のボランティアの状況や三者連携について、わかりやすく説明していただけたから。
- ・ 内閣府の取組がよくわかりました。

【よい】

- ・ H30年7月の豪雨によるときも奈良社協から岡山県倉敷市にボランティアに行き、土嚢に泥をひたすら積んで、暑い中でしたが作業をした。今年の台風19号の影響による被災で、2度社協から福島県郡山市、いわき市でボランティアをしてきた。また福島県いわき市に行きます。実際に行って状況を見てきているので、データはよくまとまっていると感じた。
- ・ 行政とボランティアの関係やボランティアの動きが分かった。
- ・ 現在継続している長野や宮城の事例紹介をまじえた報告が参考になった。
- ・ 広域での災害対応事例を知ることができてよかった。

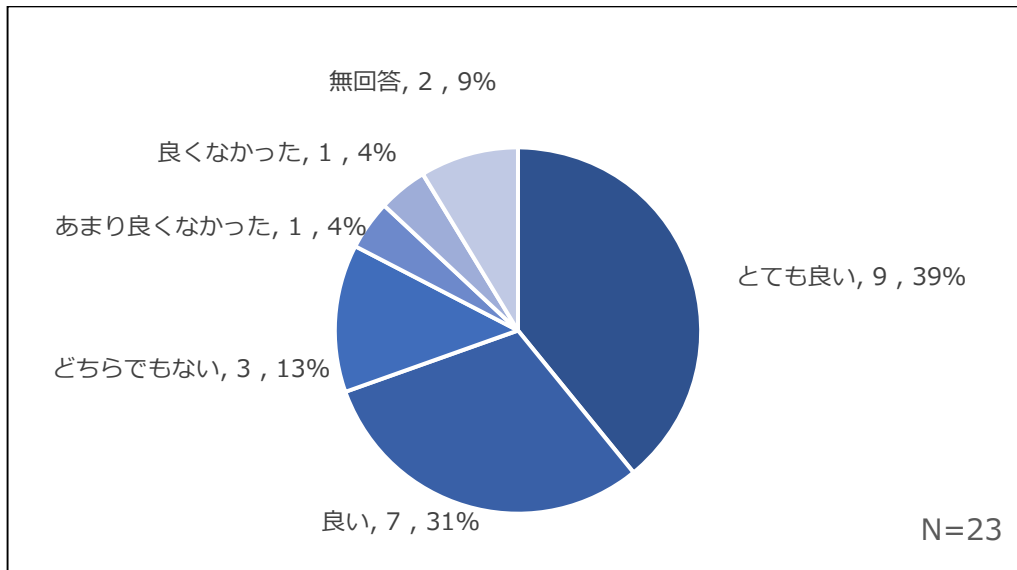
【どちらでもない】

- ・ もう少し国の考えを聞かせていただきたいかった。

【あまり良くなかった】

- ・ 現状がわかっていないのではないかな。

② 基調対談「被災者の多様なニーズに対応するための連携」



②基調対談	件数	割合
とてもよい	9	39%
よい	7	30%
どちらでもない	3	13%
あまり良くなかった	1	4%
良くなかった	1	4%
無回答	2	9%

◆主な理由

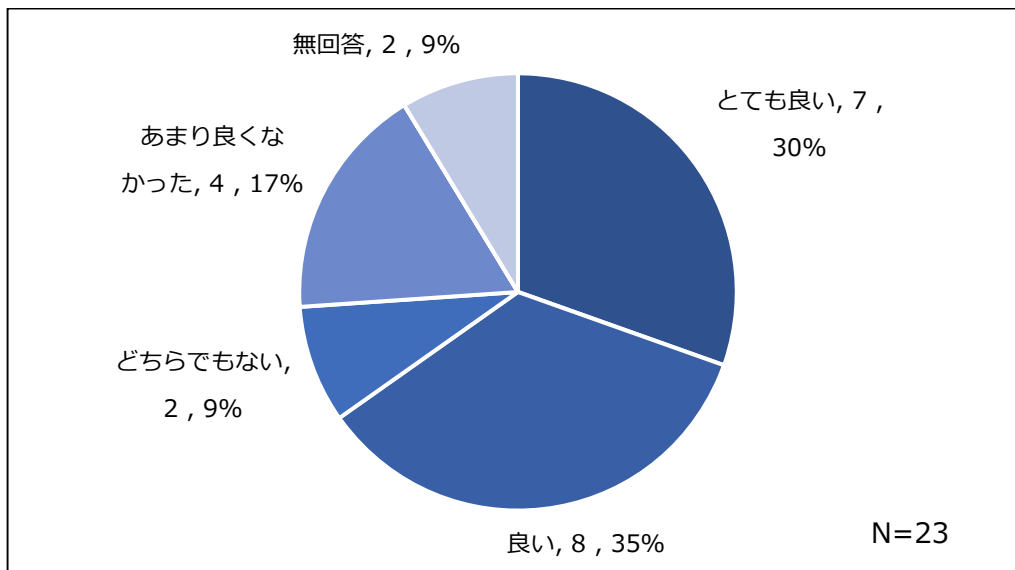
【とてもよい】

- ・ 三者連携の必要性がわかった。
- ・ 実際のニーズ対応を聞くことができ、振り返ることができた。
- ・ 現在継続している丸森町での栗原さんの報告が大変参考になった。
- ・ 被災者のニーズに対する支援の在り方を考えさせられた。
- ・ 行政が平常時からすべきこと（災害救助法等の制度を生かすための学習をする）ボランティアやNPO がすべきこと（制度の足りない部分について補う）という何をすべきかについて分かった。
- ・ 栗原さんの話はよかった。

【よい】

- ・ 様々な天災や地震での被災者の方に対応するための情報や連絡の部分での事例が詳細にわかりやすかった。
- ・ ポイントとなる所が多く勉強になった。
- ・ ニーズは一度すべて受け付けて、そのあと「人」にできる作業と「重機」を含めた専門ボランティアに頼る作業に仕分ける必要性を感じることができた。

③ パネルディスカッション「災害時の行政・災害 VC/ボランティア等の連携～大阪北部地震の対応をふりかえって～」



③パネルディスカッション	件数	割合
とてもよい	7	30%
よい	8	35%
どちらでもない	2	9%
あまり良くなかった	4	17%
良くなかった	0	0%
無回答	2	9%

◆主な理由

【とてもよい】

- ・ 災害発生時から復興に至るまでの福祉部門の重要性がよく分かった。
- ・ 有識者の方から貴重な意見をいただき、行政の中だけでは気づきにくい事にも目を向けることができたから。
- ・ 大阪北部地震にボランティアに行ったが、当時のご苦労がよくわかった。
- ・ 大阪を事例に発災時のボランティア組織の動きについて参考になったと思う。(大阪ボランティア協会、茨木市ボランティアセンター) 締めの各パネラーの問題提起が重要だと思った。
- ・ 地域福祉の必要性、協働へのポイント。

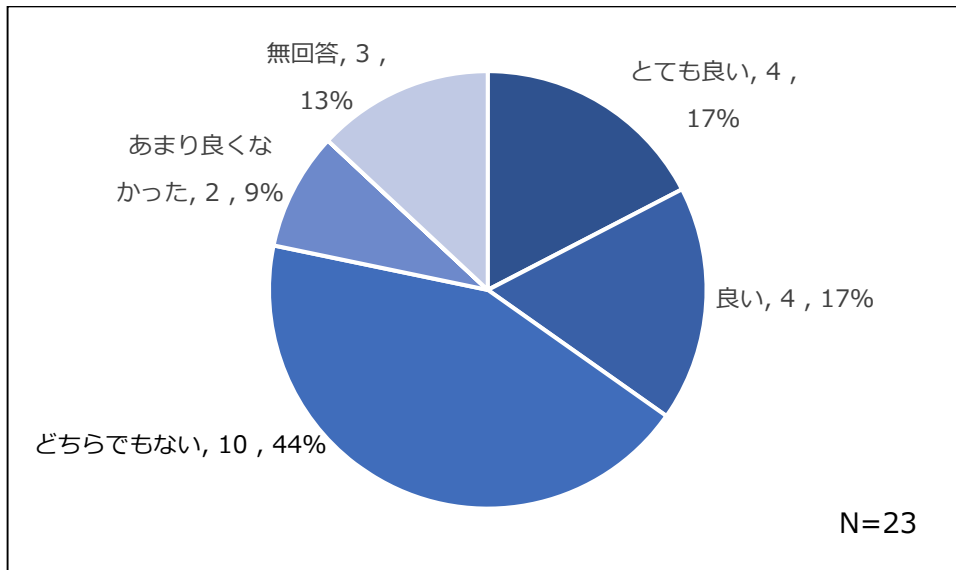
【よい】

- ・ 去年の6月の大阪北部地震へのボランティアに行ったが、行政や災害 VC、ボランティアそれぞれの立場でのいざという時の連携が、いかに大切か身をもって知った。的確な指示をそれぞれにしなければ、うまく連携が回らない。
- ・ 災害対応の課題は社会保障の確保ということは、常に考えておくべきことだと思った。
- ・ 運営について学びを深めることができた。

【あまり良くなかった】

- ・ 少し時間が短かった。

③ 滋賀県報告



④滋賀県報告	件数	割合
とてもよい	4	17%
よい	4	17%
普通	10	43%
あまり良くなかった	2	9%
良くなかった	0	0%
無回答	3	13%

◆主な理由

【とてもよい】

- ・ 私は、奈良県在住だが、奈良は今までに地震や天災が少ない地域なので、住民の防災意識が薄い傾向にあるため、滋賀県の防災への取り組みについて、学ばせていただいた。いかに三者の連携が大事か、思い知らされた。
- ・ 県内の状況がよくわかった。

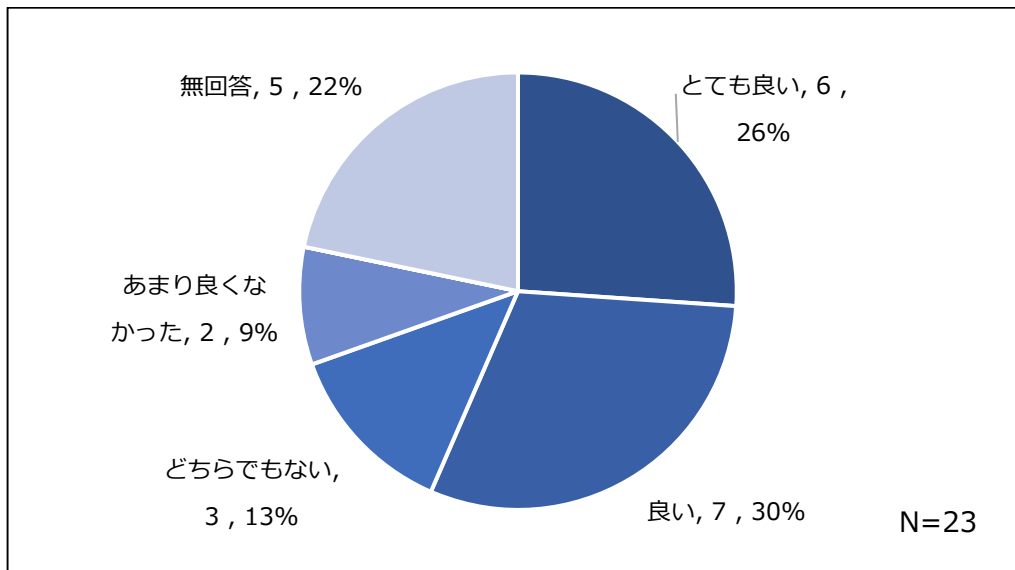
【よい】

- ・ 災害経験が少ないということだったが24時間365日対応できる体制ができたことはよかった。
- ・ 滋賀県の取り組みを知ることができた。

【どちらでもない】

- ・ 県民でありながら、知らないことがたくさんあった。

④ ワークショップ



⑤ワークショップ	件数	割合
とてもよい	6	26%
よい	7	30%
普通	3	13%
あまり良くなかった	2	9%
良くなかった	0	0%
無回答	5	22%

◆主な理由

【とてもよい】

- ・ 他機関の方、前原さんと検討できてスキルアップが図れた。
- ・ それぞれの立場で、災害時に想定される困り事に対しての解決策を考えることは、多面的な意見を聞くことができよかった。
- ・ 自分にはない視点を知ることができて面白かった。知識不足なことも良く分かったので勉強したい。
- ・ 視点がよかった。

【よい】

- ・ グループごとにワークショップをしたが、最後にみんなで点数をつけたり、みんなの意見が見れたのでよかった。
- ・ 被災状況の設定から、それぞれの立場に立って、状況をどうしたらいいかのワークショップでしたが、普段被災現場でボランティアをさせていただいていますが、逆にそれぞれの立場に立って考えたら、じっさいに考えや意見が出てきにくいものだと感じましたが、いい経験になりました。
- ・ 行政、社協、NPO、企業、様々な視点で話すことができよかったです。

問6 全体のプログラムを通じ、ご意見・ご感想等お聞かせください。

- ・ 危機管理センターのツアーがよかった。話が長いと何を言いたいかわからなくなる。
- ・ とても有意義な研修でした。来年も参加したいと思っています。
- ・ 市社協と行政の参加が少ない。もっと関心を持つべきだと思いますし、もう少し早く会議の日程が下りてきたらよかった。
- ・ 防災について深く考える日になりました。
- ・ 各グループで作成された「災害時」「平常時」シートの情報が欲しいです。
- ・ 県内の市町において、防災等についてそれぞれ取り組みされていると思いますが、やはり進んでいるところ、まだまだなところと、とても差があるように感じます。進んでいる市町の住民や企業は良いですが、これからの市町に住んでいる人たちは、これだけ災害が起きている近年で、とても不安に思います。県内全体が安心できる町づくりを強く進めていただきたいと思います。
- ・ 災害に対するいざという時の備えや各班に分かれてのワークショップで考えることの重要性や、発表でのほかの班での経験によるご意見や考えは大変参考になりました。参加させていただき大変良かったです。そして奈良での講習、本日の滋賀での講習でダイナックスの会社の細川様、他スタッフの皆様、大変お世話になりまして、有難うございました。

2-4. 神奈川県

(1) プログラム概要

開会 (10:00~10:10)

石垣 和子氏 (内閣府 政策統括官 (防災担当) 付企画官 (普及啓発・連携担当))
原田 潔氏 (神奈川県立かながわ県民活動サポートセンター 所長)
石黒 敬史氏 (社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 常務理事)

基調報告「全国における行政・社協 (ボランティア)・NPO 等の三者連携の現状」

(10:10~10:30)

石垣 和子氏 (内閣府 政策統括官 (防災担当) 付企画官 (普及啓発・連携担当))

パネルディスカッション

「応急期、復旧・復興期における被災者ニーズと三者連携の取組み事例」(10:30~11:50)

明城 徹也氏 (全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD) 事務局長)
詩叶 純子氏 (岡山 NPO センター/災害支援ネットワークおかやま 事務局)
宮定 章氏 (まち・コミュニケーション 代表理事)
樋口 務氏 (くまもと災害ボランティア団体ネットワーク(KVOAD) 代表理事)
三浦 隆一氏 (東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN) 宮城担当)

情報提供「神奈川県の取組み状況」(11:50~12:00)

木部 力淑氏 (かながわ県民活動サポートセンター ボランティア活動サポート課長)

ワークショップ (13:00~15:50)

鈴木 まり子氏 (日本ファシリテーション協会 災害復興委員会)

閉会 (15:50~16:00)

(2) 講評 (抜粋)

【1. JVOAD 明城氏】

- ・ ワークの中で、お互いどういうことをする団体なのかお互い理解できたのは大きなポイントだと思う。
- ・ 台風 19 号の話題で、避難所から仮設住宅に移る時期になっているが、住まいの箱はあるが家電は提供されるのかという課題がある。冬を迎えるなかで暖房器具がなくて大丈夫かというところは心配なところ。
- ・ 行政は、過去の災害では対応したり今回では対応しなかったりと、まちまち。そういったところを一緒に考え、事前に詰めておくことが重要。

【2. 岡山 NPO センター／災害支援ネットワークおかやま 詩叶氏】

- ・ 平時に民間や行政、NPO での協働や協定の成功体験をつくってほしい。
- ・ 平時に協働で事業を積み重ねておくと、行政と社協と災害時につながりやすい。

【3. KVOAD 樋口氏】

- ・ 熊本地震の時は、行政、NPO、社協との平時の関係性はなかった。ワークの中で仲の悪い団体と仲良くすると意見もあったが、災害時はそんな団体とも一致団結する。普段から仲の悪い団体をしっかり知ることも必要。
- ・ 南海トラフ地震となると、ここにいる半分の人が被災者になる。次の支援者を探しておくことが重要。
- ・ いろいろなところにアンテナを張って、情報発信をうまく行ってほしい。熊本の事例であればデータベースがあるので、HP を確認いただきたい。

【4. まち・コミュニケーション 宮定氏】

- ・ 災害がおきると地域から人がいなくなってしまう。最後は誇りです。地域に誇りをもって活動してください。

【5. 東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN) 宮城担当 三浦氏】

- ・ 宮城県の勉強会にて人権の話があった。憲法の基本的人権の尊重「すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。」これが、災害救助法の議論の際に、基本的人権の尊重が一時的におろそかになると議論されていた。
- ・ この基本的人権を守るためには、「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない」という文言がある。こうしたみなさんの早く復興しようとする行動は不断の努力の一部だと思っている。

(3) アンケート結果

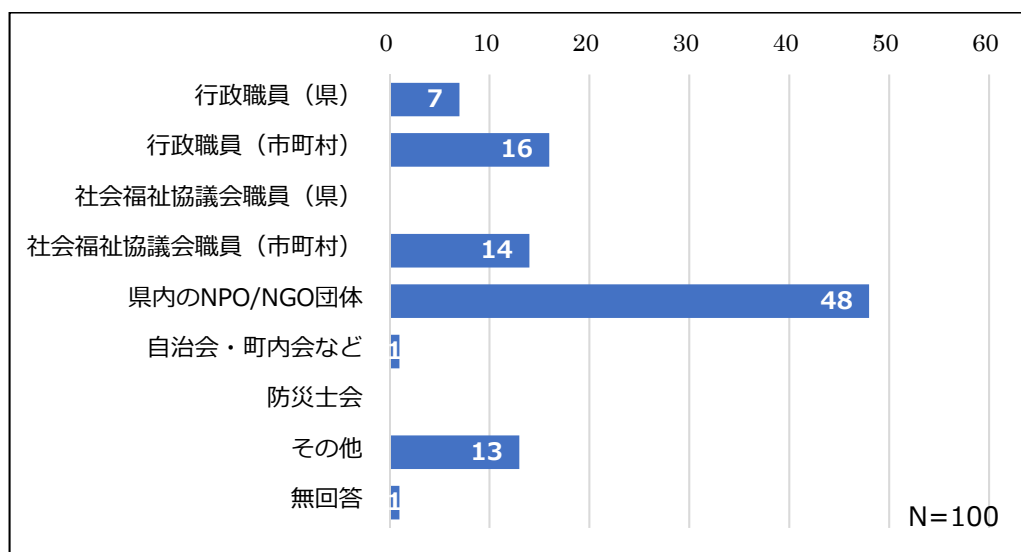
令和元年度災害時における三者連携・協働に向けた研修会（神奈川県）

参加者アンケート 集計結果

■実施日時：令和元年 12月3日（火）

■アンケート回収数（N）=100

問1 ご自身のご所属についてお聞かせください。（複数回答可）

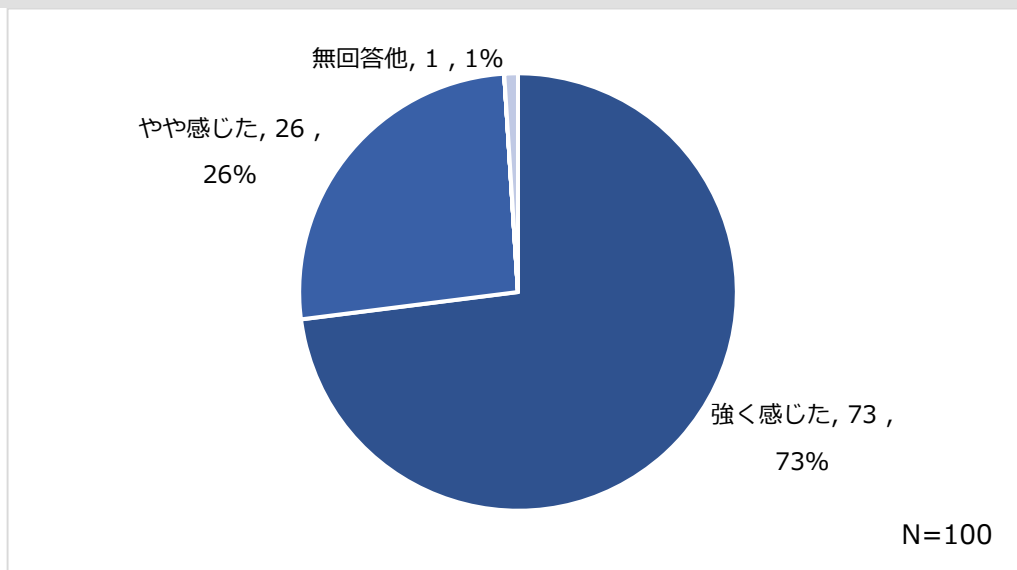


問1 所属について	件数	割合
行政職員（県）	7	7%
行政職員（市町村）	16	16%
社会福祉協議会職員（県）	0	0%
社会福祉協議会職員（市町村）	14	14%
県内のNPO/NGO団体	48	48%
自治会・町内会など	1	1%
防災士会	0	0%
その他	13	13%
無回答	1	1%

「県内のNPO/NGO団体/48件」が5割程度の回答であった。

また、「その他/13件」の回答では、「市民活動サポートセンター」、「神奈川青年会議所」、「高齢者施設協議会」、「ボランティア」、「災害ボランティアネットワーク」、「神奈川県理学療法士会」、「県外NPO」、「社会福祉会」、「話題提供者」、「NPO、NGOでないボランティア団体・災ボラ支援室登録団体」があった。

問2 本日の研修はいかがでしたか。行政・ボランティア・NPO等からなる連携体を貴市町村に構築または強化する必要があると感じましたか。



問2 構築または強化する必要性	件数	割合
必要性を強く感じた	73	73%
必要性を感じた	26	26%
どちらでもない	0	0%
必要性を感じなかった	0	1%
必要性を全く感じなかった	0	0%
無回答	1	1%

問3 研修内容を踏まえ、今後取り組むべきと考える事項をご記入ください。(自由回答)

【三者連携】

- ・ 危機感をもって、広く各団体の連携に取り組む。
- ・ 行政、社協、NPO との連携の場を作る。人材育成、日ごろから地域でのネットワーク形成。
- ・ 三者連携会議の事前構築。民間支援セクターの県組織化。実践づくり
- ・ 三者連携を自分の周りから進めていきます。
- ・ 三者連携、ネットワークづくり
- ・ 三者連携体の NPO に公益法人や企業、大学等を含めるかどうかの検討。
- ・ 三者連携、まずは場所づくりから
- ・ 行政、NPO、ボラ団体と自治体の四者連携は大切と思いました。なるべく広く仲間入れて協議したいと思います。今日のメンバーは素晴らしい人たちばかりで支援より研修になりました。
- ・ 文字通りの三者連携
- ・ 実際に被害にあった県の事例を周知させ、災害が起きる前に備えること。三者連携を強化し、話し合いの場を作ること。
- ・ この三者連携の強化に進めてほしい
- ・ 県及び地域とも行政、社協、ボランティア団体との連携は極めて素早く解決すべき。

【ネットワーク・関係づくり】

- ・ 早急に普段からの協議の場を作る。
- ・ 団体、地域の他の団体、商店街、町内会など多くの関係者と情報を共有しながら、顔の見える関係性を築いていきたいと思いました。できることから一歩ずつやっています。
- ・ 仲の悪い県内団体同士の仲直り。政令市の特別法を整備。
- ・ 小エリアから県域、関東域ぐらいまでの取り組みを県の方々と協働して考えていきたいと思いました。
- ・ 災害時のボランティア活動を復興に結び付けるために行政、市社協、NPO の連携を行う必要があると感じました。特に、それぞれの強みや弱み、災害時のマニュアルの共有など、お互いの手の内を見せあうことから始めたい。
- ・ 災害対策を共に考える機会。それぞれの特徴を知る。なによりも「お隣さん」を助けることができる世の中にしたいと思いました。太陽の光、水の力で助けることができますと思います。
- ・ 関係団体との交流、課題の発見、解決策の模索
- ・ 様々な市民活動団体なり、自治会なりが、災害時にそれぞれに役割を果たすから、日頃から、自分たちでできることを話し合ったり、他とつながっておくことが大事だと感じました。
- ・ 普段災害対策とは関係ないところですが、今回様々な人と話すことができ、とても参考になりました。研修会の中で、普段からの連携ネットワーク作りがいかに大切かを感じたので、実践していきたい。
- ・ 平時からの関係者との連携、話し合いが必要
- ・ 自分が取り組むべきことを明確にして実現しつつほかの機関と連携を進める必要がある。
- ・ お互いがどこまでならできるのか。お互いがわからない状態だったのでまずそこからかな。
- ・ 顔の見える関係づくり。

- ・ 地元での関係づくり
- ・ 地元社協での連携強化。団体が繋がれる機会創出
- ・ 緊急の際に役立つ組織や近所にも多くの関係機関があることを知った。日頃の知り合いネットワークが大切なことが事例などを聞いて実感した。
- ・ 社協と行政の連携プレーの強化。
- ・ グループワークでは災害ネットワーク等の関係の方が多い中で、福祉に関する課題を知ってもらい助言をいただけたことがありがたかったです。違う業種の団体に、それぞれの事業を知ってもらうことが取り組むことのひとつだと思います。
- ・ 障害者団体を含めたいろいろな団体との連携、話し合いが必要と思います。
- ・ それぞれの団体がお互いに何をしているのか把握する必要がある。
- ・ 平時より顔の見える関係を作れるように務めていきたい。
- ・ 社協との連携
- ・ 団体の連携
- ・ ボラと行政、団体との連携
- ・ 地域での連携がまだ不十分
- ・ 市民活動団体のネットワーキング。団体と行政、ボラとの連携
- ・ 市内の様々な組織、団体との交流。
- ・ 本日の場で集まった方々のネットワーク化。

【訓練/研修】

- ・ 行政、ボランティア、NPO 法人が災害時にどのような役割で活動するか、あらかじめ決めておかなければならないと思いました。マニュアルの整備だけでなく、定期的な会議や訓練も必要であると感じました。
- ・ 具体的な連携の取り方の研修会。各地域での連携の取り方。行政の認識が低すぎるので連携がとりづらい。
- ・ 県の指令の大切さ、各町会との連携はやってやりっぱなしではなく継続せよ。
- ・ 行政が考えること、住民が考えること、ボランティアが考えること、いろいろな立場で考えたときに、この三社が連携した話し合いの場や、訓練などを取り組んだほうがいいのかなど思いました。行政間での連携などもするとよりよくなるのではないのかと思いました。
- ・ 支援者会議。技術者勉強会、研修会。運営+支援などの被害想定訓練が必要。
- ・ 三者連携体制の研修
- ・ 話し合いとその結果に基づいた計画、マニュアルの政策及び訓練、研修の見直し。情報発信の見直し。
- ・ 行政、社協の職員の方を交えたこういう企画は今まで無かったので三者連携など、議論できる機会をこれからも作ってほしいです。
- ・ 潜在的な支援者を日ごろから発見、育成することが必要。その中で、関係機関、団体とのつながりも自然と高まっていくと思う。
- ・ この研修自体を広く実施したい。

【制度・体制】

- ・ 災害ボランティアセンターの立ち上げに関するマニュアルや市社協との連携を引き続き行う必要性があると感じました。
- ・ 災害時の役割分担の明確化
- ・ 県内他自治体との連携、相互協力体制の構築。中間支援の役割の明確化、指定管理者と行政との間の協定にもりこむ。災害時の対応をマニュアル化、共有化。
- ・ すべてアップデートし、動ける体制を整える。

【情報共有】

- ・ 平時に、行政、社協、住民の民間でできること。難しいことを整理、共有。民間は各団体が災害時にどんな支援活動ができるのかの整理したい。
- ・ 今日の研修内容を地域で共有する。小さな共同の取り組みを積み重ねる。
- ・ 組織内での共有を進め、地域団体への情報共有を展開していきたい。
- ・ 日頃からの情報交換
- ・ 県内関係者のコミュニケーションの重要性を感じたので、まずは近場から定期的に情報交換することが必要だと思う。

【周知/啓蒙活動】

- ・ 災害時における中間支援組織が果たす役割の重要性に関する啓発
- ・ 災害 VC の運営や設置について、協働団体に周知や研修をすることが、実践につながると感じた。

【その他】

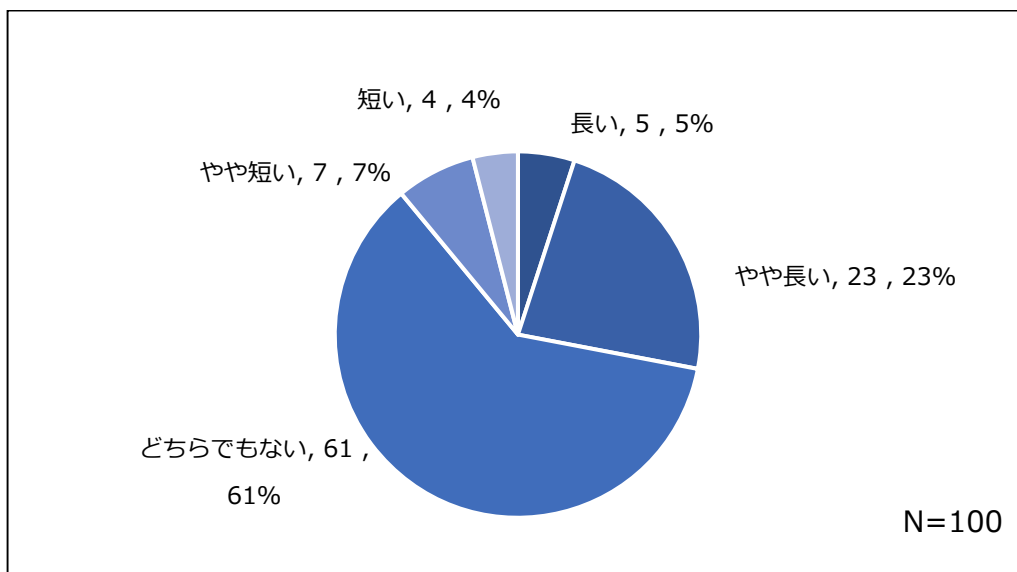
- ・ 色々なマニュアルを見たい。
- ・ 台風 19 号では、恥ずかしながら準備不足を痛感しました。このような機会を通して、今後も色々なチャンネルを広げていければと思います。
- ・ 被災地へのボランティア派遣（体験）が必要。
- ・ 全体の事、地域の事で各々取り組む必要があると思いました。
- ・ 現実に起きたときに対応出るのが心配です。今日の研修を活かして平時業務を行いたいと思います。
- ・ 受援力の強化
- ・ 今日のお話もワークショップも非常に有意義でした。ただ濃縮されすぎて、皆さんが消化できたか、もったいなかった気がします。
- ・ ペットに関することがなかった。3つの段階でのワークショップで、司会者からは担当されることも記入していいとお話がありましたが、ペットに及ぶまでの内容にならなかった。
- ・ 災害をイメージする力が必要だと感じました。
- ・ ワークショップの付与状況は分かったが、何を回答して求めるのか問題的話としては弱かったのではないか。
- ・ 近所力の向上。スキルの登録制度
- ・ 災害に関する全般的な知識を身に付けなくては、全体的なコーディネート力や指揮はできない。

今後の自己啓発に努めるとともに、行政以外の力をどのように活用していくのかをしっかりと考えたい。

- ・ 広域連携の必要性

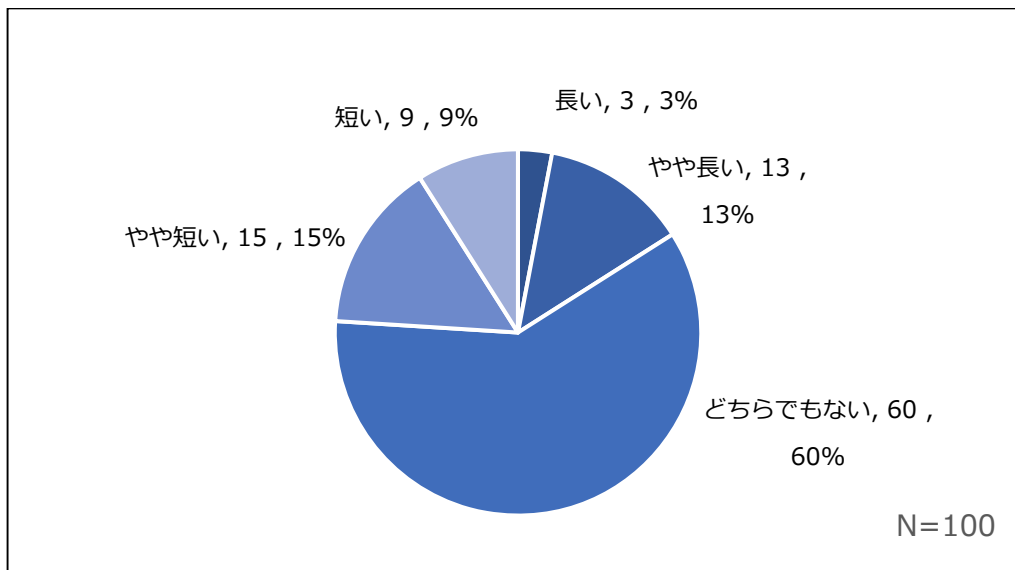
問4. 研修会の運営についてお聞かせください。

①研修全体の時間は適切でしたか。



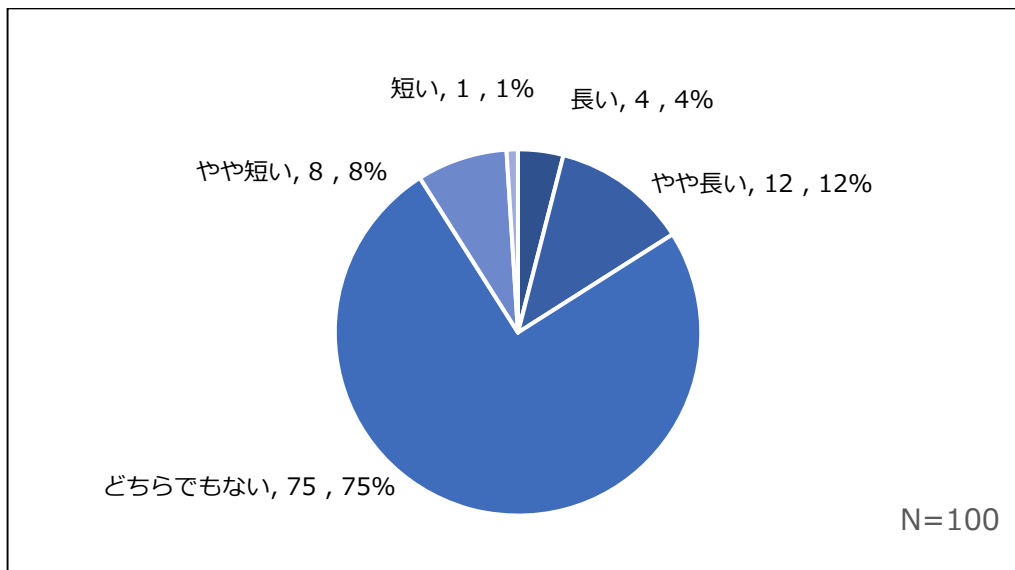
①研修全体の時間	件数	割合
長い	5	5%
やや長い	23	23%
どちらでもない	61	61%
やや短い	7	7%
短い	4	4%

②各講義の時間は適切でしたか。



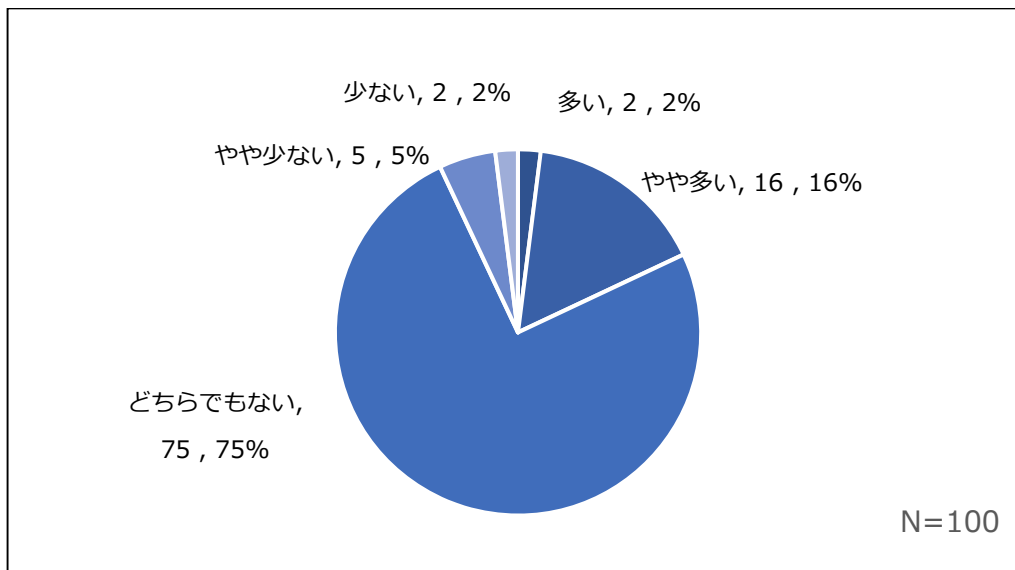
②各講義の時間	件数	割合
長い	3	3%
やや長い	13	13%
どちらでもない	60	60%
やや短い	15	15%
短い	9	9%

③ワークショップの時間は適切でしたか。



③ワークショップの時間	件数	割合
長い	1	1%
やや長い	12	12%
どちらでもない	75	75%
やや短い	8	8%
短い	1	1%

④全体の情報量は適切でしたか。



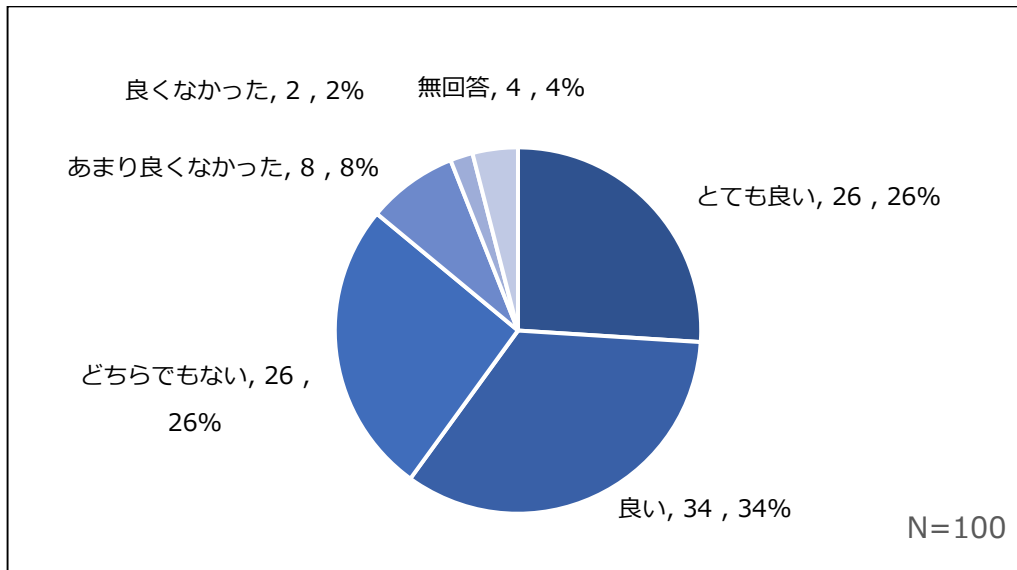
④全体の情報量	件数	割合
多い	2	2%
やや多い	16	16%
どちらでもない	75	75%
やや少ない	5	5%
少ない	2	2%

問5. 研修内容、それぞれの項目について5段階（5が最高評価）で評価し、その理由についてもお聞かせください。

① 全体

	とても良い	良い	どちらでもない	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	合計
内閣府 基調報告	26 (26%)	34 (34%)	26 (26%)	8 (8%)	2 (2%)	4 (4%)	100
パネルディスカッション	32 (32%)	27 (27%)	22 (22%)	13 (13%)	1 (1%)	5 (5%)	100
情報提供	11 (11%)	28 (28%)	43 (43%)	10 (10%)	4 (4%)	4 (4%)	100
ワークショップ	44 (44%)	30 (30%)	14 (14%)	8 (8%)	1 (1%)	3 (3%)	100

① 内閣府基調報告



①内閣府基調報告	件数	割合
とても良い	26	26%
良い	34	34%
どちらでもない	26	26%
あまり良くなかった	8	8%
良くなかった	2	2%
無回答	4	4%

◆主な理由

【とても良い】

- ・ とても良い機会になりました。
- ・ 具体的な内容で分かりやすく聞けました。
- ・ 現状が分かってよかった
- ・ 阪神大震災以降のボランティアをめぐる動きが体系的にわかりました。
- ・ 他地域における活動の際の状況を聞くことができ、今後自分たちが取り組んでいくうえでも参考になりました。
- ・ 分かりやすかった。
- ・ 分かりやすくコンパクトにお話していただきよく理解できました。
- ・ 立場の違いを分かりあうことが大切だと思ったので
- ・ 良く事態がわかった。

【良い】

- ・ すごく勉強になりました。もっと長時間聞きたかったです。
- ・ とてもよく理解できた。
- ・ 現状がわかりました。

- ・ 私自身が知らなかった三者の活動の現状を知ることができました。

【どちらでもない】

- ・ 一回目の出発点にしては上上々。
- ・ 資料に目が行ったのでなかなか、言葉が入ってこなかった。
- ・ 書面上の連携のみで、実際の機関同士できちんと情報共有、提供が行えていない市町村、都道府県があるようだ。それぞれの機関の垣根を取り払って真の連携を期待したい。
- ・ 神奈川は遅れている、三者連携を進めるべき
- ・ 本日の対象は？基調報告は県内市町村の話もするべきだった。

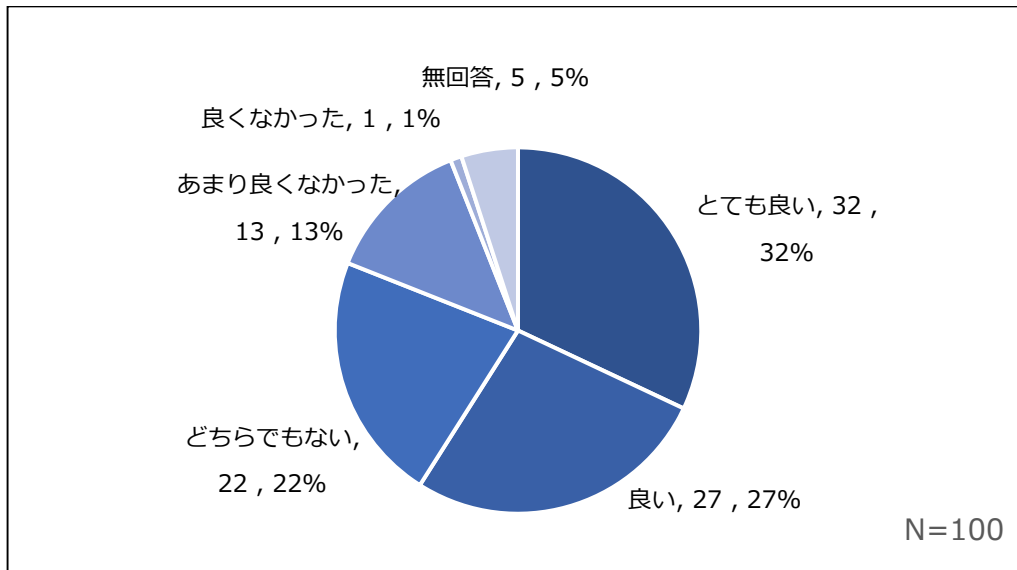
【あまり良くなかった】

- ・ 15号19号の状況紹介は不要。全体がぼけた。
- ・ もう少し整理して話してほしかった。
- ・ 時間がなく、説明が短かったので細かい話を聞くことができなかった。
- ・ 時間が長くなっていた。
- ・ 神奈川県で三者連携を進めるためにより一層のバックアップがあるとわかるのでは

【良くなかった】

- ・ 資料が入っていなかった。ちゃんとやってほしい。係員に言ったが、最後までそのままだった。

② パネルディスカッション「応急期、普及・復興期における被災者ニーズと三者連携の取組み事例」



②パネルディスカッション	件数	割合
とても良い	32	32%
良い	27	27%
どちらでもない	22	22%
あまり良くなかった	13	13%
良くなかった	1	1%
無回答	5	5%

◆主な理由

【とても良い】

- ・ 「三者連携ってなに？どういう意味？」という疑問を事例を通して解消してくれる内容でした。
- ・ それぞれの災害に携わった方々のリアルな体験や助言はとても参考になりました。
- ・ パワポの資料がいただければよかったです。
- ・ フェーズに応じた取り組みと、いかに協働が必要か理解できた。もっと話を聞きたかった。
- ・ 異なる段階の条項を聞くことができた良かった。
- ・ 皆さん立場が違い、同じ話が無かったので良かったです。
- ・ 各パネラーの取り組みや経験が、大変参考になりました。
- ・ 貴重なお話でしたので、もっとたくさん聞きたかったです。
- ・ 経験者の実体験に基づいた貴重なお話だった。
- ・ 口頭説明もあり、わかりやすかったです。
- ・ 今までの苦勞を含めよくわかった。
- ・ 災害のあった地域の方から、具体的なお話を伺えてとても良かったです。
- ・ 時間がたつにつれて支援が変わることが理解できた。
- ・ 多くの立場で話げできた。
- ・ 地域で相談できる場というのはわかりやすかった。

- ・ 日頃から備えておかなければいけないこと、具体的なネットワークの大切さを実感しました。
- ・ 様々なエリアでの取り組みを聞くことができ参考になりました。
- ・ 良かったが、お一人お一人の持ち時間が短かった。

【良い】

- ・ 4カ所、1年前、3年前、8年前 25 主体と各々のことがわかりました。
- ・ 一つ一つもっとじっくり聞きたかったです。
- ・ 各事例はわかりましたがディスカッションとしての意見交換にはなっていないような気がしました。
- ・ 各地の状況を知ることができてよかったです。
- ・ 具体的な取り組みについて知ることができました。
- ・ 個別の事例をもう少しゆっくり聞きたかった。
- ・ 時系列で話を聞いたのはよかった。
- ・ 実際災害時の経験の話が聞いて参考になりました。
- ・ 状況がわかりました。
- ・ 投影資料が手元になく、理解が深まらなかった。

【どちらでもない】

- ・ もう少し時間をとってじっくり聞きたかった。
- ・ もっと、意見と対応の時間が長いほうがよかった。
- ・ パネリストの前置きが長く、本題がはしょられてしまった。
- ・ 期間が3つあることを初めて知った
- ・ 行政サイドのパネラーが一人いるとよかった。事例の中で行政が果たした役割や事前に調整しておくべきだったことなどの話があるとよかった。
- ・ 時間が短くて残念でした。
- ・ 実際の被災地の状況や課題を聞くことができた。
- ・ 神奈川県内災害支援に対する中間支援組織はない。県内活動団体が少ない連携がない。神奈川県の支援センターが設置されたが四者のみの会議は言ったが他の支援者や被災地などの会議など開催できない。
- ・ 他県の事例をもう少し長く聞きたかったです。
- ・ 内容が多く、もっと時間をかけて話をしてほしかった。

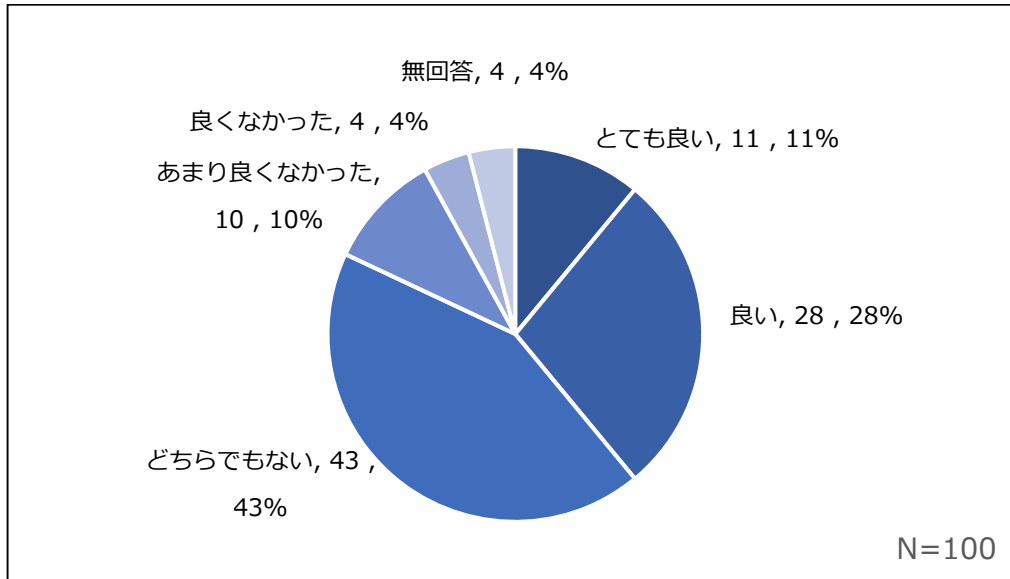
【あまり良くなかった】

- ・ お互いがやったことだったので矢印の向き互いにどう連携をとったのかがわかりづらかった。同じ自治体でくくったほうが三者連携の動きが見れてよかったです。
- ・ もっと話を聞きたかった。時間をもっと欲しい。
- ・ バランスがよかった。
- ・ パネリストの個々の話はもう少し簡単に短くし、ディスカッションを長くしたほうが、具体的な事例の話を引き出せるのではないか。
- ・ 内容はよかったが、時間が短すぎた。

【良くなかった】

- ・ 話のレベル感にばらつきがあり、まとまりがなかった。

③ 情報提供「神奈川県の実施状況」



③情報提供	件数	割合
とても良い	11	11%
良い	28	28%
どちらでもない	43	43%
あまり良くなかった	10	10%
良くなかった	4	4%
無回答	4	4%

◆主な理由

【とても良い】

- ・ ポイントがわかりづらかった。
- ・ 情報共有会議が必要と言っていたのがよかった。
- ・ 神奈川県の実施ボランティア支援の実施がよくわかりました。
- ・ 日頃よりの支援、心より感謝申し上げます。

【良い】

- ・ もう少し具体的な内容が聞きたかった。
- ・ もう少し詳しい説明が欲しいです。
- ・ 課題が多くあるがそれを見せていない
- ・ 県 VC と各市 VC と具体的にどう連携するべきかわかりません。
- ・ 三者連携の意味ではよく分かったのですが、今後のイメージや役割分担などの例もがっつり伝えていただくともっとよかった。
- ・ 四者連携ができつつあることがわかりました。これからは県団体でできることを望みます。
- ・ 実際に VC が立ち上がったということで具体的な動きが見れてよかった。
- ・ 状況が良くわかりました。
- ・ 神奈川県の実施状況を把握することができました。

【どちらでもない】

- ・ あまり新しい内容がない。具体的内容が少ない。
- ・ まだまだ発展途上だと思います。
- ・ 活動資金などが支援団体には届かない。四者連携は何か。台風 15, 19 号では、活用されていないと感じました。
- ・ 県の実情がわかった。
- ・ 今回、川崎と相模原で災 VC を立ち上げたので、その経過などについて、もっと具体的に支援の様子などの話を聞きたかった。
- ・ 時間を過ぎていたので集中できなかった。
- ・ 出発点にしては上々

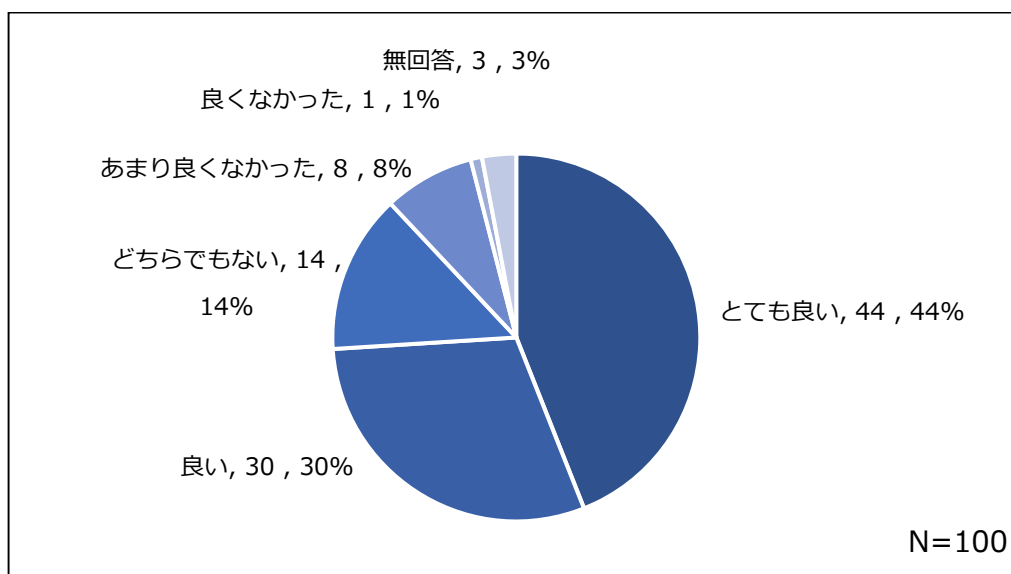
【あまり良くなかった】

- ・ もう少し時間をとってご報告いただきたかった。
- ・ 一番大切なことを書いていたので、もっと時間を作ってほしい。
- ・ 強化から進めるべき
- ・ 三者連携の図を示すべき。四者との違いがわからなかった。
- ・ 切り口が少し違うと思う。

【良くなかった】

- ・ 行政職員の一般的な回答は聞いていてもためにならない。現場の NPO、社協の話を聞きたかった。

④ ワークショップ



④ワークショップ	件数	割合
とても良い	44	44%
良い	30	30%
普通	14	14%
あまり良くなかった	8	8%
良くなかった	1	1%
無回答	3	3%

◆主な理由

【とても良い】

- ・ 「異業種」との交流は、切り口も違い有意義なものでした。
- ・ 皆さん実践的
- ・ 議論が楽しかった。
- ・ 具体的なワークが楽しかったです。持ち帰りたいと思います。
- ・ 具体的な状況設定に沿った形で、何をすべきかわかりやすかった。
- ・ 今回のようなワークショップは初めてでしたが、自ら考え、他の意見も聞き議論するのはとても勉強になりました。今後、研修会などまねさせていただきたいと思います。
- ・ 社協、生協等の他の立場の方々と同じテーマで様々な意見を聞くことができてよかった。
- ・ 色々と意見交換でき有意義なワークとなりました。
- ・ 色々な人の意見が聞けた。
- ・ 色々な背景の人が集まって意見交換することで、様々な角度の話ができてよかった。
- ・ 色々な立場の人とワークショップをするのは勉強になった。立場が変われば見方も変わるから。
- ・ 色々話事ができ、立場によって違うアイデアも出てきていい情報交換もできました。
- ・ 新しい気づきがあり、内容の濃いワークショップでした。
- ・ 多くの意見や情報が収集できた。

- ・多くの方が災害時に知恵を出し合えることがわかった。
- ・熱意ある皆様がこれほど、様々な思いを持っていること、心強く感じました。
- ・平時からの備えを何をすればよいのかヒントになった。
- ・防災に関することにたけたことが多いグループで大変学びとなりました。
- ・密度が濃かった。
- ・様々な時間軸、観点から災害を考えることができ、大変良かったです。
- ・様々な主体に属する方たちと色々なお話ができた。この出会いが継続できるような場を作れたらと思います。
- ・様々な立場の方々と対等な立場で議論、ディスカッションできたことはよかった。話し合いを進める中で、お互いのできることを正確に把握できていないことがわかってなおよかった。
- ・良いチームワークで作業ができ、楽しかったです。
- ・話す時間をたくさん取っていただいたので皆さんとたくさん話すことができました。

【良い】

- ・ちょっと5つは多いように感じました。3つぐらいにして、それぞれのこれまでの取り組みとをじっくりと聞きたかったです。
- ・ワークの目線が多すぎる。事前課題があればよい。
- ・具体的に話し合うことができました。
- ・最後のシールで良い意見を張るのがわかりやすくてよかった。
- ・自己紹介をもっとゆっくり出来たらよかった。
- ・色々な教え方があったことがわかりました。
- ・色々な市町村やボランティア団体等、年齢、経験で意見が色々な意見を聞くことができた。
- ・短時間でよくまとめられていたと思います。チームの構成がよかったのが理由
- ・勉強になりました。
- ・様々な立場の人が集まることで、良いワークショップになったと思う。
- ・様々な立場の方と交流し、知識を聞くことができ、貴重な機会になりました。
- ・立場の違う人たちの声、意見、思い付きが聞けて良かった。

【どちらでもない】

- ・もっと実践的なものが良い。
- ・一つ一つのワークがやや忙しく感じた。また、全体発表、感想の時間がもう少し長めにあるとよかった。
- ・駆け足になってしまった。
- ・色々な立場の人と話すことができ、いい意味で刺激を受けた。もう少し、自治体職員がいたほうがバランスが取れると思います。

【あまり良くなかった】

- ・ もっと時間が欲しかった。
- ・ グループ内の人脈が頼りにできる。
- ・ 各ファシリテーターはあまり割込みしないようにしてほしい。
- ・ 知らない人たちとの話し合いは新鮮でした。
- ・ 様々な分野の方々と交流できてよかった。

問6 全体のプログラムを通じ、ご意見・ご感想等お聞かせください。

【スケジュール】

- ・ すべてが勉強になりました。進行管理も素晴らしかったです。
- ・ 挨拶が長く他の時間が押してしまった。プログラムに余裕を持たせてもいいのでは。
- ・ 全体的にとっても良い話を聞くことができたし、ワークも良かったと思う。持ち帰ってやってみたい。残念だったのが、全体に詰め込み過ぎの印象があり、もっと長い時間でやってもらいたかった。

【研修内容】

- ・ せっかく同じグループになったので、もう少し自己紹介の時間があっても良かったと思います。
- ・ 三者連携というところの重要性やメッセージは少し弱かったように感じましたが、所属、専門の異なる人たちと議論することで、課題や対応策を幅広く洗い出すことができることは実感しました。
- ・ 社協の活動についてさらにご説明いただけるとありがたいです。

【ご要望／継続的な実施を要望】

- ・ 2日間の研修があったほうがよい。
- ・ このプログラムを様々な人に受けてほしい。
- ・ またやってください
- ・ 継続が必要。これからは、本日の研修が生きるかのポイントになると思われる。構造紙に張り付けた付箋をこれから有効に活用してほしい
- ・ 継続的な関係もしくは、各市町村での取り組みが重要であると感じました。
- ・ 今後も積極的にこのようなプログラムがあるといいと思いました。
- ・ 定期的な開催を希望します。
- ・ 良い機会でした。一回だけでなく、定期的に開催していただきたいです。
- ・ 「協働」「三者連携」人任せにしないことを再確認することができました。
- ・ こういった研修は続けてより良いものにしていくほうがよいと思います。
- ・ 繰り返し研修を行う必要があると思います。

【感想】

- ・ こういった研修を何回も定期的を開いてほしい。
- ・ このような機会をいただきありがとうございました。
- ・ このような場の機会を今後も作りお互いに話し合い、より良い関係、ネットワークを作るとよりよくなると思います。
- ・ とても素晴らしい研修会になったと思います。
- ・ どうしてもマニュアル的な話になってしまう。もう少し面白みを入れるにはどうすれば良いのだろうか。
- ・ プログラム自体は大変、素晴らしいと思いますが、この時期大変忙しい人が多いと思うので、開催時期は見直してほしい。また、参加されている人の意識がとても高いため、ほんとに勉強にな

りました。

- ・ ボランティアや社協は普段の業務では深くかかわらないので、非常にいい勉強になりました。
- ・ 楽しかった。
- ・ 行政、社協、民間セクターが一同に会して同じ研修を受ける機会はこれまでなかったので、とても貴重な機会となりました。事前にやっておくべきことの多くはこれからやらなきゃいけないこと。やれることから一つ一つ確実に積み重ねていきたいと思います。
- ・ 今から行うべきことが見えた。明日から地元で進めていきます
- ・ 今回の研修の場も共感できる話をして、災害が起きてから考えても遅く、その前にどこまで考えているかにより、災害対応が決まるということであり、鎌倉市の災害に対する準備はほとんどできていないと思う。あわせて、自分の立場で何をすべきかを考える必要があると思います。
- ・ 三者連携、協議の必要性を感じました。今後、台風の激甚化、長期化を想定するにあたり、個人として、組織として様々な事前対準備が必要だと感じました。
- ・ 三者連携と言いますが、四者連携で考えてみませんか。四者目は地域住民です。住民主体が原則だったので。
- ・ 実践的な研修だった。グループのみでなく全体での討論が欲しかった。ワークショップが討論の場であるが、時間の制限もあって掘り下げた討論にはならなかったのではないかと。一般の人に「防災」について気付いてもらうためには自分の守備範囲で働きたい。公務員には実際の災害の悲惨さを知ってほしい。
- ・ 終日の研修でしたが、長く感じませんでした。三者連携と言う新しい動きが、ここを起点に始まることをお祈りします。
- ・ 初めて聞くことが多く、また、経験値の低い自分だからこそ多くの情報を得ることができたのではないかと思いました。また、ボランティアをやったことがあったので話にはついていくことができたのかなと思います。
- ・ 多様な分野の方々とのワークショップがとても刺激になりました。
- ・ 大変勉強になりました。関係者の方々ありがとうございました。
- ・ 地域をまとめるのもありかと思いました。バラバラと違った価値はありそうです。
- ・ 勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 様々な主体の方々と話し合う機会を持つことができ、とても貴重な体験になりました。ありがとうございました。
- ・ 様々な立場の人と意見交換、情報提供していただき有意義でした。
- ・ 様々な立場の方が集まることで意義を感じました。

【その他】

- ・ いつかではなく、いつでも災害のことを考えておく必要がある。
- ・ これを機に日ごろからの災害対策につき、区内の施設とも連携がとれるよう行政と漏れ相談し推進していきたいと思います。
- ・ 県の職員として、自分の職場の意識の低さに恥ずかしくなりました。このワークショップの内容を持ち帰り、伝えたい。
- ・ 資料を持ち帰り、共有したいと思います。

2-5. 佐賀県

(1) プログラム概要

開会 (10:00~10:10)

石垣 和子氏 (内閣府 政策統括官 (防災担当) 付企画官 (普及啓発・連携担当))
原 惣一郎氏 (佐賀県 県民環境部長)

講演「近年の災害ボランティアをめぐる動き」 (10:10~10:30)

石垣 和子氏 (内閣府 政策統括官 (防災担当) 付企画官 (普及啓発・連携担当))

リレートーク「令和元年佐賀豪雨での対応等について」 (10:30~11:10)

溝上 広行氏 (佐賀県 政策部危機管理・報道局消防防災課 災害対策・国民保護担当 主査)
松尾 淳一氏 (佐賀県 県民環境部 県民協働課長)
岩永 清邦氏 (佐賀災害支援プラットフォーム 委員長)
内田 圭二氏 (社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会 まちづくり課長)

パネルディスカッション

「九州内各所の CSO の取組みと、佐賀県における今後の三者連携に向けて」

(11:10~12:10)

コーディネーター

明城 徹也氏 (全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) 事務局長)

パネリスト

岩永 清邦氏 (佐賀災害支援プラットフォーム 委員長)

松永 鎌矢氏 (特定非営利活動法人リエラ 代表理事)

樋口 務氏 (くまもと災害ボランティア団体ネットワーク (KVOAD) 代表理事)

石田 達也氏 (特定非営利活動法人宮崎文化本舗 代表理事)

質疑応答 (13:10~13:25)

ワークショップ (13:25~15:50)

平山 猛氏 (日本ファシリテーション協会 災害復興支援委員会)

閉会 (15:50~16:00)

(2) 講評 (箇条書き)

- ・ 印象に残ったのは、各課題に対してどういうことを行ったら良いのかというワークに対して、その課題の中で「ニーズ把握そのものが課題じゃないか」という風に出されていたところがいくつかあったと思う点。
- ・ 発表で、ここはうちのテーブルでは解決できなかったんですという内容があったが、解決できないことを共有するっていうところも三者連携の非常に大事な要素だと思っている。

(JVOAD 明城氏)

- ・ 地域の絆とか、CSO のつながりとか書いておられました。実をいうと、おそらく災害が起きますと、それに専門業界とのつながりが出てくると思う。
- ・ 熊本の場合は、25 の土業の団体、医師会、保健師会、行政士会、地域包括支援センターの協議会、保育協会とかがあるが、そういう所の人とたちとも災害前に顔知っておけば、困ったときに専門性を発揮してくれると思う。(KVOAD 樋口氏)

- ・ つながりづくりはもちろん大事だが、そのために何をするのか悩みどころかなと思っている。ただ単に平時に会議だけを開いていても、どんどんそのあと人がいなくなっていくので、何かしら研修とかを通じて、つながりをつなげていくような取り組みとしたいところ。
- ・ 日田市で取り組んでいるのが、災害ボランティア育成講座ってありますが、地元の高校生に床下を作ってもらってということやまして、水害のときに、床上床下に泥が入ったり、洋室和室になると対応方法が少し違うが、それを地元の建築を学んでいる学生さんをお願いして、簡単な建物の模型をつくり、それで実際に床板をはがすとか、潜って泥を出してみるとかっていうのをやったりしています。(特定非営利活動法人リエラ 松永氏)

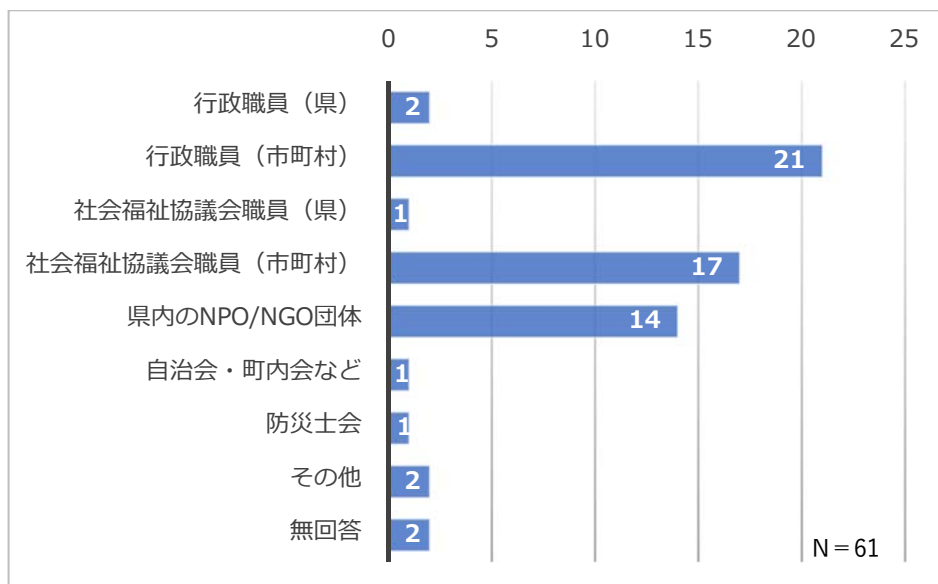
- ・ 平時の時に出来ないことが、有事の時に出来るわけがない。平時の時に、お互いがこんなこと困っているんだけどとか、こういうこと出来るんだなっていうことが、本当の意味での顔の見える関係なのかなと思う。
- ・ お願い上手にもなるでも良いですし、お願いを聞ける上手になるっていうか、それを平時の時からやっておくと、災害が起きた時にもお互いが助け合ったりできるのかなと思う。
- ・ 今回長野の災害で関わったときに、行政は各課題で関係する部署が違うんですね。福祉だけでなく、次はごみの問題とか、建物の構造だと建設部とか。それぞれに課がわかれている。みなさんがつながっていくと、またつなぐという役目にもなっていく。(JVOAD 前原氏)

(3) アンケート結果

■実施日時：令和元年 9月 28日（土）

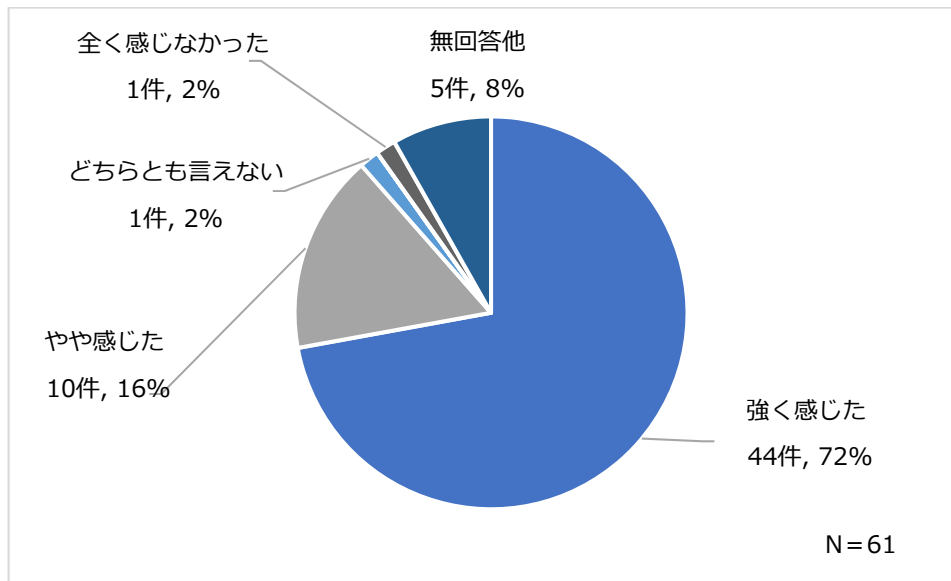
■アンケート回収数（N） = 61

問1 ご自身のご所属についてお聞かせください。（複数回答可）



問1 所属について	件数	割合
行政職員（県）	2	3%
行政職員（市町村）	21	36%
社会福祉協議会職員（県）	1	2%
社会福祉協議会職員（市町村）	17	29%
県内の NPO/NGO 団体	14	24%
自治会・町内会など	1	2%
防災士会	1	2%
その他	2	3%
無回答	2	3%

問2 本日の研修はいかがでしたか。行政・ボランティア・NPO等からなる連携体を貴市町村に構築または強化する必要があると感じたか。



問2. 構築または強化する必要性	件数	割合
必要性を強く感じた	44	72%
必要性をやや感じた	10	16%
どちらとも言えない	1	2%
必要性をあまり感じなかった	0	0%
必要性を全く感じなかった	1	2%
無回答	5	8%

問3 研修内容を踏まえ、今後取り組むべきと考える事項をご記入ください。(自由回答)

【平時からの三者連携が大切】

- ・ いざとなつてからでは対応が後手後手になってしまうと思われる。
- ・ まずは行政、次に CSO との連携に向けた取り組みを行いたい。
- ・ やはり三者の連携を密にし、各々の役割分担を平時から考えておくべきであると感じた。
- ・ 行政、CSO、社協の連携。
- ・ 行政、社協、NPO+事業者での協議が必要だと思う。
- ・ 行政はもとより CSO と平時から発災を想定し是々の話し合い、役割分担をしておくことも大事だと思います。
- ・ 災害時の連携を前提とした顔あわせの機会を定期的に設ける事。
- ・ 災害時はもちろん、平常時、災害の事以外でも、いろいろな団体や行政との連携は不可欠だと改めて感じました。
- ・ 三者で一步踏み込んだ関係性を築く。
- ・ 三者連携を進めるには三者の災害時（発災時）の動きをお互いに把握しておく必要あり
- ・ 実際に災害が起きた際、町の防災担当としては、自分たちのことで、バタバタし SPE などと連携を取るということは特に考えていなかった。でも今回の NPO の方など、実際に現場に行つてある方の話で知ることがとても多かつたので、平常時こういった会をふやしていただいて、災害時一緒に活動すると、被害を小さくしたり復旧を早めたりできると思った。
- ・ 社協やボランティアなど災害時にそなえて普段から顔の見える関係をつくっておくことが大事だと感じました。
- ・ 情報交換等の連携。
- ・ 他団体との関係づくり。
- ・ 他団体との連携・話し合いの場をつくることが大事だと思った。
- ・ 地域や他機関、他大学などとの連携が急務だと思いました。
- ・ 地域内間の連携。
- ・ 被災経験を踏まえて平時にできることの見直しをすすめていきたい。
- ・ 平時から行政と CSO の連携に取り組む必要性を感じた。
- ・ 平時から行政機関の中でも防災担当部局と協働担当部局の連携をとる必要があるし、社協や SPF とも連携を深める必要がある。
- ・ 防災を行うにあたり、連携が重要になってきており、平常時からできることをやっていると考えました。
- ・ 行政、社協、NPO (SPF) 三者の災害ボランティアに関する仕組み作りを急ぎたい。

【地域のつながり、仕組みづくりが大切】

- ・ きっちりしたハードな協定を結ぶことも、日頃のゆるやかな交流会も非常に大切だと感じた。
- ・ さらなる地域の関係づくりに取り組む。
- ・ 顔の見える関係づくりが必要だと感じた。
- ・ 緊急の際に役立つ組織や近所にも多くの関係機関があることを知つた。日頃の知り合いネットワークが大切なことが事例などを聞いて実感した。

- ・ 区長会、民生委員、老人会等との勉強会を行える環境づくり。
- ・ 佐賀の各地域でのしくみづくり。
- ・ 佐賀の各地域でのしくみづくりをともに。
- ・ 自助・共助たすけあい（お互い様）の関係づくり。
- ・ 地域ごとの平常時に住民相互の生活支援組織になり得る自主防災組織、この組織が市町だと連携＋社協地域の多様な団体事務所も加わっていきというときの役割分担を決めておく、住民は声掛け避難方法、場所を知っておく災害後の復旧、生活支援、人、物、金も計画しておく。
- ・ 地域コミュニティづくり（住民主体のまちづくり）
- ・ 地元のつながりサロン活動の支援。
- ・ 町内外で想定しうる団体の把握からはじめる。
- ・ 防災・減災につなげていきたい。
- ・ 有事の際協力してくれる団体を見つけておく。
- ・ 連携づくり、ノウハウの学び。
- ・ しゅみづくりも重要だが、人と人とのつながりがより大切になることを改めて感じた。
- ・ できること、できないことを明確にし、できないことをどうしていくか、共同団体とコミュニケーションをとる。

【協定などの締結、研修等の開催】

- ・ CSO と市の災害協定締結。
- ・ 協定を結び日頃から有事に向けた役割分担やコミュニケーションをとることが必要だと感じました。
- ・ 研修、協定締結等。
- ・ 行政、CSO との協定等及び連携。
- ・ 行政との協定など、共同の防災計画づくり。
- ・ 今回のような連携を目的とした研修の開催。
- ・ 図上訓練のような実践訓練につながるように、インプットからアウトプットをしていきたいと思いました。

【平時からの備えが大切】

- ・ 起きてからでは遅いという考えを町全体で共有できる国土づくり。具体的には公民館のレベルから国レベルまで。
- ・ 情報の共有や必要なところに人を配置するなど、日頃からの備えが重要だと感じた。

【広域連携】

- ・ 九州県内での共有や連携をしていくことで防災・減災につなげていきたい。
- ・ 九州県内での共有や連携をしていく。

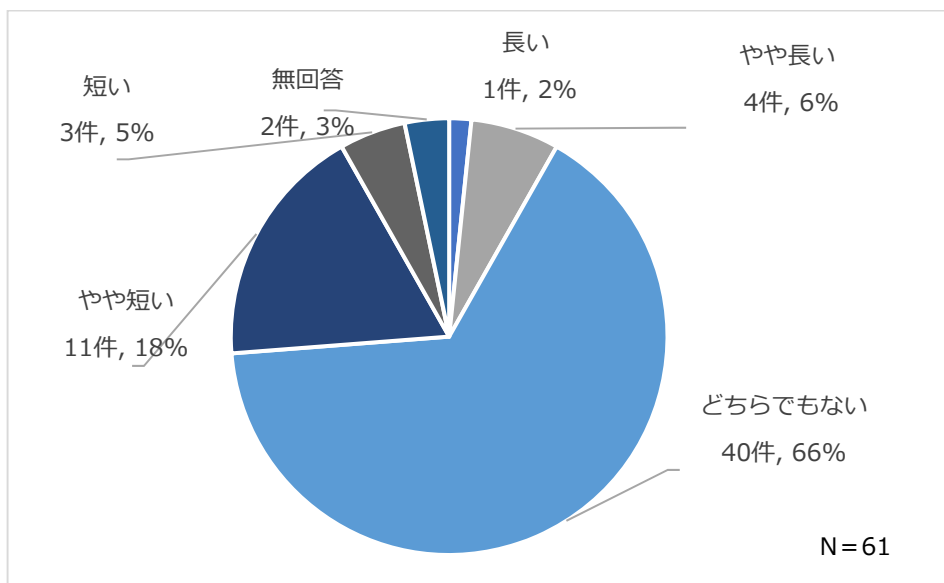
【その他】

- ・ 記憶がうすれないうちに課題についての取り組みを現実化する一歩を踏み出すため。
- ・ 個人情報取り扱い、情報開示了承を事前に行うと情報共有、伝達しやすい。

- ・ 災害時、要援護者をどう守っていくか
- ・ 社協でのマニュアルを早急に完成させたい
- ・ 少しでもスムーズに被災者の支援につなぐことができたらと思いました。
- ・ 発災してから準備をするのではどうしても後手にまわることになるため、平時から備える必要があるわけだが、職員の絶対数がたりず、一人で多様の業務を抱えているため、RPA 等を活用して連携にウェイトを割る対応が必要と感じる。
- ・ 防災センターなどの運営、ボランティアコーディネーターの育成。

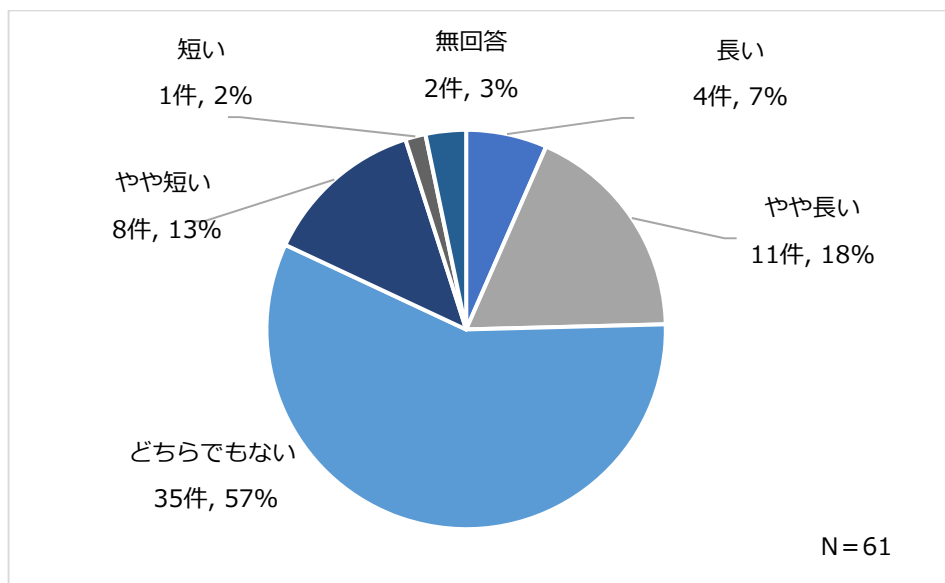
問4 研修会の運営についてお聞かせください。

① 研修全体の時間は適切でしたか。



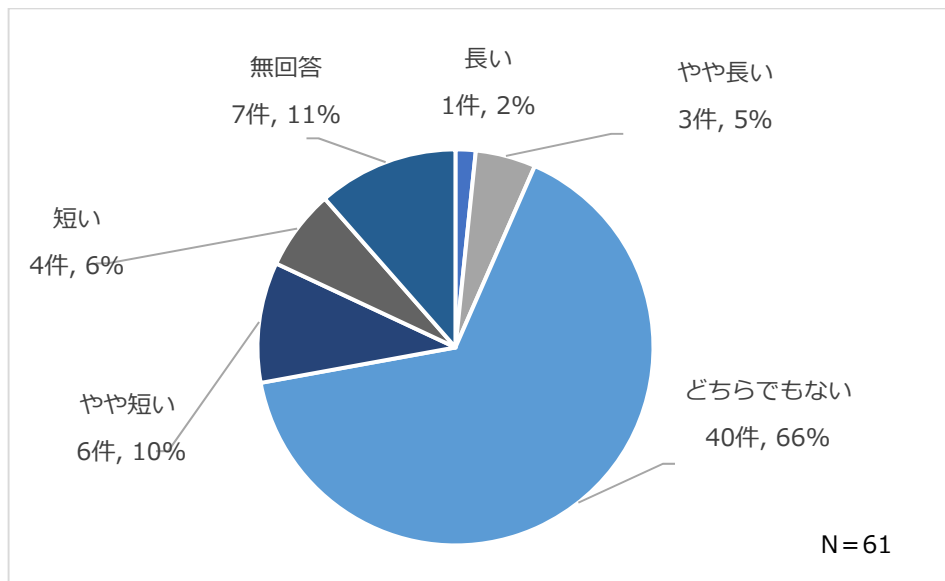
①研修全体の時間	件数	割合
長い	1	2%
やや長い	4	6%
どちらでもない	40	66%
やや短い	11	18%
短い	3	5%

② 各講義の時間は適切でしたか。



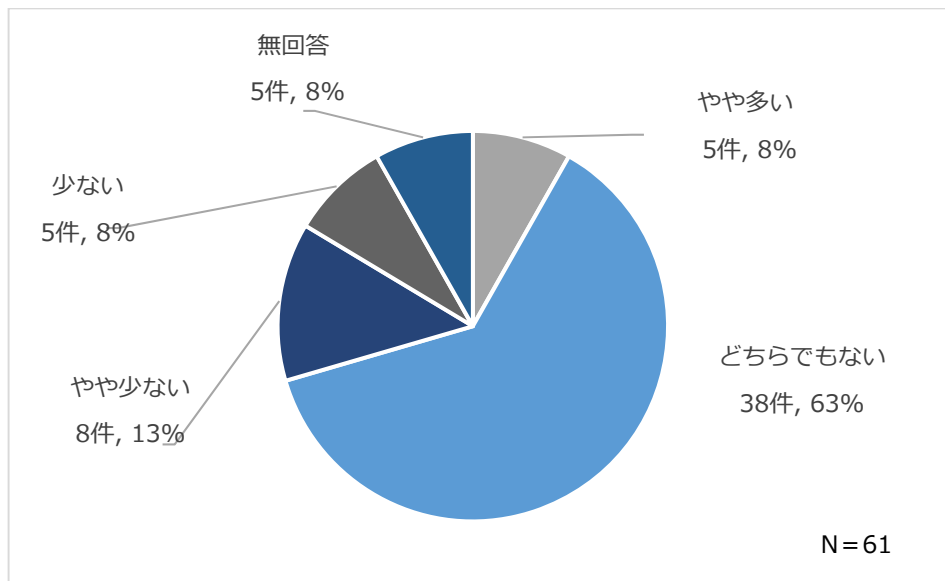
②各講義の時間	件数	割合
長い	4	7%
やや長い	11	18%
どちらでもない	35	57%
やや短い	8	13%
短い	1	2%

③ ワークショップの時間は適切でしたか。



③ワークショップの時間	件数	割合
長い	1	2%
やや長い	3	5%
どちらでもない	40	66%
やや短い	6	10%
短い	4	6%
無回答	7	11%

④ 全体の情報量は適切でしたか。



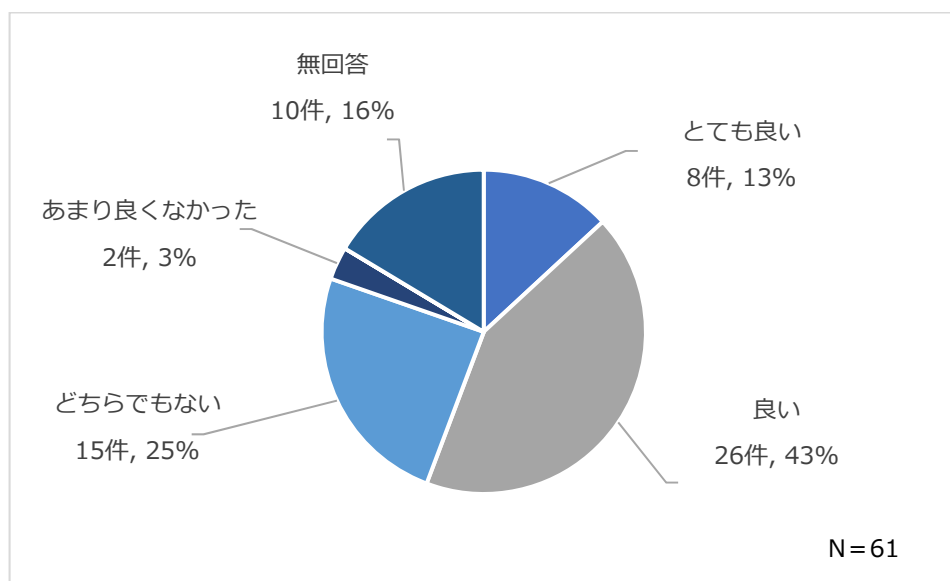
④全体の情報量	件数	割合
多い	0	0%
やや多い	5	8%
どちらでもない	38	62%
やや少ない	8	13%
少ない	5	8%
無回答	5	8%

問5 研修内容、それぞれの項目について5段階（5が最高評価）で評価し、その理由についてもお聞かせください。

① 全体

	とても良い	良い	どちらでもない	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	合計
内閣府講演	8 (13%)	26 (43%)	15 (25%)	2 (3%)	0 (0%)	10 (16%)	61 (100%)
リレートーク	12 (20%)	27 (44%)	11 (18%)	4 (6%)	1 (2%)	6 (10%)	61 (100%)
パネルディスカッション	11 (18%)	26 (43%)	15 (24%)	3 (5%)	0 (0%)	6 (10%)	61 (100%)
ワークショップ	19 (31%)	24 (39%)	5 (8%)	2 (3%)	1 (2%)	10 (17%)	61 (100%)

① 内閣府講演「近年の災害ボランティアをめぐる動き」



①内閣府講演	件数	割合
とても良い	8	13%
良い	26	43%
どちらでもない	15	25%
あまり良くなかった	2	3%
良くなかった	0	0%
無回答	10	16%

◆主な理由

【とても良い】

- ・ とても分かりやすかった。
- ・ なかなか知りえることができないデータでした。
- ・ 災ボラの歴史が学べてよかった。
- ・ 災害ボランティアの重要性や連携について、国としての動き、今後自治体としてどのように動いていくべきか考えさせられた。
- ・ 分かりやすくまとめられていました。
- ・ 平成 11 年の阪神・淡路大震災からの経過から関係法令の改正三者連携への方向性を知ることができよかったです。
- ・ ワンナガノの話は実際にはとても大変だと思うが、それぞれの団体がしっかり連携をした時に起こせると思うので、こういった会は大切だと思った。

【良い】

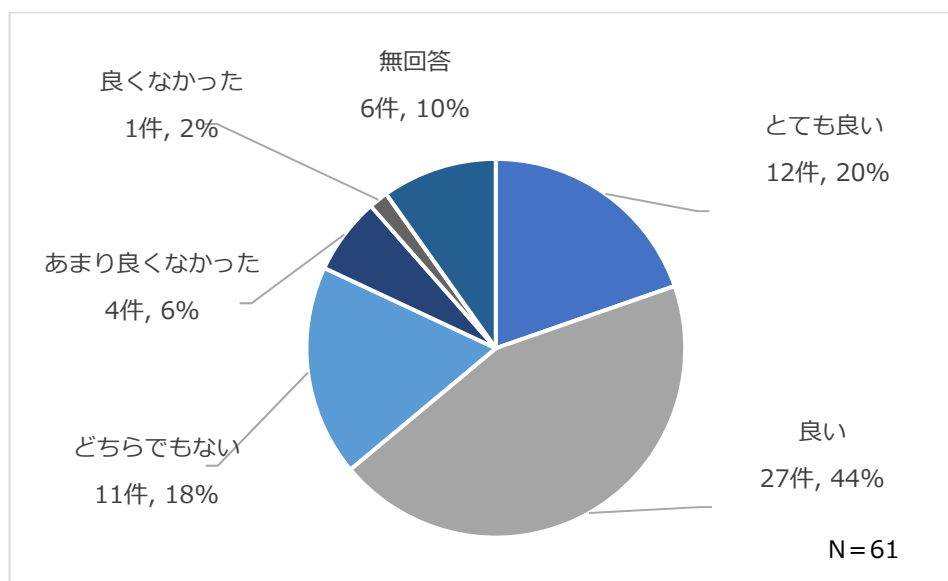
- ・ かえってゆっくり読みたいと思います。
- ・ 各地の状況を知ることができた。

- ・ 簡単に流れがわかりました。
- ・ 今回の話し合いでのつながりができるようにしていきたいと思います。
- ・ 住民の意識が高まっている。
- ・ 他県の取り組みが聞けて良かった。
- ・ 分かりやすかった。
- ・ 午後から参加。

【あまり良くなかった】

- ・ もう少し自治体がどのように関わっていくべきかの話が欲しかった。
- ・ もっと詳しく聞きたかった。時間が短い。
- ・ 時間延長。
- ・ 助けあう防災に対して、支援をしてくださる体制についてももう少し具体的にしりたかった。
- ・ 詳細についても知りたかった。

② リレートーク



② リレートーク	件数	割合
とても良い	12	20%
良い	27	44%
どちらでもない	11	18%
あまり良くなかった	4	6%
良くなかった	1	2%
無回答	6	10%

◆主な理由

【とても良い】

- ・ 具体的で分かりやすかった、もう少し聞きたかった。
- ・ 各県での支援状況が聞いてよかったです。
- ・ それぞれの災害に携わった方々のリアルな体験や助言はとても参考になりました。
- ・ それぞれの報告が具体的で良かった。
- ・ もっとたくさん聞きたかった。

【良い】

- ・ 行政、社協、CSOの動きについて、知ることができ、それぞれの立場での役割を認識することができた。
- ・ 混乱せず対応できていた。初動対応については、おもったよりうまくいった感じでした。
- ・ 他の社協の状況が知れた。
- ・ 対策は直一的にはいかないものだと痛感した。
- ・ 地域による差、災害ボランティアによる差など。
- ・ 平常時からどこが何の機能をもつのか役割分担をしておいて、住民一人一人にしっかり伝えるこ

とが大切、そのためには住民同士がともに学習し合い、支え合う地域防災組織を作るべきだと思いました。

- ・ 理解が深まったと思う。
- ・ 県が SPF 等と連携して活動をしているということを知らなかった町でもできたら復旧が早くなると思った。
- ・ もっと詳しく聞きたかった。時間が短い。
- ・ もっとじっくり聞きたかった。
- ・ 生の声が聞けた。もっと時間さいてほしかった。

【あまり良くなかった】

- ・ 危機管理は資料のみでも良いか。
- ・ 時間が短い。
- ・ 時間が短かった。
- ・ 実践的なとりくみを知りたい。

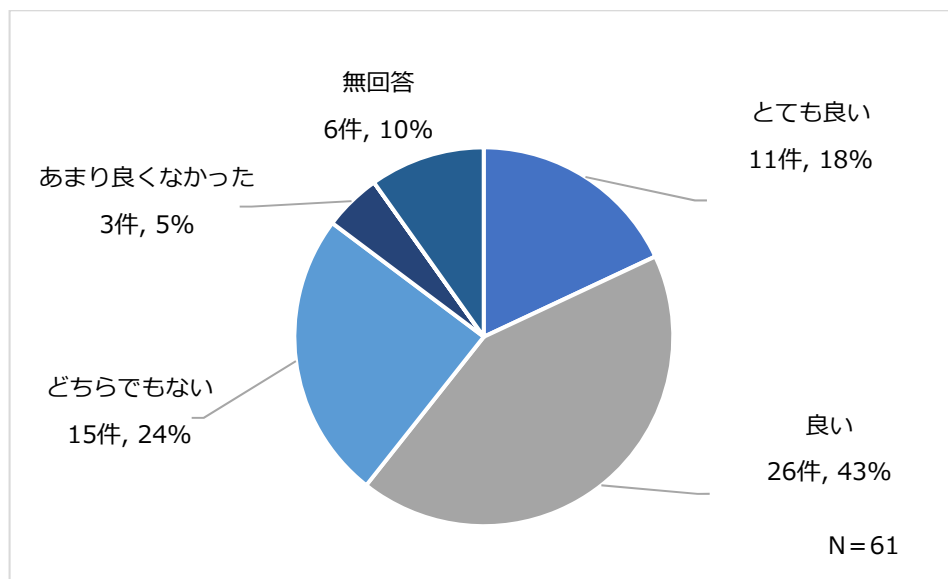
【良くなかった】

- ・ もう少し各々の時間配分を厳守してもらわないと、最後のトークは駆け足だったため、十分に内容を聞くことができなかった。

【その他】

- ・ 市町行政は行政の最小単位、現場に強いという部分で役割を担っていく必要があると考える。
- ・ 大町町で被災者が災害ボランティアセンターの存在を知らないといったという話がありました。同じ社協職員としてボラセンに応援に行っていただけにショックでした。

③ パネルディスカッション



③パネルディスカッション	件数	割合
とても良い	11	18%
良い	26	43%
どちらでもない	15	24%
あまり良くなかった	3	5%
良くなかった	0	0%
無回答	6	10%

◆主な理由

【とても良い】

- ・ 各県で様々な取り組みをされていてとても勉強になった。

【良い】

- ・ 九州単位での活動が今後重要だと感じた。
- ・ CSO と行政との連携の重要性を理解できた。
- ・ NPO の団体の活動をあまり知らなかった、そのため今後はそういった団体との連携が必要だと思った。
- ・ もう少し詳しく聞きたかった。
- ・ もっと詳しく聞きたかった。時間が短い。
- ・ もう少し長い時間で話をききたいと思いました。
- ・ 様々な立場の方の意見が参考になった。
- ・ もう少し時間が長くて良かった。
- ・ もっとじっくり聞きたかった。
- ・ もっとたくさん聞きたかった。
- ・ 時間が短かったのもう少し各々聞きたかった。

- ・ 時間が短かった、もう少し聞きたかった。
- ・ 三者連携だけでなく一般の事業所、企業の協力も言われた方の意見よかったです。
- ・ 県社協の内田課長の最後の話で、社協ボランティアのこれからのあり方の意見、同感です。
- ・ 今後につながる良い内容でした。
- ・ 各パネリストの話はどれも興味深かった。
- ・ 佐賀も参考にしてよりよくしていきたい。
- ・ 九州各地それぞれの地域性をもち活動されていることがよく分かった。
- ・ 三者連携が市町単位までひろがることを望みます。

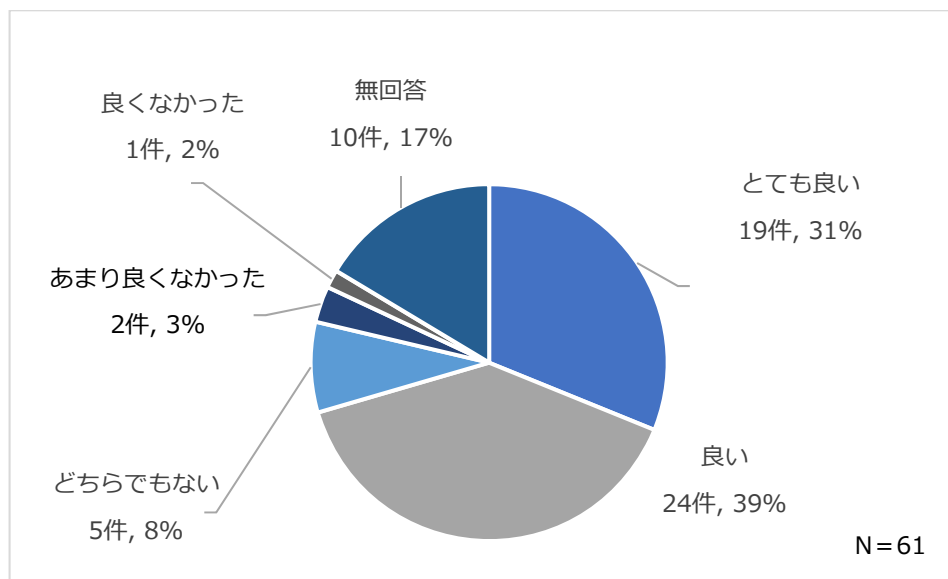
【どちらでもない】

- ・ 行政側としての意見も聞きたかった。
- ・ もう少し時間を確保して実例などを聞きたかった。
- ・ 分科会的にわかれてじっくりお話を聞けたらよかったかも

【あまり良くなかった】

- ・ 三者連携に関する話より、自己PRを聞いた感が強かった。
- ・ 少し時間がかかった。
- ・ 論点が少し異なっていたように思えた。
- ・ この会の肝なので、会場からの質疑があった方がいいのでは？

④ ワークショップ



④ワークショップ	件数	割合
とても良い	19	31%
良い	24	39%
普通	5	8%
あまり良くなかった	2	3%
良くなかった	1	2%
無回答	10	17%

◆主な理由

【とても良い】

- ・ 外国人のこと、個人情報のことなど自分の班では出なかった意見もあり、最後まで新しい考え方を見れて楽しかった。今日のつながりも大切にしたい。
- ・ 実体験をされた方の意見など貴重な視点からの話を聞くことができた
- ・ それぞれの立場で意見交換でき、とても参考になりました。
- ・ ファシリテーターの進行がよかった。
- ・ 行政、社協、CSO それぞれからの意見を聞いてつながりを作ることができた。
- ・ 行政だけでなく、支援に関わる CSO の方と意見共有ができてよかった。
- ・ 実際に被災地に言って活躍されている方の話を聞いて、とても多くの事を学べた
- ・ 他の関係団体とのコミュニケーションをとれたことは大きい。また、他の市町の話聞いたことは大きかった。
- ・ 立場を超えて一緒に楽しく作業できたことは地域での組織づくり、三者連携への弾みになりました。

【良い】

- ・ もう少し長く、対話してもいいかも。
- ・ 各グループの発表を聞きたかった。
- ・ 具体的なことは同じ地域のメンバーで行うのがより実践的になると思う。
- ・ 講演者の方の意見、感想体験をもっと聞きたかった
- ・ 三者それぞれの立場で、共有できました。
- ・ 時間がたりない。
- ・ 初めて会う方が多かったが、話す機会、考えを聞く機会ができてよかった。
- ・ 色々な意見交換ができてよかった。
- ・ 色々な意見が行けた。
- ・ 専門的な意見も出て、勉強になった。
- ・ 他の団体のもものも、もう少しみたかったです。
- ・ 他団体等と話し合ったり、考える機会がなかったなので。
- ・ 地域の人とのつながり、平時の連携が一番必要だとかんじた。
- ・ 平常時に取り組む必要性を実感した。
- ・ 様々な主体の人間がつどって、楽しく話げできた。
- ・ 良かったがやはり時間が短い。

【普通】

- ・ いろいろな立場の人が参加していたので包括的、一般的な議論にとどまった。

【あまり良くなかった】

- ・ 問題、ニーズを上げて回答していく方法がいいかも、広すぎて同時に県域の問題までなかなか考えられなかった。

【良くなかった】

- ・ 各セクターの方々との共同ワークで学ぶこともなかった。

問6. 全体のプログラムを通じ、ご意見・ご感想等お聞かせください。

【研修内容に関して】

- ・ できれば二日に分けてじっくり聞きたかった。とてもいい勉強になった。
- ・ かなりの情報量で、すべて理解ができたとは言えないが、ワークショップ等で意見を出し合えたのは良かったと思う。
- ・ グループワークを近くの市町でグループ分けして下さったのがよかった。行政は防災担当と CSO 担当と部署が分かれており、行政の防災課以外との連携も必要だと感じた。
- ・ 最後の WS シールをはった方へ聞いてみる方が「なぜ」はったのかがわかって良い気がします。ワーク全体はスムーズで有意義でした。
- ・ 連携、協働の全体会議なので、参加団体が多くなるのは仕方ないが、内容が広すぎて、自分の立場（仕事、役割）がぼやけてしまった感があった。
- ・ 駆け足すぎる、広く浅くではなく、もう少し深く研修会を開催して。
- ・ 時間に対し、内容のボリュームが多かったのでは。

【良かった】

- ・ ありがとうございます。
- ・ このようなイベントを企画いただきありがとうございます。
- ・ 楽しい研修でした。
- ・ 参加してよかった。
- ・ 自分自身の振り返りにもなったし、他の団体や行政関係がどのような取り組みをされているのかが知れてとても良かった。
- ・ 内容的にもっと時間をとってよかった。

【継続的な実施を希望】

- ・ このような機会をまた設けたいです。
- ・ ぜひ、今後もこのような研修をつづけていきたいです。
- ・ 継続して、このような研修会があってほしい。
- ・ 行政や CSO と顔がつながれる研修を今後も企画してください。
- ・ 三者間での図上訓練を行いたいと思いました。

【その他感想】

- ・ それぞれだけではできないことを成し、より良いサービスを追求するためには連携が必要だということを理解しました。
- ・ 具体的な実践までイメージできているテーブルが少なく、少し残念。
- ・ 今後の防災減災行政に生かしていきます。
- ・ 資料を持ち帰り、共有したいと思います。
- ・ 平時にもっとたくさん話し合いをしたい。
- ・ 佐賀県が他県に対して災害対応とする立場になった時の三者連携についても考え直したい。
- ・ 県内の SPF 以外の NPO や企業の参加が少ない。

以上

2-6. 岩手県

(1) プログラム概要

開会 (10:00~10:10)

石垣 和子氏 (内閣府 政策統括官 (防災担当) 付企画官 (普及啓発・連携担当))
高橋 進氏 (岩手県 保健福祉部 副部長兼保健福祉企画室長)

基調報告「近年の災害ボランティアをめぐる動き」 (10:10~10:30)

石垣 和子氏 (内閣府 政策統括官 (防災担当) 付企画官 (普及啓発・連携担当))

岩手県報告「災害時における三者連携の取組みについて」 (10:30~10:50)

阿部 聡人氏 (岩手県保健福祉部 地域福祉課生活福祉担当 主事)

パネルディスカッション「他地域の三者連携取組事例から、気づきを得る」

(10:50~12:00)

コーディネーター

明城 徹也氏 (全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) 事務局長)

パネリスト

宮本 将司氏 (長野県危機管理部 危機管理防災課 防災係 主事)

鈴木 鉄也氏 (千葉県社会福祉協議会 事務局次長/地域福祉推進部長/福祉資金部長)

山室 秀俊氏 (特定非営利活動法人長野県 NPO センター 事務局長)

とよしま 亮介氏

(埼玉県災害ボランティア団体ネットワーク「彩の国会議」 代表幹事・事務局)

大向 昌彦氏 (いわて NPO 災害支援ネットワーク 事務局)

ワークショップ (13:00~15:50)

杉村 郁雄氏 (日本ファシリテーション協会 災害復興委員会)

閉会 (15:50~16:00)

(2) 講評 (抜粋)

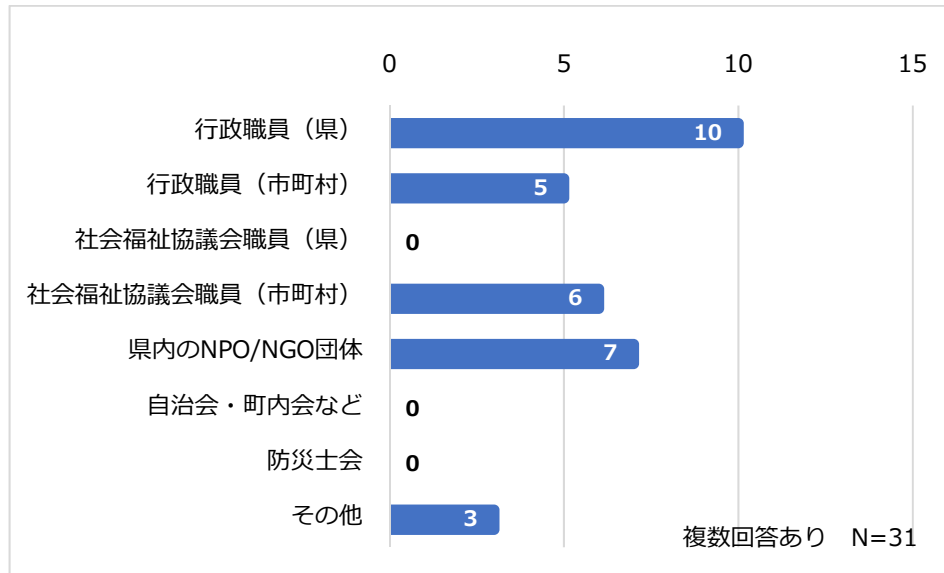
- ・ 今日のワークは、三者連携とはいえ、互いに発災した後どう動くのかということだった。
- ・ 行政はある程度、地域防災計画などで動きが決められているところがある。社協もボランティアセンターを立ち上げるということで、ある程度決められているところがある。一番確実でないのは NPO のところ。実際起きた時にどのくらい来るのか、想定している団体が本当に岩手まできてくれるのか。
- ・ 自発的な支援、ボランティアな支援である分、本当に来るかこないかわからない。行政としては頼れるのか頼れないかわからないけれども、ある程度頼れるものにするためにも中間支援というのは必要なのかなと。(JVOAD 明城氏)
- ・ 三者連携が必要だということを耳にさせていただいた。具体的な方向性を誰かが示さないと、0 から 1 に誰かが進めないと前に進められない。仮に INDS がその役割をもって、第一歩を進めていけるのであれば、その裏付けとなる信用、信頼をつちかっっていかなければいけない。一步一步進んでいきたい。(INDS 大向氏)
- ・ 三者連携というが、本当に三色なのかと。県と市町、社協も県と市町とあり、NPO も同様。また事業者はどこにいるのか。
- ・ 今日は時間軸と役割ということでワークが進められた。私たちは「タイムラインと SOP (行動規範)」という言い方をしている。自分たちの役割は、どういう行動規範をもっているか。ルールは何か。それは守れということではなくてあくまで目安、心得を大事にしている。
- ・ このワークを経験してきたんですということが一つの証となれば、地域に入りやすくなっていくのかなと。(埼玉県災害ボランティア団体ネットワーク「彩の国会議」 とよしま氏)

(3) アンケート結果

■実施日時：令和2年2月13日（水）

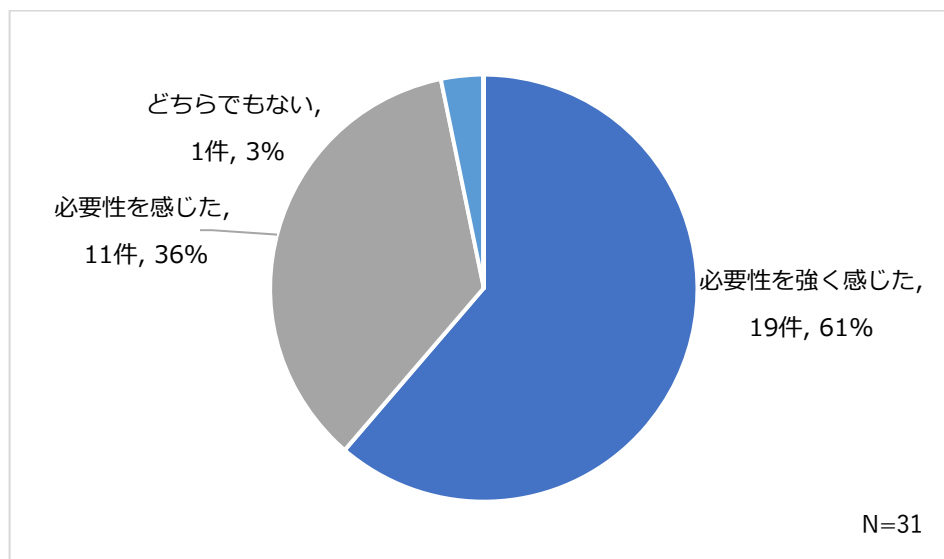
■アンケート回収数（N）=31

問1. ご自身のご所属についてお聞かせください。（複数回答可）



問1. 所属について	件数	割合
行政職員（県）	10	32%
行政職員（市町村）	5	16%
社会福祉協議会職員（県）	0	0%
社会福祉協議会職員（市町村）	6	19%
県内のNPO/NGO団体	7	23%
自治会・町内会など	0	0%
防災士会	0	0%
その他	3	10%

問2. 本日の研修はいかがでしたか。行政・ボランティア・NPO等からなる連携体を貴市町村に構築または強化する必要があると感じたか。



問2. 構築または強化する必要性	件数	割合
必要性を強く感じた	19	61%
必要性をやや感じた	11	36%
どちらとも言えない	1	3%
必要性をあまり感じなかった	0	0%
必要性を全く感じなかった	0	0%
無回答	0	0%

問 3. 研修内容を踏まえ、今後取り組むべきと考える事項をご記入ください。(自由回答)

【平時からの連携が大切】

- ・ 現在の連携関係をさらに強化していきたい。三者連携の再認識ができた。
- ・ 今後本格的な三者連携が必要と感じた。
- ・ 三者連携についての取り組みを考えていかなければと感じた。
- ・ 災害対策本部との連携。
- ・ 平時の行政、ボランティア、NPO の連携や準備が大事であることが分かりました。

【交流、関係づくりが大切】

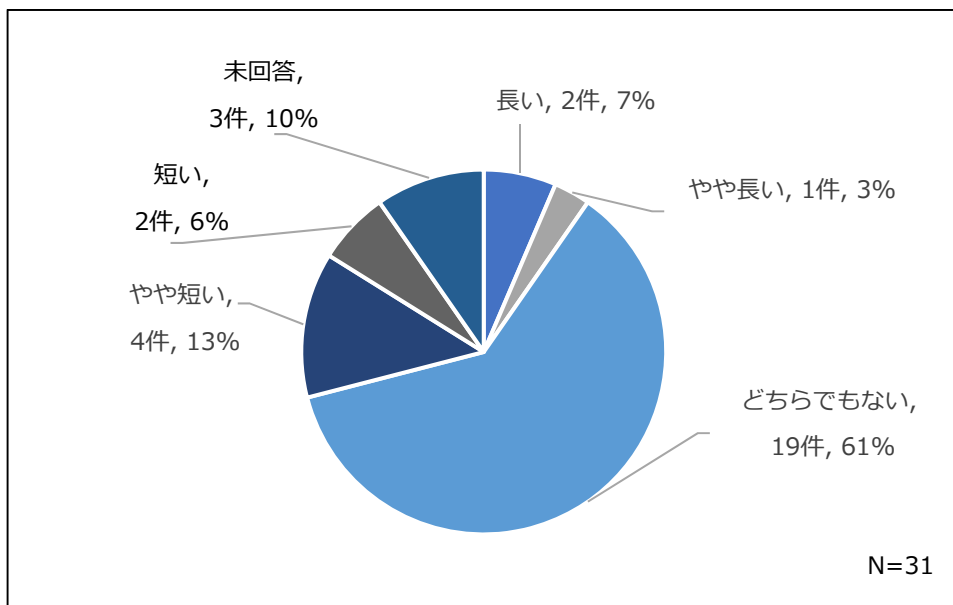
- ・ 専門性の高い NPO の育成と連携が必要。ガテン系、子育て支援、交通支援、心理ケア。
- ・ 地元には NPO が無い状態ですが、三者連携は重要だと思っていますので、INDS との連携を強化していきたいと思います。
- ・ NPO、技術を持った支援団体との関係の構築。
- ・ 普段からの情報共有や関係づくりが重要。
- ・ 平時の定期的な交流。
- ・ 発災からどのように動くのか市と協議する必要性、ふだんから。

【その他】

- ・ お互いの活動内容、特性の把握が必要だと感じた。
- ・ 災害ボランティアマニュアル作成。
- ・ 自分たちが何をできて、何をできないのか把握。
- ・ 定期的な災害関連の研修会への参加。

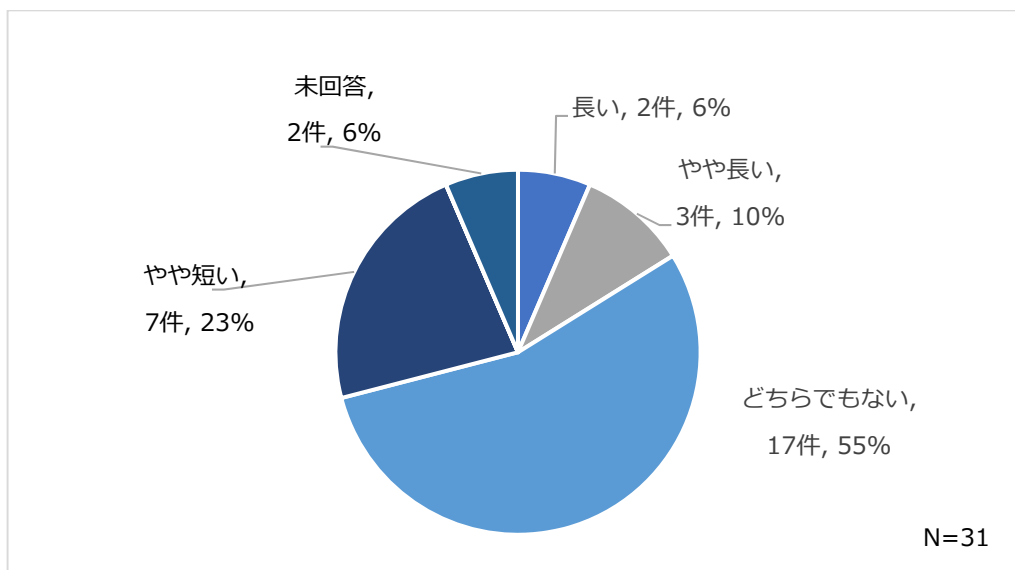
問 4. 研修会の運営についてお聞かせください。

① 研修全体の時間は適切でしたか。



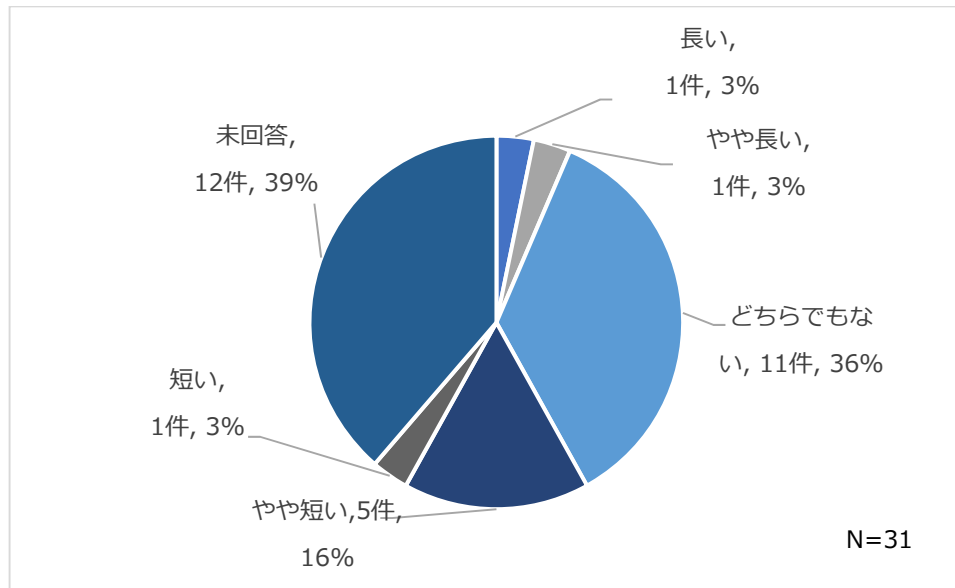
①研修全体の時間	件数	割合
長い	2	6%
やや長い	1	3%
どちらでもない	19	61%
やや短い	4	13%
短い	2	7%
無回答	3	10%

②各講義の時間は適切でしたか。



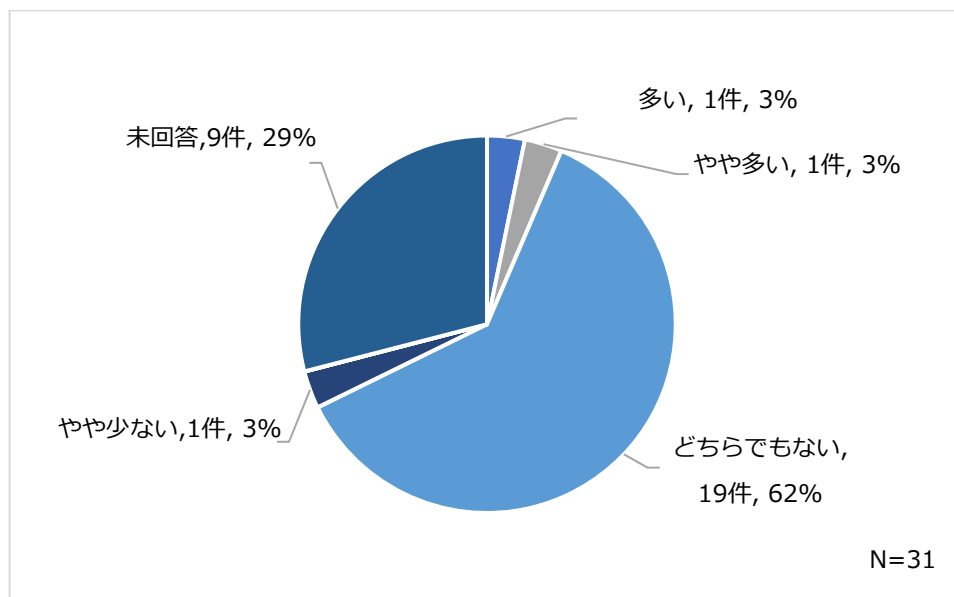
②各講義の時間	件数	割合
長い	2	6
やや長い	3	10
どちらでもない	17	55
やや短い	7	23
短い	2	6
無回答	2	6

③ワークショップの時間は適切でしたか。



③ワークショップの時間	件数	割合
長い	1	3%
やや長い	1	3%
どちらでもない	11	36%
やや短い	5	16%
短い	1	3%
無回答	12	39%

④全体の情報量は適切でしたか。



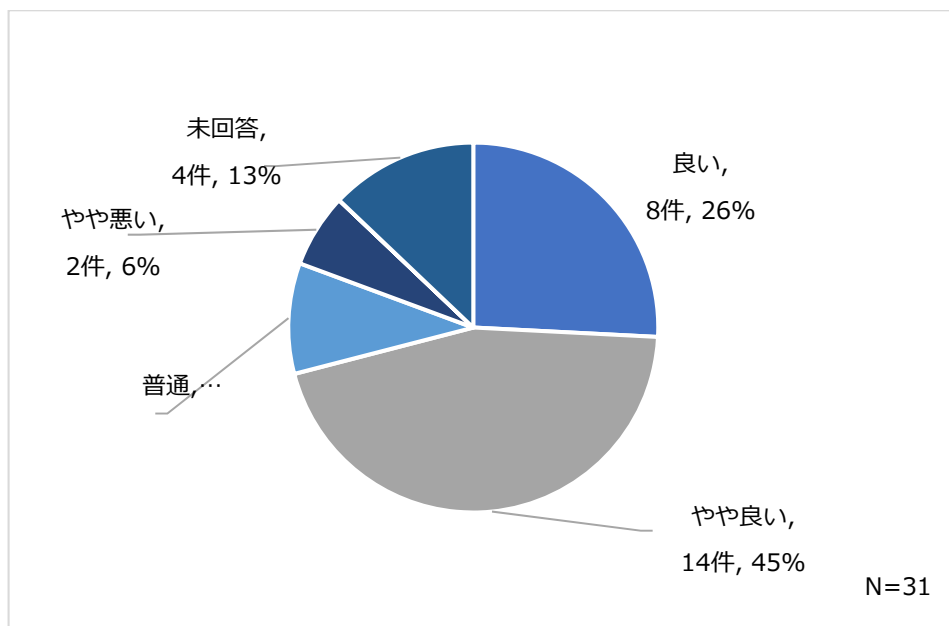
④全体の情報量	件数	割合
多い	1	3%
やや多い	1	3%
どちらでもない	19	62%
やや少ない	1	3%
少ない	0	0%
無回答	9	29%

問 5. 研修内容、それぞれの項目について 5 段階（5 が最高評価）で評価し、その理由についてもお聞かせください。

① 全体

	とても良い	良い	どちらでもない	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	合計
内閣府報告	8 (26%)	14 (45%)	3 (10%)	2 (6%)	0 (0%)	4 (13%)	31 (100%)
県報告	7 (23%)	9 (29%)	10 (32%)	1 (3%)	0 (0%)	4 (13%)	31 (100%)
パネルディスカッション	11 (36%)	10 (32%)	3 (10%)	2 (6%)	1 (3%)	4 (13%)	31 (100%)
ワークショップ	13 (42%)	2 (7%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	15 (48%)	31 (100%)

① 内閣府講演「近年の災害ボランティアをめぐる動き」



①基調報告	件数	割合
良い	8	26%
やや良い	14	45%
普通	3	10%
やや悪い	2	6%
悪い	0	0%
無回答	4	13%

◆主な理由

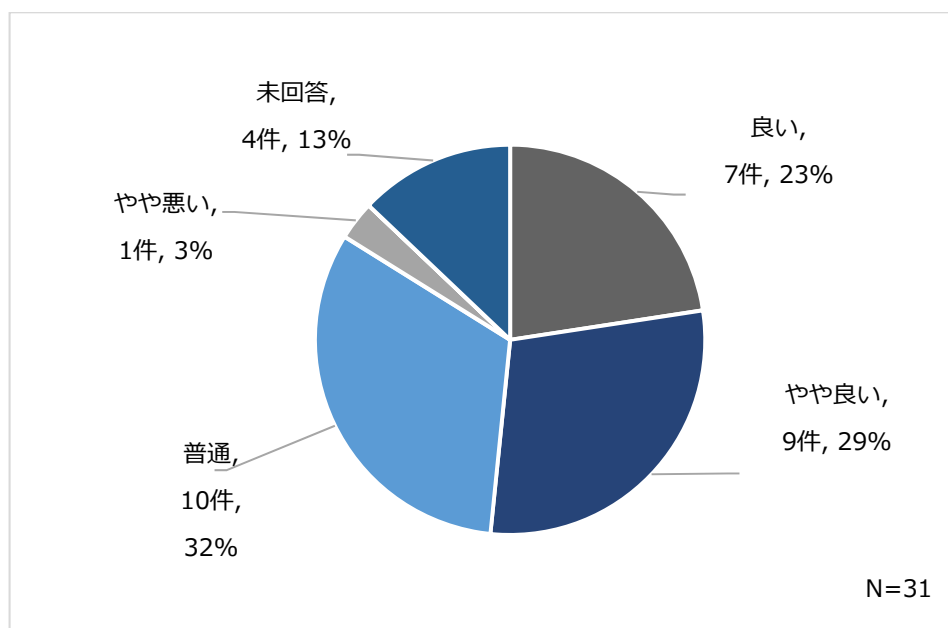
【良い】

- ・ 国の政策について理解できた。
- ・ とてもわかりやすい説明でした。
- ・ もっと詳しくききたくて時間がたりなかったです。

【やや良い】

- ・ 災害ボランティアについて知ることができた。
- ・ 国の方の視点、考え方が分かり安心しました。

② 県報告について



②県報告	件数	割合
良い	7	23%
やや良い	9	29%
普通	10	32%
やや悪い	1	3%
悪い	0	0%
無回答	4	13%

◆主な理由

【良い】

- ・ 県の動きについて詳しく説明があったから。
- ・ 昨日も参加しましたが、あらためて勉強になったこともありました。

【やや良い】

- ・ わかりやすく、簡潔であった。
- ・ これからも市町村目線をお願いします。

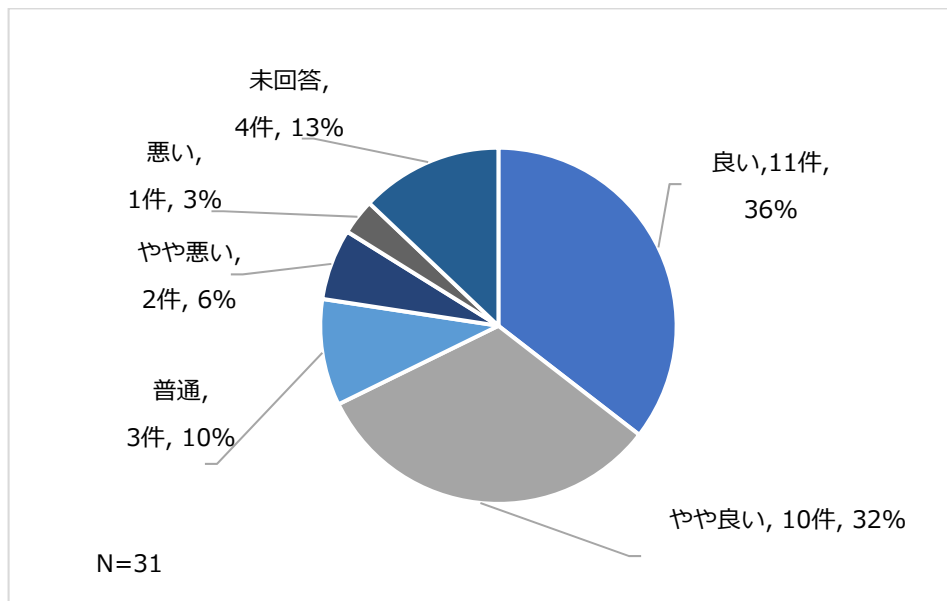
【普通】

- ・ 三者連携についてどのように考えているのか話して欲しかった。
- ・ 前日とほぼ一緒の内容のため、新たに得るものがありませんでした。

【やや悪い】

- ・ 基礎的すぎたように感じる。

③パネルディスカッション



③パネルディスカッション	件数	割合
良い	11	36%
やや良い	10	32%
普通	3	10%
やや悪い	2	6%
悪い	1	3%
無回答	4	13%

◆主な理由

【良い】

- ・ 様々な方の取り組みが参考になった。NPOの皆様に心強さを感じました。
- ・ もっとそれぞれに時間がほしかったし、詳しく聞きたかったです。

【やや良い】

- ・ 他地域の動きについて知れたから

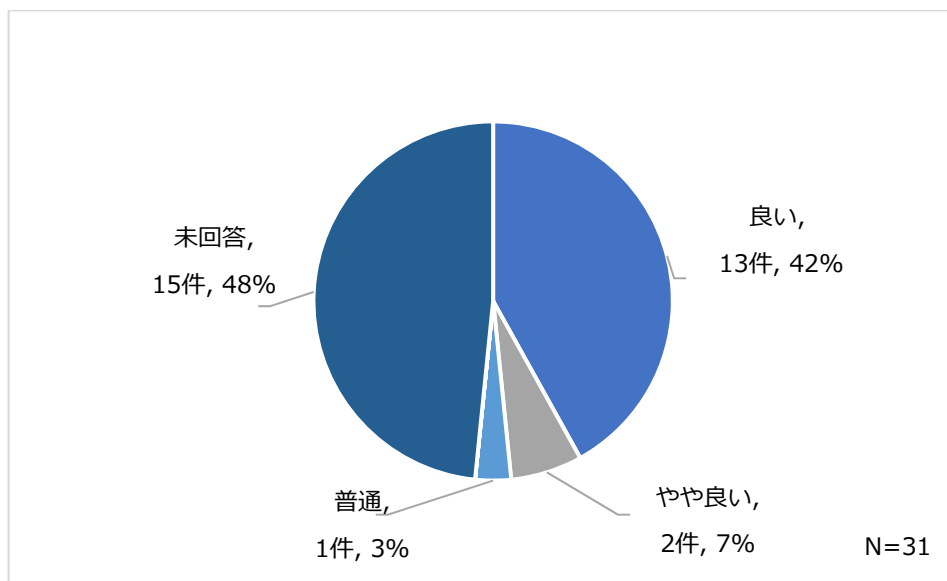
【普通】

- ・ 住民の受援力も必要だと感じた。しかし、その前に、連携において「なあなあ」になりそうなので、遠慮したい。日々の訓練や集まりの中で構築していけたらと思う。

【やや悪い】

- ・ パネラーの時間が短かったと思います。

④ワークショップ



④ワークショップ	件数	割合
良い	13	42%
やや良い	2	7%
普通	1	3%
やや悪い	0	0%
悪い	0	0%
無回答	15	48%

◆主な理由

【良い】

- ・ 疑問をぶつけられたことによって、一般には知らないのだと、気づきにつながったので良かった。災害ボランティアマニュアルの整備が必要だと思知らされた。
- ・ 三者連携の第一歩となった。非常に有意義であった。
- ・ 他団体の考えや動きがわかったし、意見交換もできて、非常にためになった。
- ・ とても良かったです！（楽しかったです）。こういうワークを市町村域でもできればと思いました。
- ・ 他分野の方の様々な経験や知識を勉強させていただきました。
- ・ 情報共有の宝庫でした。

問6 全体のプログラムを通じ、ご意見・ご感想等お聞かせください。

- ・ それぞれの立場の皆さんが被災時にどのような業務を行うのか聴けて、とても参考になりました。
- ・ どうしても支援者側で考えてしまう。支援することばかりで、住民目線に立てているか、足りないのではと思った。いつ自分が被災者になるかわからないという意識が足りないように思った。
- ・ ワークショップの回答（三者連携の第一歩となった。非常に有意義であった。）と同じです。ありがとうございます。
- ・ 学びの多い研修会でした。つながるは備えること、すごいひびきました。ありがとうございます。参加者が（特に市町村不在）昨日より少ないのが残念だし、もったいないと思いました。うちの市担当者も来てほしい。
- ・ 今後も継続いただきたいと思いました。可能であれば年内に数回あっても良いと思います。

以上

3. 訓練実施概要

3-1. 概要

(1) 目的

災害が多発・激甚化する中、被災者支援を効果的・円滑に実施するために、被災地では行政、NPO・ボランティア等の三者が連携して現地の課題などを共有する情報共有会議が開催されている。

実際の多様な主体との連携のあり方については、当該地方公共団体の社会構造、地理・地形的環境、想定される災害の種類・規模等により様々であり、平時から実践的な訓練を行うことが有用である。

そのため、発災後、具体的にどのようなことを検討、判断すればよいのか、どのようなことに留意すればよいのか等について実践的な理解につながる訓練プログラムを開発する。また、開発したプログラムに沿った訓練を実施し、検証を行う。

(2) 実施地域・時期

開催地域	開催時期
静岡県	令和元年12月9日(月) 静岡県総合社会福祉会館シズウエル(静岡県静岡市葵区駿府町1-70)

(3) 参加者数

	行政	社協	NPO等	オブザーバー	合計
静岡県	32	23	24	18	97

(4) 取り組み状況・実施のねらい

- ・各市町での三者連携を進めていくことを想定して実施

(5) プログラム概要

開会 (13:30~13:40)

石垣 和子氏(内閣府 政策統括官(防災担当)付企画官(普及啓発・連携担当))
高橋 邦典氏(静岡県 社会福祉協議会 事務局長)

パネルディスカッション「災害時の情報共有会議について」(10:10~11:00)

石垣 和子氏(内閣府 政策統括官(防災担当)付企画官(普及啓発・連携担当))
高瀬 浩二氏(愛媛県 保健福祉部社会福祉医療局保健福祉課 主幹)
小川 耕平氏(全国社会福祉協議会 全国ボランティア・市民活動振興センター 副所長)
明城 徹也氏(全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD) 事務局長)
鈴木 まり子氏(日本ファシリテーション協会 災害復興委員会)

話題提供「静岡県の取組状況について」(11:00~11:15)

杉山 徹氏(静岡県 危機管理部危機情報課 情報班長)

演習(午前)「午後の演習に向けた準備・状況付与の読みあわせ」(11:15~12:00)

杉村 郁雄氏(日本ファシリテーション協会 災害復興委員会)

演習(午後)「情報共有会議」(13:00~15:50)

閉会

3-2. 実施結果

(1) 講評 (抜粋)

- ・ 行政の立場としては、被害の状況を関係者にしっかり共有することが何より大事だと感じている。地域の人口が何人で、世帯が何世帯で、内、被災者が何人いて、どういう状況なのかと。避難所に行っている人、在宅の人が何人いるのかと。そうした情報を行政がしっかり把握して、共有することが第一でありスタート。
- ・ 発表の中で、「ホームページの活用」「SNSを使って」という発言がありましたが、SNSが使えない人もいて、役場にいけない人がいる。NPO・ボランティア、個人ボランティアの方が現地に行った際に少し声をかける、チラシを配る等で情報収集を行うことが大事。
- ・ 行政とNPOとでも、被災者に届けるという同じことでも、分担していくことが大事。
- ・ NPOの方にどうお願いしたら良いかわからなかった。できれば、NPO・ボランティアの方は、こういうことならできますよと提案していただけると、行政はお願いしやすくなる。

(愛媛県 高瀬氏)

- ・ 情報共有会議は2つの側面がある。1つは情報を共有する。参加者の間の活動を理解する中で、自分のやる事は何なのかを考える機会とする。「自分たちですべてやらなければいけない」ということではなく、他の方たちとの関係で何ができるのかと。
- ・ 災害ごみの処理の話。環境省が災害ごみを集めて処理をするということを、ボランティアの方があまり理解していなく、ムラがあってムダがあるということがあった。解決策、リソースを知ることで自分たちの取組みが変わっていくことがあるし、そこを委ねていけることになる。
- ・ 活動がないとかできないとか経験がないという問題に対してどうするか。こういう場を通じて、それぞれの組織や団体が、自分たちのミッションは一体何か、他社との関係で次は自分たちが何をやらなければいけないのかということを考えて次の行動に移していくという場となれば。

(全国社会福祉協議会 小川氏)

- ・ 本日のワークで、情報共有会議といっても実際にどうだったかという経験がないと進められない、深められない点もあったのでは。毎年のように大きな災害が繰り返し起きている。NPO とボランティアのなかには経験が蓄積されている団体もいくつかある。
- ・ 静岡県での「災害時のボランティアの受け入れ手引き」3頁に、「③県本部・情報センターや市町で活動する県内外の他機関、他団体との連携、連絡調整」とあるが、県内外の「連絡調整」という場が持たれる想定となっている。
- ・ 静岡では毎年図上訓練が行われている。今日の訓練をいかして、深められたらと思うので参加してもらえたら。

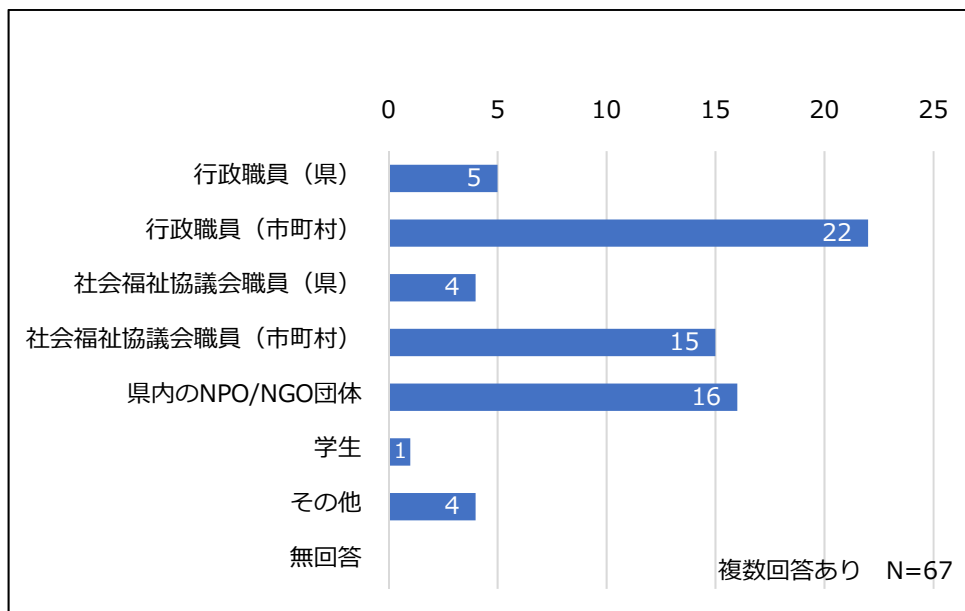
(JVOAD 明城氏)

(2) アンケート結果

■実施日時：令和元年 12月9日（月）

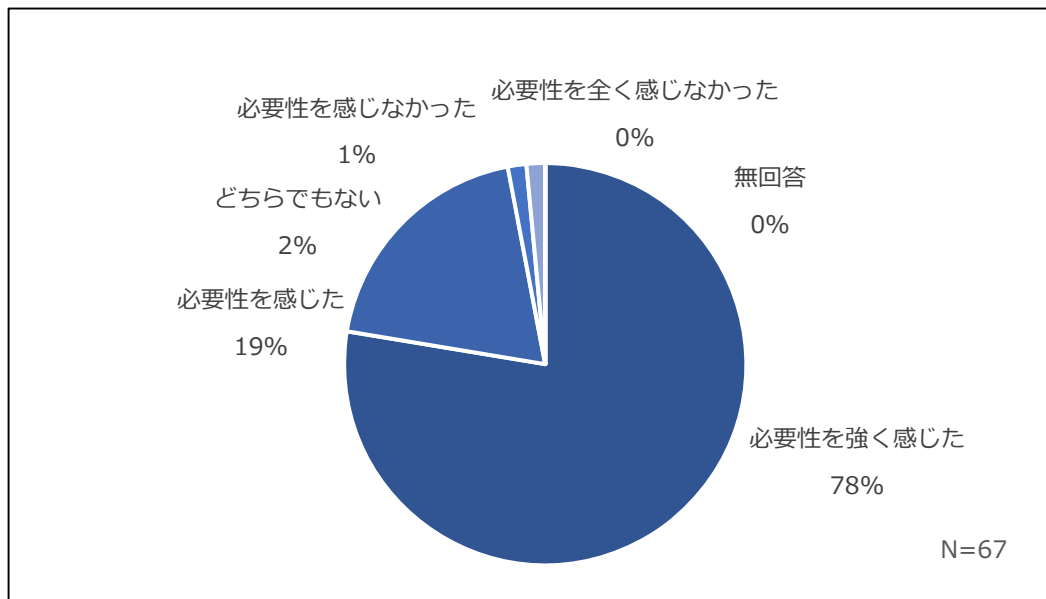
■アンケート回収数（N）=67

問1 ご自身のご所属についてお聞かせください。（複数回答可）



問1 所属について	件数	割合
行政職員（県）	5	7%
行政職員（市町村）	22	33%
社会福祉協議会職員（県）	4	6%
社会福祉協議会職員（市町村）	15	22%
県内の NPO/NGO 団体	16	24%
学生	1	1%
その他	5	6%
無回答	0	0%

問2 本日の連携・協働訓練はいかがでしたか。行政・社協・ボランティア・NPO等からなる連携体を貴市町村に構築または強化する必要があると感じましたか。



問2 構築または強化する必要性	件数	割合
必要性を強く感じた	52	78%
必要性を感じた	13	19%
どちらでもない	1	1%
必要性を感じなかった	1	1%
必要性を全く感じなかった	0	0%
無回答	0	0%

問 3 連携・協働訓練を踏まえ、今後取り組むべきと考える事項をご記入ください。(自由回答)

【ネットワーク・関係づくり】

- ・ 平時からの顔の見える関係づくりと、防災指導員や自主防との連携。
- ・ 4者、5者、6者で平時からつながる。
- ・ 普段から各市町が顔の見える関係になれるような仕組みづくりをする。
- ・ 定期的に顔の見える関係を作る仕組みを持つ。(※同様の意見が3件)
- ・ 行政の方々は気負いすぎている気がしました。できないことはできないというべき。決めつけが多かった。できないからこそ、民間がいるということをもっと意識づけてほしい。民間とのネットワーク、顔の見える信頼関係を作る場を常々設けることが必要だと思った。
- ・ 平時からどれだけ多くの団体と知り合っておくかが大切だ。過去の被災地の対応事例を学んで、知識としてノウハウをストックしておくことが大切だと思う。
- ・ 行政とNPOの結びつきは弱いと思うので、この関係を強くすることが必要かと考える。
- ・ NPO団体の把握、社協との連携強化(台風19号の際、ボランティアセンター設立に関する連絡が必要でなかった)。
- ・ 本町では社協とNPO団体との連携を見直す必要があると感じた。
- ・ NPO等民間団体とのつながりが薄いため、会議が開けるようにつながりをもちたいと思った。また行政内において縦割りなどところがあるため、中と外で連携をとっていきたい。
- ・ まずは市内にあるNPOなどの団体を知ること、つながることが大切だと思った。行政の担当課とも日頃からつながることが大切だと思った。
- ・ 行政、NPOへの歩み寄り、普段から気軽に相談、お願いができる関係を作っていきたい。
- ・ 日頃の地域のつながりが大事。地域づくりは防災にも強い町になる。
- ・ 組織と組織とのつながりをつくること(今日の会議では個人と個人または個人と組織のつながりしかつけれないのではないか)。
- ・ 団体としてのつながり、個人的なつながり。しかし属人的になりすぎないように。特にNPOは属人的になりがちなので、後輩・仲間を増やしたい。

【訓練/研修】

- ・ これを図上訓練につなげていく。
- ・ 顔の見える関係づくりの為、研修会、連絡会等の開催。
- ・ 県域・広域・市町村域情報共有会議訓練の実施、ファシリテーション研究をする。
- ・ 事例をバンバン学んでいく。
- ・ 年1回程度の連絡会等を行っていくのも必要かと思った。
- ・ 避難所の自主運営ができるよう、各地域レベルでの普段からの取組。

【制度・体制(情報共有)】

- ・ 各論について、具体的にどこが、だれが、どういうふうに行うのかを考えていく。
- ・ 市として情報共有会議をどのように設置するのか、市社協との調整をする。
- ・ 市の防災計画に情報共有会議を入れてもらえるよう依頼したい。
- ・ 市役所の他部署でどんな団体(NPO)とつながっているかを把握し、災害時にすぐに情報を得られるような体制をつくる。
- ・ 自分の市町での協働訓練、日頃からの調整をする。

- ・ 地元（市町村レベル）で行う連携・協働訓練、マニュアルへの追加。
- ・ 平時からの情報共有会議の開催。県方面本部の役割（ボランティア関連）の明確化。
- ・ 市町村単位での情報共有会議。

【情報共有方法の検討】

- ・ お互いができることの再確認、情報共有のありかた。
- ・ それぞれの強み弱みを共有してできることを理解しあう必要がある。
- ・ まさに本日行った三者会議、あるいは他団体を含めた会議を普段から行うことが、各立場や役割の相互理解にもつながると思った。
- ・ 何をもって「連携」とするのか、その認識を出し合うところから始めたい。
- ・ 市内で同じような NPO の団体がいるのかりスト化する必要性を感じた。
- ・ 事前に連携事項の洗い出し、共有。
- ・ 情報の共有が大切だと改めて感じた。このような機会を継続してほしい。
- ・ 情報共有の方法を確立する。
- ・ 地元で取り組んでもらえる NPO 団体を調べて共有する。
- ・ 庁内だけでなくボランティアとの情報共有が必要だと改めて感じた。
- ・ 庁内での役割分担：「どこ（危機管理部門 or 福祉部門）のどちらが主体で進めていくか」「NPO の市内の活動団体の把握」。
- ・ 年に 1 回程度、市単位 or 地域単位での情報共有会議を定例で行った方が災害発生後スムーズに動くことができるだろう。
- ・ 平時から三者による連携会議の必要性の共有と関係づくりに取り組む。

【三者連携】

- ・ 三者とのつながりを深めること。
- ・ 三者での共有会議をもちたいと思う。
- ・ 三者連携について、強く必要性を感じた。今日がスタートとなり、今後連携が進んでいけばよいと思う。

【備え一般】

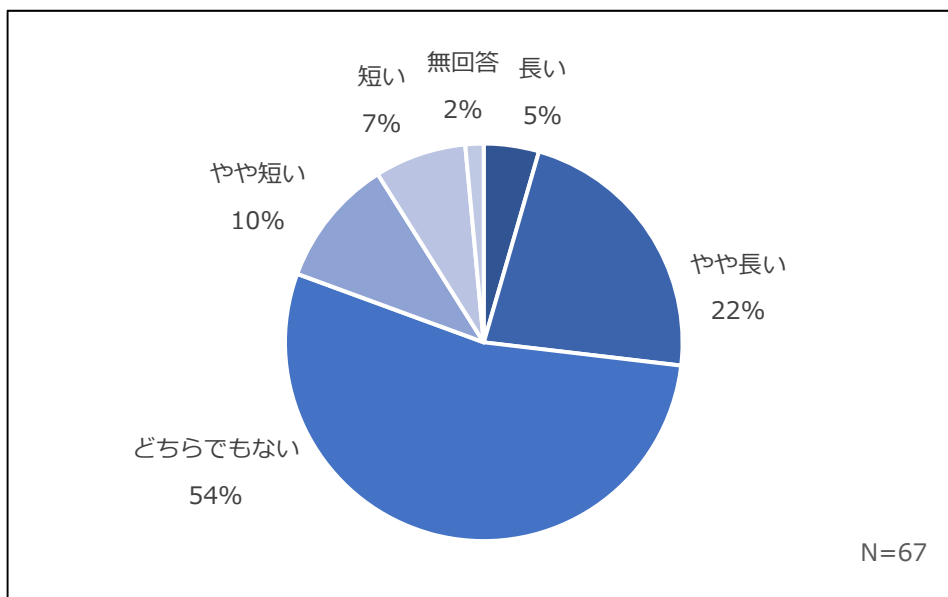
- ・ 住民への意識を高める必要を感じた。

【その他】

- ・ 被害想定は具体的であるべきだと考えた。災害（被害）は現場で起きているので。その部分があいまいだったので、そこから先が地に足のついていない議論になってしまったことが残念だった。
- ・ ごみ等の廃棄物の問題と、避難所のトイレ不足。
- ・ 主に 3 つの事項があった。1 つは庁内連携。今まででは不十分で、全職員への周知・共有が必要だと感じた。2 つ目は他職の把握。できることを知り、分担を平時に協定などで定めておくこと 3 つ目は被害の想定。地に足のついた議論のためにも経験者からの話を受け止める必要があると感じた。
- ・ 平時からのさらなる行政・NPO・ボランティアの連携強化を図るため、こういった訓練を定期的で開催してほしい。

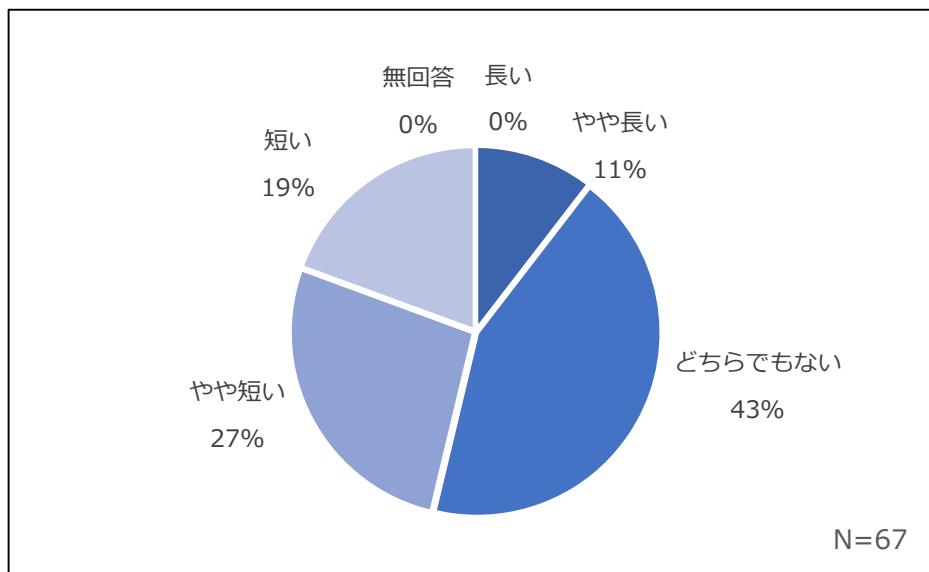
問4 訓練の運営についてお聞かせください。

①訓練全体の時間は適切でしたか。



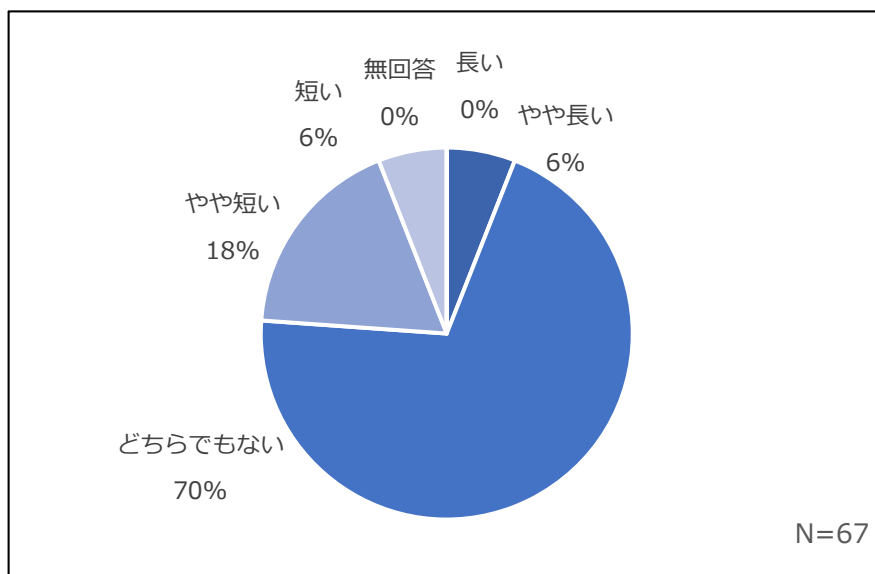
①訓練全体の時間	件数	割合
長い	3	5%
やや長い	15	22%
どちらでもない	36	54%
やや短い	7	10%
短い	5	7%
無回答	1	2%

②各講義の時間は適切でしたか。



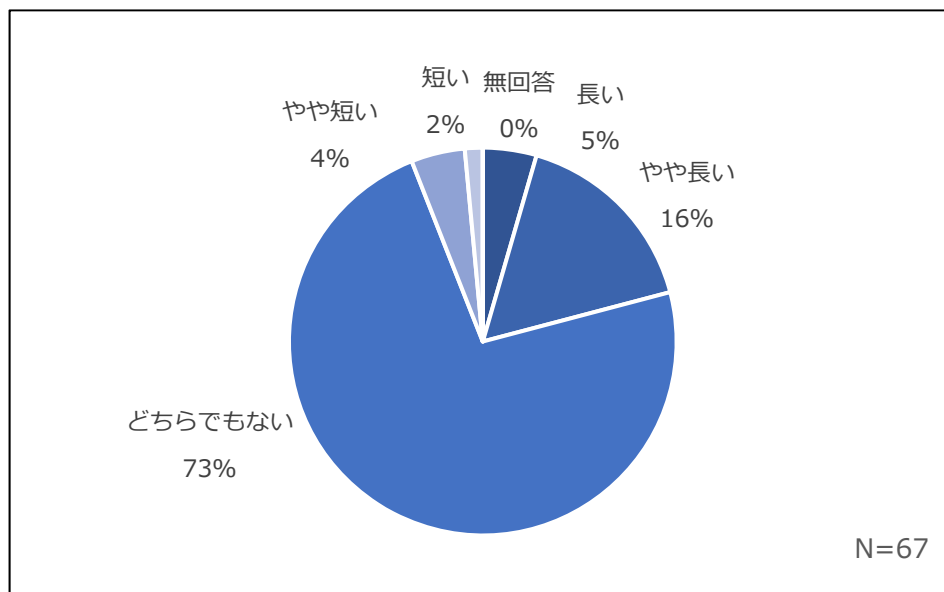
②各講義の時間	件数	割合
長い	0	0%
やや長い	7	10%
どちらでもない	29	43%
やや短い	18	27%
短い	13	19%
無回答	0	0%

③演習の時間は適切でしたか。



③演習の時間	件数	割合
長い	0	0%
やや長い	4	6%
どちらでもない	47	70%
やや短い	12	18%
短い	4	6%
無回答	0	0%

④全体の情報量は適切でしたか。



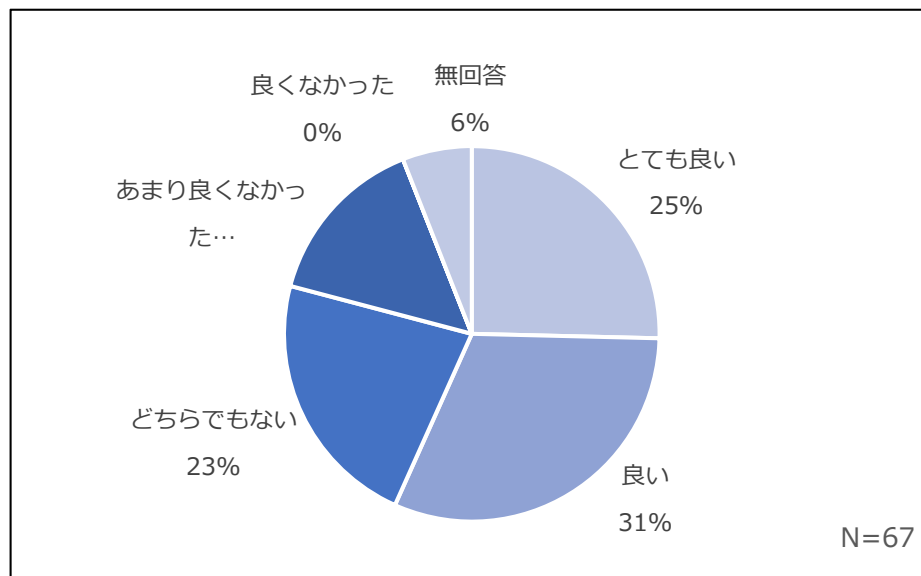
④全体の情報量	件数	割合
多い	3	5%
やや多い	11	16%
どちらでもない	49	73%
やや少ない	3	4%
少ない	1	2%
無回答	0	0%

問5 訓練内容、それぞれの項目について5段階（5が最高評価）で評価し、その理由についてもお聞かせください。

① 全体

	とても良い	良い	どちらでもない	あまり良く なかった	良くな かった	無回答	合計
パネルディス カッション	17 (25%)	21 (31%)	15 (22%)	10 (15%)	0 (0%)	4 (6%)	67 (100%)
話題提供	14 (21%)	18 (27%)	30 (45%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (7%)	67 (100%)
演習	29 (43%)	23 (34%)	11 (16%)	2 (3%)	1 (1%)	1 (1%)	67 (100%)

①パネルディスカッション「災害時の情報共有会議について」



①パネルディスカッション	件数	割合
とても良い	17	25%
良い	21	31%
どちらでもない	15	22%
あまり良くなかった	10	15%
良くなかった	0	0%
無回答	4	6%

◆主な理由

【とても良い】

- ・ 全体に行き届く支援を行うためには必ず必要なことであると感じた。
- ・ もうすこし時間をかけて聞きたかった。

【良い】

- ・ 大変参考になる内容でしたが、時間が短かったのが残念だった。
- ・ もう少し深く聞きたい。
- ・ 時間が少し短く、もう少し細かな話が聞けたらよかった。
- ・ 分野ごとに発表したもので、各々の時間が短く、内容を把握するのに十分ではなかった。一つか二つの大きなテーマを取り上げ、それに対して意見を述べれば、もっとよかった。
- ・ 時間が短いと感じた。
- ・ とても勉強になりました。時間はもっとやってもいいかなと思った。
- ・ 分かりやすく情報提供してもらえたと思う。
- ・ 時間が短かったです。
- ・ それぞれの内容をもう少し詳しく聞く時間がほしかった。団体の固有の特徴などをもっと詳しく知りたかった。
- ・ 貴重な内容でしたので、もう少し時間をかけて聴講したかった。

- ・ 帰って資料を読み込みたい。
- ・ もう少し、一つひとつの話をじっくり聞きたい。
- ・ 内容が充実していました。もう少し具体的に話を聞きたかった。
- ・ 内容はよかったが、時間がタイトだったためじっくり聞けなかった。

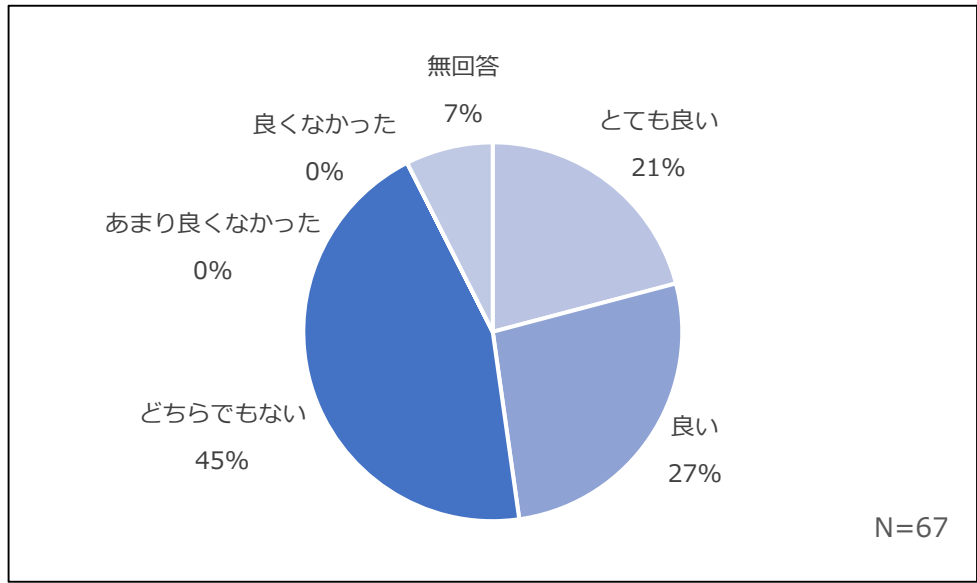
【どちらでもない】

- ・ 4人のパネリストの話をあの時間でまとめるのは無理があったと思う。内容は非常に役に立った。
- ・ もう少し時間をとって詳しく説明を聞きたかった。
- ・ できたこと+できなかったことをもっと聞きたかった。
- ・ 時間が短かった。
- ・ お話の内容はとても勉強になりましたが、講話の時間が短かったと思う。
- ・ もう少しゆっくり聞きたかった。
- ・ 時間が短い。
- ・ 時間が短すぎた。短いなりにポイントをはじめから話せるようにしておくべきだったのでは。

【あまり良くなかった】

- ・ それぞれの内容をもう少し詳しく聞く時間がほしかった。
- ・ 時間が短い。
- ・ 時間が短い。
- ・ もう少し詳しく問いたかった。
- ・ パネルディスカッションになっていなかったのが残念だ。情報提供の必要性は当然のこととしても、これだけのメンバーが集まり、かつ、鈴木まり子さんがコーディネーターをされていたわけですから、大変もったいないところと思っている。時間の使い方がそもそも無理なので厳しいだろうとは思いますが…。せめて15分のプレゼン×人数、そのうえでの1時間の議論くらいができればと思った。
- ・ 報告者を減らし、一人当たりの報告時間を増やすべき。
- ・ 一人ひとりの話が短い。いろはから、もっと詳しく知りたかった。
- ・ もう少し詳しく報告を受けたかった。
- ・ 絞ってお話しただけだが、もう少し詳しく、というのもある。人数を減らし、持ち時間を多くするのも一案かと思う。

②話題提供「静岡県の取組状況について」



②話題提供	件数	割合
とても良い	14	21%
良い	18	27%
どちらでもない	30	45%
あまり良くなかった	0	0%
良くなかった	0	0%
無回答	5	7%

◆主な理由

【とても良い】

- ・ 茶の国会議の紹介ありがとうございます。
- ・ 県の状況が把握できた。

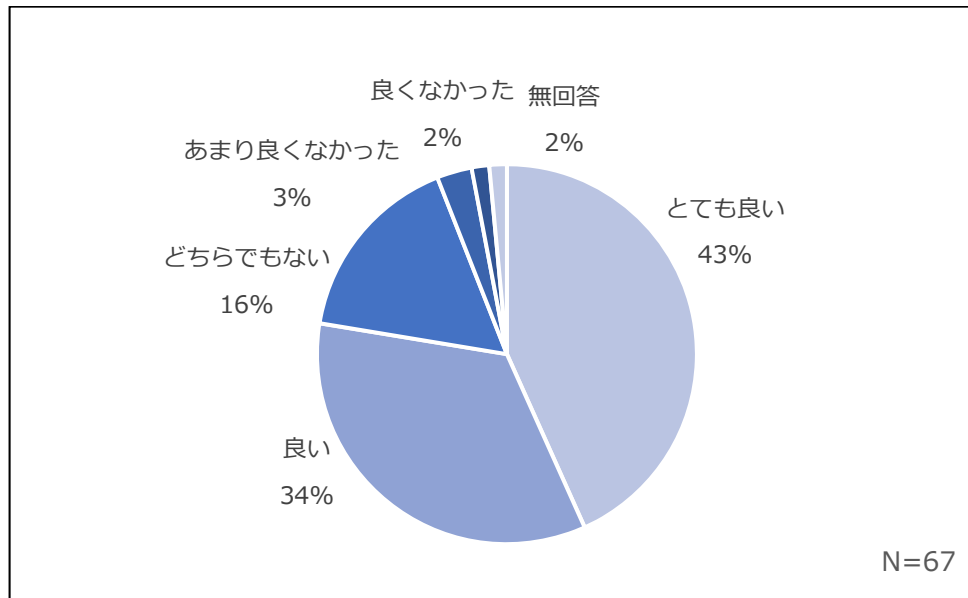
【良い】

- ・ 時間は短い。来年以降もこのような形で訓練を実施できるなら、宿題としてみる、とか、底上げを図ることが必要だと思った。
- ・ 連携についての考え方や取組状況がもっとあれば説明してほしかった。
- ・ 内容がわかりやすかった。
- ・ 最新の活動、取り組み状況を知ることができてとても勉強になった。
- ・ 様子がよく伝わりました。
- ・ 貴重な内容でしたので、もう少し時間をかけて聴講したかった。
- ・ 県の取り組みを聞いて状況が把握できた。
- ・ 内容も時間もちょうどよかった。

【どちらでもない】

- ・ 県での取り組み。
- ・ 分かっている話なので。
- ・ 県の取り組み状況がわかるのはよかったが、今後の方針等についても話してほしかった。
- ・ 東海地震対応から移行が明確ではない。
- ・ すべてが県がやっているように聞こえましたが、多くは社協やNPOがやっていることだろうか。
- ・ もっとゆっくり聞きたかった。
- ・ すでに存じ上げている内容だった。
- ・ 時間が短くてしっかりわからなかった。
- ・ まとめに書いてあるように、連携体制を県として実効性のあるものにしてほしい。

③演習「情報共有会議」



③演習	件数	割合
とても良い	29	43%
良い	23	34%
どちらでもない	11	16%
あまり良くなかった	2	3%
良くなかった	1	2%
無回答	1	2%

◆主な理由

【とても良い】

- ・ 情報共有会議を実演できること、良かったと思う。他の人の災害対応の話を聞いて参考になった。
- ・ 様々な機関の様々な立場での話を聞き、話し合いができて参考になった。
- ・ 他のグループも含め、多様な意見を聞くことができた。
- ・ 必要性を認識できた。
- ・ 短時間集中の為、意見がまとめやすかった。
- ・ 行政以外の方と話すことで、新しい気づきが生まれた。情報共有会議がどのようなものかイメージできた。
- ・ 普段つながりのないNPOのみなさんと会話できたのは非常に良かった。
- ・ 他機関の考え方、対応について意見を交わすことができた。このような機会は非常に有意義だった。
- ・ 立ち場の違う考え方が勉強できた。
- ・ やはり実践するとわかった気分になれる。
- ・ 行政に頼りがちなことも多いが、各団体の皆様と話し合い、各団体でできること等を明確にできることが分かった。
- ・ それぞれの考えが理解でき、今後の活動において大変役立つ機会となった。

【良い】

- ・ 時間が短かった。けれど、いろんな情報を知ることができ、参考になった。
- ・ 3つでなくて1つでよかったと思う。時間が足りない。
- ・ 行政、社協、NPO 団体といった多くの人たちの意見を聞くことができ、参考となる演習だった。
- ・ 会議の重要性、必要性を認識できた。
- ・ 話し合いでの発見、気づきがあった。
- ・ グループワークで様々な意見をいただけた。
- ・ 内容も良く、様々な視点を聞くことができたため。
- ・ 地域性を感じた。
- ・ 午前中の課題等の洗い出しの時間が短かったのも。

【どちらでもない】

- ・ 会議のための会議にならないか心配です。
- ・ スタンダードな例を挙げて、リーダーが仕切って一連の流れを認識させる時間があったほうがわかりやすいのではないかと感じた。
- ・ 時間が短い。

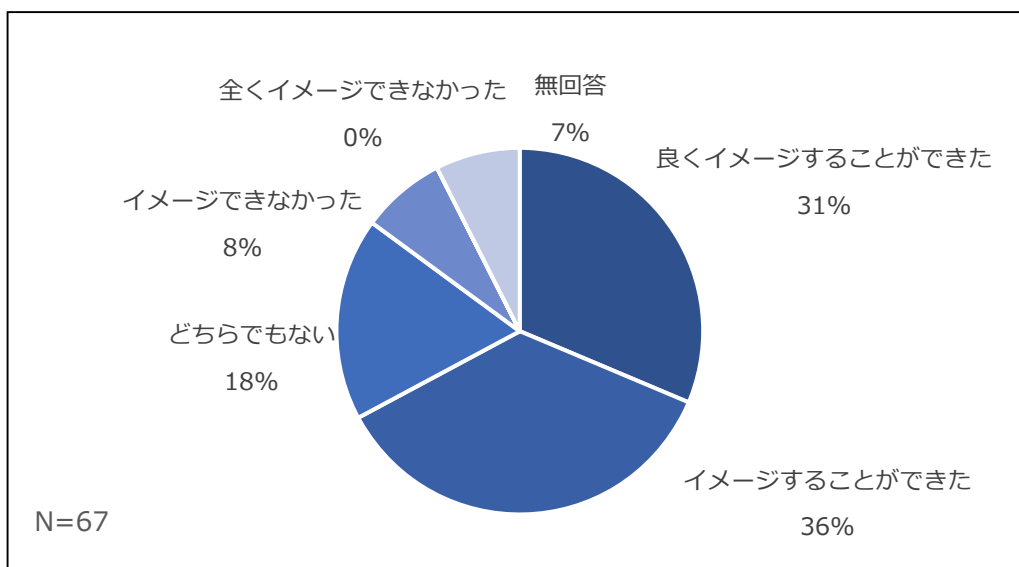
【あまり良くなかった】

- ・ 深堀にはならなかった。具体的な状況設定をするというのは集合型研究では難しいのだろうか。ビギナー向けプログラムとしては相応の完成度だと思うが、本気の議論をするにはかなりゆるいと言わなくてはならないと思う。皆さんはこの水準で満足なのだろうか。
- ・ 時間がせわしない。情報共有の方法は他にもあると感じた。その地区にあった方法でやれたらと感じる。

【良くなかった】

- ・ 行政と社協、NPO と一緒にお話しできたことはよかった。

問6 演習「情報共有会議」で、実際に情報共有会議をイメージすることができましたか。



問6. 演習	件数	割合
良くイメージできた	21	31%
イメージできた	24	36%
どちらでもない	12	18%
イメージできなかった	5	8%
全くイメージできなかった	0	0%
無回答	5	7%

◆主な理由

【良くイメージできた】

- ・ 困りごと、課題から丁寧に考えることができたので、会議をイメージしやすかったから。
- ・ 課題の抽出、共有、解決に向けた検討のプロセスを経験することができたため。
- ・ それぞれのできることがイメージできた。
- ・ 行政では思いもよらない意見が出たり、実際にも起こりうるだろうと思った。
- ・ 他市町・NPO・社協それぞれの意見が聞けたことにより、どんなことを議論していくべきかをイメージできた。

【イメージできた】

- ・ 実際に模擬として行うことでやり方等を理解することができた。日常からの連携が必要だと感じた。
- ・ 今日地元行政と出席しており、これをきっかけに情報提供ができそう。
- ・ 実際に発災したら参加者（私も）のメンタルも困りごとの多さも、それぞれが「大切」と感じることも、全く違うような気がする。解決に至らない課題も多いだろうと思う。
- ・ 実際に経験した話を多数聞いたので、今後の対応の参考になると思う。
- ・ それぞれのできることがイメージできた。各立場での意見を聞いて良かったです。情報共有会議は現場では必要であることがよくわかった。
- ・ 各団体からの視点での意見等を出していただくことで、役割の振り分けを具体的にを行うことができた。

- ・ 情報の共有は復旧を早めることが理解された。
- ・ 行政、社協に比べ、NPO 側の方の人数が少ないため、意見があまり出なかった。
- ・ 各機関の抱える悩みを共有することができた。
- ・ 被災経験がないため想像もできなかったが、イメージをつかむことができた。
- ・ 具体的な進め方を、演習を踏まえてできたのでわかりやすかった。
- ・ 足りない情報、必要な情報、共有、いろいろな話をすることができ、よいイメージを持つことができた。
- ・ うまくイメージできない人もいたようだった。

【どちらでもない】

- ・ 県内でもっと参加者が増えてほしい。
- ・ 実際の会議の状況についても、多くの情報が欲しかった。
- ・ 災害をイメージできる内容を。前もって体験していないとなかなかイメージできないと思う。
- ・ 話をするレベル感がグループ内で共有できなかった。
- ・ 実際はシビアなものになると思う。
- ・ 人員が少ないため、時間をとりながらできるか（休憩時間は取るべきであると思う）。

【イメージできなかった】

- ・ 数（人数、個数、個所数）と予算の議論まで踏み込まないと、具体的な議論にはならないと理解している。その意味で、空中戦（地に足のついていない議論）にとどまってしまったのが残念だった。これだけ多くの行政の方に参加していただいた分、もったいないことになってしまったと思う。
- ・ 難しい。同じ市町で固まったほうが良かったかもしれない。
- ・ 行政・NPO・社協それぞれの参加者から見た意見を聞けて良かった。

**問7 全体のプログラムを通じ、ご意見・ご感想等ございましたら、ご自由にお聞かせください。
(自由記述)。**

【よかった、勉強になった】

- ・ 三者がそろうこと自体には実はとても意義があり、この会が年間でもう1~2回あっても良い。
- ・ とても勉強になりました。こういった勉強会にまた参加したいと思った。
- ・ 大変良い機会をいただきありがとうございました。
- ・ 勉強になった。
- ・ 他市、NPOと三者で、それらの立場からできること、できないことの見方がわかり良かった。
- ・ 貴重な機会をありがとうございました。自施設の今後の活動に生かしていきたいと思った。
- ・ 情報の共有の大切さを改めて感じた。ありがとうございました。

【気づき、課題】

- ・ 被災市や被災社協も入った情報共有会議にしないとあまり意味がないと思う。外部支援者が集まる単なる「会議ごっこ」にならないようにしないといけないと思う。
- ・ もう少しボランティア団体の参加があったらよかったと思う。普段関わりがないNPOの人々と話し合いができたのはよかった。
- ・ ペットの問題は今後の課題である。

【研修内容への要望】

- ・ 図上訓練ではなかなか実現しない行政と机を同じにして考えることができてよかった。
- ・ 地域力としての自主防災組織の役割を入れたかった。
- ・ パネルディスカッションと演習の実施日は分割した方がよい。パネルディスカッション、はじめの話を良く知ったうえで演習をしたほうがより充実する。

【スケジュール】

- ・ 少しタイトでしたが勉強になった。ありがとうございました。
- ・ 貴重な講義が多数あったが、少し時間が短く感じた。
- ・ 全体的に時間が短かったのが残念だった。

【運営に対するご意見】

- ・ 発言中や、良い意見が出ているとき、ファシリテーターの方の声がけで流れが切れてしまったのが残念だった。時間を守ることも重要だが、出た意見は極力生かすというのもファシリテーターの大切なことだったと思う。タイミングや状況を考えてほしい。
- ・ 午前から午後の模造紙、ムダが多い。グループ変更に伴う付箋の引き継ぎ方は、要検討だと思った。ファシリテーターも入っているので、終了時間は守ってほしい。大変意義のある時間をありがとうございました。
- ・ いわば身内の方々ばかりの会でしたので(特に企画側、ダイナックスさん、日本ファシリテーション協会さん)、批判的なことは言いたくないが、でも、これだけのメンバーが集ったわりには、ちょっと寂しいなど思う。底上げプログラムは底上げプログラムとして別途計画するとして、今日のようなプログラムは、また別の形があるのでは?と思った。